

令和6年度
防災に関する県民意識調査報告書

三重県

目次

第1章 調査の概要	- 3 -
1 調査目的.....	- 3 -
2 調査方法.....	- 3 -
3 本報告書における結果数値等の取扱い.....	- 3 -
第2章 主な調査結果の概要と結果をふまえた今後の対応	- 4 -
(1) 地震・津波対策について.....	- 4 -
(2) 風水害対策について.....	- 4 -
(3) 災害時の情報について.....	- 6 -
(4) 避難場所・避難所について.....	- 8 -
(5) 日頃の防災対策について.....	- 9 -
(6) 消防団について.....	- 9 -
第3章 調査結果	- 11 -
(1) 回答者の属性.....	- 11 -
F 1 住所.....	- 11 -
F 2 性別.....	- 11 -
F 3 年齢.....	- 11 -
F 4 職業.....	- 12 -
F 5 家族構成.....	- 12 -
(2) 地震・津波対策について.....	- 13 -
問1 東日本大震災後の防災意識の移り変わり.....	- 13 -
問2 巨大地震発生時の避難先.....	- 15 -
問3 震度予測や津波浸水予測などの被害想定.....	- 17 -
問4 南海トラフ地震臨時情報の認知度（情報発表時点）.....	- 19 -
問5 南海トラフ地震臨時情報の認知度の変化（情報発表後）.....	- 21 -
問6 南海トラフ地震臨時情報の発表を受けた行動.....	- 23 -
(3) 風水害対策について.....	- 26 -
問7 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり.....	- 26 -
問8 風水害時の避難のタイミング.....	- 28 -
問9 風水害時の避難先.....	- 30 -
問10 自宅周辺の風水害の危険性の把握.....	- 32 -
問11 避難情報（警戒レベル）の認知度.....	- 34 -
問12 線状降水帯の認知度.....	- 36 -
(4) 災害時の情報について.....	- 38 -
問13・14 災害時の情報の入手先.....	- 38 -
問15 災害時に知りたい情報.....	- 45 -
問16 「防災みえ.jp」の認知度.....	- 47 -
問17 「防災みえ.jp」を活用しない理由.....	- 49 -
問18 避難場所や避難所の認知度.....	- 51 -
問19 避難場所や避難所を知った経緯.....	- 53 -
問20 避難経路の認知度.....	- 55 -
問21 避難所での生活において重視すること.....	- 57 -
(6) 日頃の防災対策について.....	- 62 -
問22 家庭での防災対策の状況.....	- 62 -
問23 日頃の防災対策についての身近な人との話し合いの状況.....	- 73 -

(7) 地域・職場での防災活動について.....	- 74 -
問 24 地域の防災活動への参加意識.....	- 74 -
問 25 地域や職場における防災活動への参加状況.....	- 76 -
問 26 地域の防災活動に参加したきっかけ.....	- 78 -
問 27 参加した防災活動の内容.....	- 81 -
問 28 参加したい防災活動.....	- 84 -
問 29 地域や職場で必要だと思う防災活動.....	- 87 -
問 30 企業・事業所に期待すること.....	- 91 -
(8) 消防団について.....	- 96 -
問 31 消防団活動の認知度.....	- 96 -
(9) 学校の防災教育について.....	- 101 -
問 33 学校で特に力を入れて取り組むべき防災教育.....	- 101 -
問 34 防災ノート等を活用した家庭での話し合いの状況.....	- 104 -
(10) あなたのお住まいの耐震化について.....	- 105 -
問 35 お住まいの状況.....	- 105 -
問 36 木造住宅の耐震化に向けた補助制度の認知度.....	- 105 -
問 37 ご自宅の耐震診断.....	- 106 -
問 38 耐震補強工事.....	- 106 -
問 39 耐震補強工事の内容.....	- 107 -
問 40 耐震補強工事の費用.....	- 107 -
問 41 耐震補強工事をしない理由.....	- 108 -
問 42 耐震補強工事が可能な自己負担額.....	- 108 -
問 43 一部のみの耐震補強や耐震シェルターによる補強の意思.....	- 109 -
○津波危険地域一覧.....	- 110 -
○令和6年度防災に関する県民意識調査 調査票.....	- 112 -

第1章 調査の概要

1 調査目的

県では、県民の皆さんの自然災害に対する備えの状況や防災に関する意識を把握し、県の防災・減災対策に活用するため、平成14年度から「防災に関する県民意識調査」を実施しています。

2 調査方法

- (1) 調査対象：県内全市町の18歳以上の5,000人
 - ・調査対象は、各市町の選挙人名簿から無作為抽出
 - ・各市町の対象者数は、市町別推計人口の比率を参考に割り当て
- (2) 調査方法：調査票を郵送（回答は郵送方式とWeb方式を併用）
- (3) 調査期間：令和6年9月30日から令和6年10月18日まで
- (4) 回答率：55.3%（2,766人／5,000人）
- (5) 設問数：43問
- (6) クロス集計の方法：
 - ・年齢別（10～20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上）
 - ・地域別（北勢地域、中南勢地域、伊勢志摩地域、伊賀地域、東紀州地域）
 - ※地震に関する設問については津波危険地域にも着目して分析
 - ・一部の設問で性別、同居家族の中の要配慮者の有無、地震や風水害に対する防災意識との関係に着目して分析

津波危険地域について

県が公表した津波浸水予測図により浸水が想定される沿岸部の地域を「津波危険地域」として分類し、伊勢市以北（桑名市、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、木曾岬町、朝日町、川越町、明和町）と鳥羽市以南（鳥羽市、志摩市、尾鷲市、熊野市、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町）に分けて分析

3 本報告書における結果数値等の取扱い

- (1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するものすべてを選択する回答）があり、複数回答の場合は、その質問項目に「(複数回答)」と表記しています。
- (2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント（%）値で表記しています。（%値の母数は、その質問項目の該当標本数（有効回答数））
- (3) %値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。したがって、合計が必ずしも100%とならない場合（99.9%または100.1%など）があります。同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合があります。
- (4) 図中の「n」は、各設問の有効回答数を表しています。

第2章 主な調査結果の概要と結果をふまえた今後の対応

(1) 地震・津波対策について

東日本大震災後の防災意識の移り変わり【問1】

- 地震に対する防災意識について、「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合が昨年度から大きく増加しています。
- どの地域・年代においても、約5割の方が「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えています。

巨大地震発生時の避難先【問2】

- 巨大地震発生時の避難先として、「緊急避難場所、避難所」、「自宅（在宅避難）」と答えた方の割合が高くなっています。
- 県内全域の津波危険地域において、「緊急避難場所、避難所」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。

南海トラフ地震臨時情報の認知度（情報発表時点）【問4】

- 南海トラフ地震臨時情報について、「名称は知っていたが、具体的な内容は知らなかった」と答えた方の割合が昨年度から増加しています。
- 7割以上の方が、具体的な内容は知らなかったと答えています。
- 東紀州地域、鳥羽市以南の津波危険地域において、「具体的な内容を知っていた」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。
- 40歳代以下の層で「名称も具体的な内容も知らなかった」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

南海トラフ地震臨時情報の認知度の変化（情報発表後）【問5】

- 南海トラフ地震臨時情報の具体的な内容を知らなかった方のうち、約5割の方が8月8日の臨時情報の発表を受けて、「具体的な内容がわかった」と答えています。
- 年齢が低いほど臨時情報の発表を受けて、「具体的な内容がわかった」と答えた方の割合が高く、年齢が高いほど「情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

(2) 風水害対策について

紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり【問7】

- 風水害に対する防災意識について、近年頻発する風水害により高まった」と答えた方の割合が、昨年度から大きく増加しています。
- 地域別では東紀州地域で防災意識が高く、年代別ではどの年代においても、約5割の方が「近年頻発する風水害により、防災意識が高まった」と答えています。

風水害時の避難のタイミング【問8】

- 風水害時の避難のタイミングについて、「避難情報が発令されたとき」、「気象情報が発表されたとき」、「浸水や土砂崩れなどが発生したとき」と答えた方の割合が高くなっています。
- 東紀州地域において、避難情報が発令されるよりも早い段階で避難すると答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。

<調査結果をふまえた今後の対応>

◆防災意識の向上について

能登半島地震や奥能登豪雨、南海トラフ地震臨時情報の発表や台風第10号など、令和6年に各地で発生した大規模災害等により、地震や風水害に対する県民の皆さんの防災意識が高まっています。この意識を高い水準で維持していただき、日頃の防災対策や家庭での備えに生かしていただく必要があります。

このことから、県が行う防災啓発イベントやシンポジウム等において、近年の災害事例をテーマとするなど、防災・減災の取組をより身近に感じていただけるよう工夫します。

また、イベント等に参加する方の年齢層や開催する地域の災害リスクに応じて、特に周知を図るべき内容や興味・関心を持ってもらいやすい実施方法を検討するなど、より県民の皆さんの防災意識向上につながるものとなるよう努めます。

さらに、教育委員会とも連携しながら、防災訓練や防災学習を取り入れた行事の実施等、家庭や地域と一体となった防災教育の取組を支援していきます。

◆地震に対する避難について

南海トラフ地震発生時には、津波による甚大な被害が想定されていることから、地震発生から津波到達までに時間的猶予がない市町が実施する津波避難タワーなどの津波避難施設や避難路等の整備について引き続き支援します。津波避難施設の整備については、新たに既存の施設の老朽化対策への支援を行います。

また、地震発生時には、どこにいても迅速に避難することが重要であるため、緊急避難場所や避難所の情報が入手できる防災アプリ「みえ防災ナビ」の普及啓発を行い、県民の皆さんや県内への旅行者の方などの適切な避難行動を促進します。

さらに、夜間時の地震発生など昼間より避難が困難な状況においても適切に避難できる地域づくりを進めるため、県防災技術指導員を派遣し、避難訓練など市町による夜間避難対策の取組を支援します。また、引き続き、市町が実施する避難行動要支援者の避難対策について支援します。

◆風水害に対する避難について

接近する台風や線状降水帯の発生などによる風水害から、適時・適切に避難することが重要です。

防災アプリ「みえ防災ナビ」では、避難路・避難所や非常用持ち出し品、避難すべきタイミングなどを確認できることから、アプリの普及啓発を行い、県民の皆さんや県内への旅行者の方などの適切な避難行動を促進します。

また、県民の皆さんの適時・適切な避難行動を促すための呼びかけについて、国が令和7年度に予定している防災気象情報の見直しの動向を注視しながら、より適切な方法を市町とともに検討していきます。

◆南海トラフ地震臨時情報について

今回の南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表を受け、臨時情報の認知度は向上していますが、回答者の約5割の方が「具体的な内容はわからなかった」、「発表されていたことを知らなかった」と回答していることから、臨時情報に関する認知度向上や発表時の正しい行動についての理解促進を図るため、防災啓発イベントや広報紙等を通じて県民への啓発に取り組みます。

また、今回の臨時情報発表を受けて講じた災害対応について、県庁各部局と各市町を対象とした調査を行い、対応状況や課題を確認するとともに、学識経験者の参加も得て市町と振り返りを行い、臨時情報への対応について検証を行い、検証結果をふまえた県地域防災計画や対応マニュアル等の修正を行いました。今後も、必要に応じ改善を行っていきます。

さらに、情報発信の内容をより明確でわかりやすいものとなるよう見直すなど、県だけでは対応することができない課題について、引き続き、国に対して提言を行います。

(3) 災害時の情報について

災害時の情報の入手先【問 13、14】

【現在利用している情報の入手先】

- 現在利用している災害時の情報の入手先について、「テレビ」、「携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）」、「市町の防災行政無線」と答えた方の割合が高くなっています。
- 年齢が高いほど「テレビ」、「ラジオ」、「新聞」、「市町の防災行政無線」、「携帯メール（防災みえメール配信サービス以外）」と答えた方の割合が高い傾向にあり、年齢が低いほど「SNS（県公式 SNS 以外）」、「家族から」、「友人、知人から」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 60 歳代、70 歳以上において「町内会・自治会を通じて」と答えた方の割合が、他の年齢より高くなっています。
- 70 歳以上において「防災アプリ」と答えた方の割合が、他の年齢より低くなっています。

【今後利用したい情報の入手先】

- 今後利用したい入手先についても「テレビ」、「携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）」、「市町の防災行政無線」と答えた方の割合が高くなっています。
- 年齢が高いほど「ラジオ」、「新聞」、「携帯メール（防災みえメール配信サービス以外）」、「町内会・自治会を通じて」と答えた方の割合が高い傾向にあり、年齢が低いほど「県公式 SNS」、「SNS（県公式 SNS 以外）」、「家族から」、「友人・知人から」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 70 歳以上において「防災アプリ」と答えた方の割合が他の年齢より低くなっています。

<調査結果をふまえた今後の対応>

◆防災情報の発信について

多くの方が災害時に知りたいと答えている「気象情報」、「地震に関する情報」等については、現在、県の防災ホームページ「防災みえ.jp」や防災みえメール配信サービスで提供しています。

また、令和6年度は、スマートフォンが有する現在地情報を活用して、現在地周辺や予め登録した地域の気象や防災情報及び避難情報が得られる県防災アプリ「みえ防災ナビ」を開発し、災害時の情報提供の強化を図りました。

年齢によって災害時の情報の入手先が異なることから、広報紙やホームページ、メール配信サービス、SNS、防災アプリ「みえ防災ナビ」など多様なツールを活用した情報発信を行うとともに、それぞれのツールを利用している方の年齢層も意識し、発信方法や内容を工夫するほか、目が見えない、見えにくい方に対して防災情報を届けるサービスを提供します。

また、「防災みえ.jp」のホームページをより分かりやすい構成に見直すとともに、スマートフォンでも使いやすいものとなるよう改善を図り、より多くの方にわかりやすい情報が届けられるよう取り組みます。

(4) 避難場所・避難所について

避難場所や避難所の認知度【問 18】

- 避難場所や避難経路について「避難場所も避難所も知っている」、「避難先は知っているが避難時場所と避難所の区別はわからない」と答えた方の割合が高くなっています。
- 鳥羽市以南の津波危険地域において、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が高くなっています。
- 年齢が高いほど「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が高く、年齢が低いほど「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

避難所での生活において重視すること【問 21】

- 避難所での生活において「トイレの確保」、「食料や飲料水の確保」、「プライバシーの確保」を重視すると答えた方の割合が高くなっています。
- 年齢が高いほど「トイレの確保」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 10～20 歳代において「通信環境の確保」、70 歳以上において「寝具の確保」と答えた方の割合が高くなっています。

<調査結果をふまえた今後の対応>

◆避難場所や避難所の情報提供について

避難場所や避難所に関するわかりやすい情報の提供が重要であることから、避難場所や避難所の情報が入手できる防災アプリ「みえ防災ナビ」の普及啓発を行うとともに、避難場所や避難所の周知にかかる市町の取組を財政的に支援します。

また、防災アプリ「みえ防災ナビ」では、外出先でも避難場所等の状況を確認できることから、こうした機能についても周知を行い、活用を促進します。

さらに、防災技術指導員による自治会等を行うタウンウォッチングの指導など、避難に関する技術的な支援も行っています。

◆避難所の環境改善について

能登半島地震の避難所運営支援活動を通じて得られた気づきやスフィア基準などをふまえ、「三重県避難所運営マニュアル策定指針」について女性、外国人、高齢者、障がい者など多様な避難者への対応に関する既存の項目の充実や、トイレや温かい食事、ベッド等の早期の確保の必要性などを盛り込んだ改定を行い、市町へ周知しました。

また、能登半島地震における気づきもふまえ、市町に対して避難所の環境改善のための資機材整備等に係る財政支援を行いました。また、避難所における非常用自家発電設備等で稼働する空調設備の整備についても支援を行いました。

今後は、能登半島地震や奥能登豪雨で明らかになった課題の解決に向け、新たに「いのちを守る防災・減災総合補助金」を創設し、市町が策定した計画に基づく避難所の環境改善や孤立地域対策の取組について強力に支援していきます。また、新たに避難所運営の課題を解決するために市町への専門家派遣を行います。

(5) 日頃の防災対策について

家庭での防災対策の状況【問 22】

- 家庭での防災対策について、「3日分以上の飲料水を備蓄している」、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」、「感染症対策に必要な物品を確保している」、「携帯電話やスマートフォン等の予備電源を確保している」、「3日分以上の食料を常に確保している」と答えた方の割合が高くなっています。
- 特に、「3日分以上の飲料水を備蓄している」、「3日分以上の食料を常に確保している」と答えた方の割合が昨年度から大きく増加しています。
- 地震や風水害に対する防災意識との関係を見ると、高い防災意識を持っている方ほど家庭での防災対策をよく行っている傾向にあります。

<調査結果をふまえた今後の対応>

◆日頃からの備えの啓発について

能登半島地震や奥能登豪雨、台風第10号を受け、県民の皆さんの日頃からの備えが進むとともに防災対策についての身近な人との話し合いの機会が増えています。

予期せぬ災害に対しても慌てずに避難等の行動ができるよう、引き続き、平時と非常時のフェーズを区別しないフェーズフリーの考え方やローリングストック法などを紹介しながら、日頃から無理せず防災に取り組んでいただく方法について、県等が行う研修や防災イベントなどを通じて周知していきます。

(6) 消防団について

消防団活動の認知度【問 31】

- 地域の消防団活動について約6割の方が「知っている」と回答しています。
- 東紀州地域において「知っている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。
- 10～20歳代、30歳代において、「知っている」と答えた方の割合が、他の年齢に比べて低くなっています。

消防団活動を知ったきっかけ【問 32】

- 消防団活動を知ったきっかけについて「自身や家族、知り合いが消防団に入っている」、「地域行事等の警備」、「行政機関による広報活動」と答えた方の割合が高くなっています。
- 年齢が低いほど「火災時の消火活動や風水害時の水防活動」、「地域行事等の警備」と答えた方の割合が低い傾向にあります。
- 各選択肢の10～20歳代、30歳代の割合が全般的に低い中、「地域行事等の警備」で消防団活動を知った方の割合は比較的高くなっています。

<調査結果をふまえた今後の対応>

◆消防団の認知度向上について

消防団員の確保に向けては、まずは消防団の活動を知っていただくことが重要ですが、お住まいの地域で消防団が活動していることを知らない方が3割以上となっています。

このような中、消防団活動を知ったきっかけについて、「自身や家族、知り合いが消防団に入っている」や「地域行事等の警備」と答えた方が多くなっているほか、「行政機関による広報活動」についても消防団活動の認知度向上に一定の成果が見られることをふまえ、県が行う防災啓発イベントや市町や消防本部と実施する「消防団入団促進キャンペーン」の場を活用し、消防団の啓発を行うなど、三重県消防協会と連携して、引き続き、消防団の認知度向上を図ります。

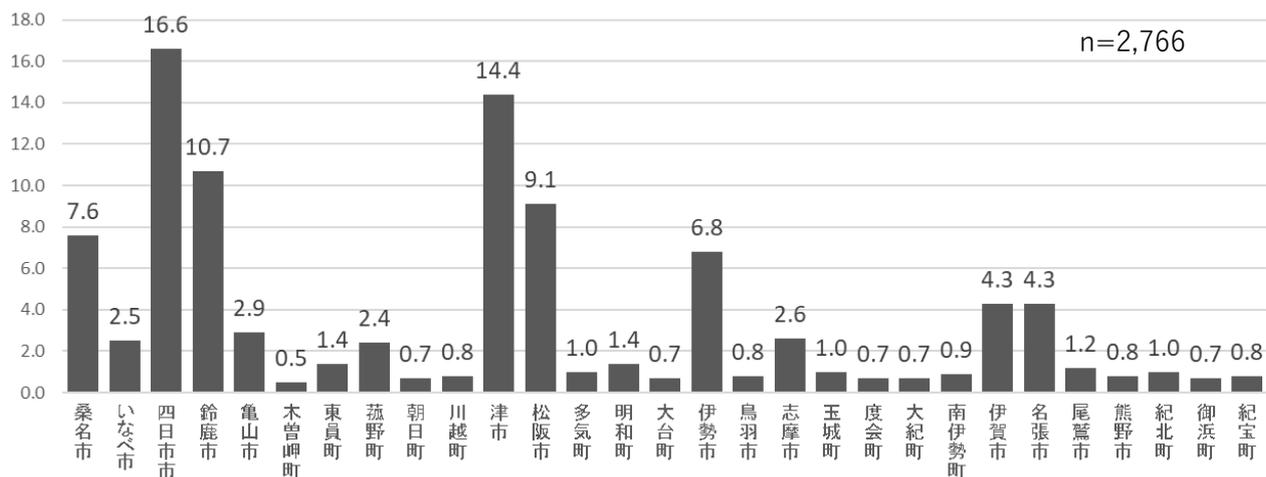
第3章 調査結果

(1) 回答者の属性

F 1 住所

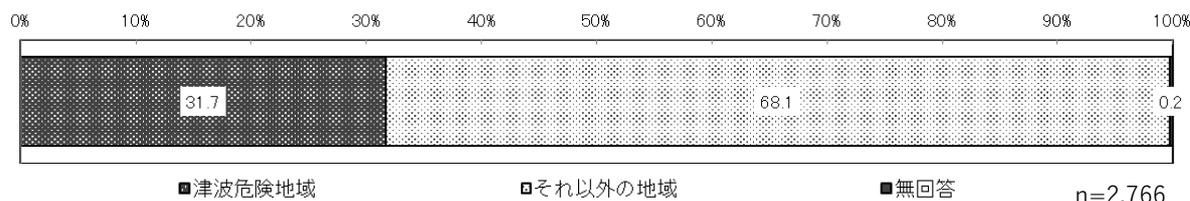
ご自宅のある市町をお答えください。

① 市町



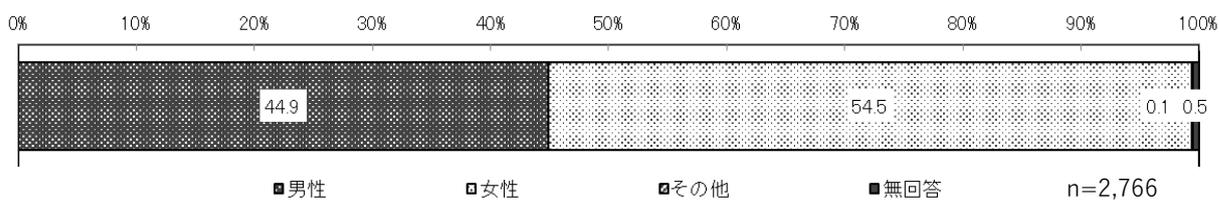
② 津波危険地域

※津波危険地域については 71 ページをご確認ください。



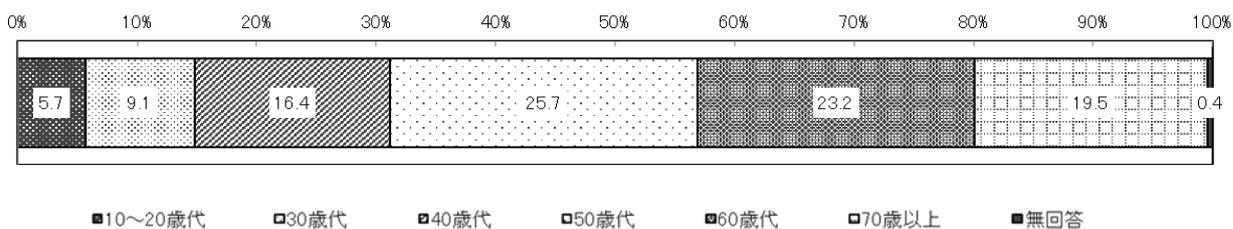
F 2 性別

あなたの性別をお答えください。



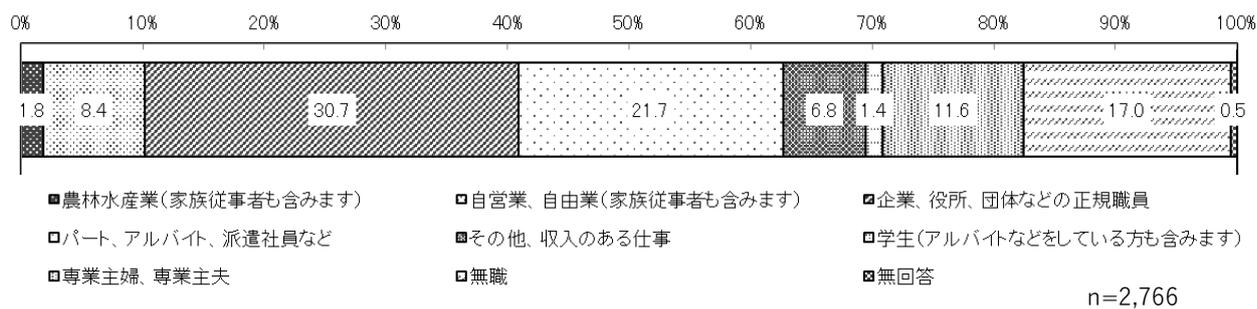
F 3 年齢

あなたの現在の年齢をお答えください。



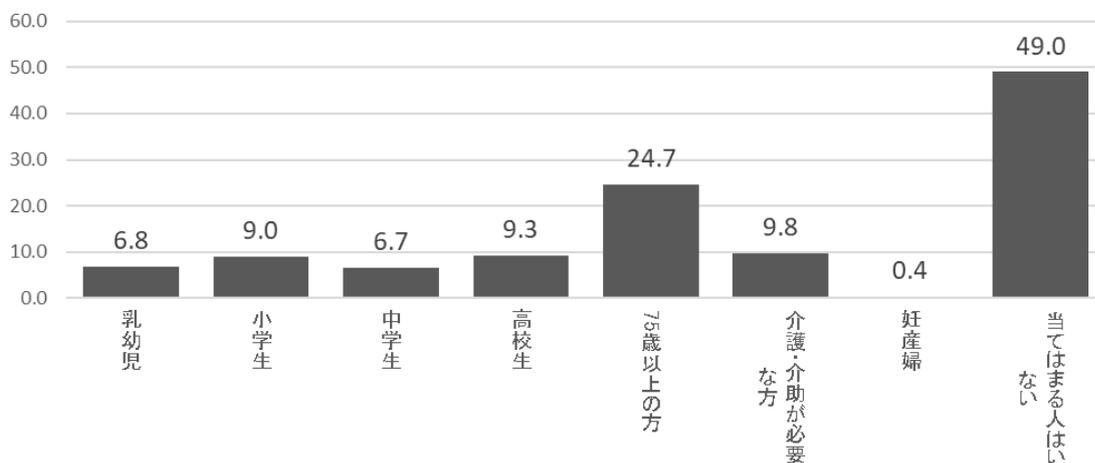
F 4 職業

あなたの主な職業は何ですか。



F 5 家族構成

あなたを含めた同居家族の中に、以下のような方はいらっしゃいますか。
(複数回答可)



(2) 地震・津波対策について

問1 東日本大震災後の防災意識の移り変わり

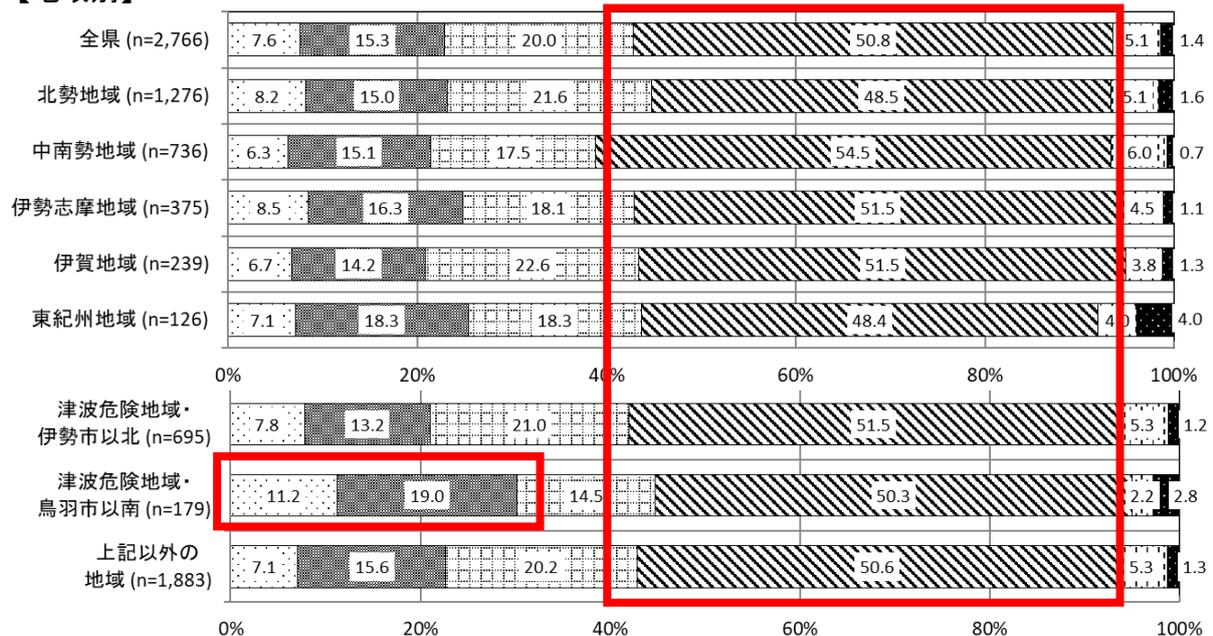
平成23年の東日本大震災の発生から13年が経過しましたが、あなたの地震に対する防災意識に変化はありますか。

	1	2	3	4	5
選択肢	東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している	東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)	東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある	東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった	東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった
R 6	7.6%	15.3%	20.0%	50.8%	5.1%
R 5	5.2%	13.5%	50.2%	23.9%	6.5%
R 4	5.7%	12.0%	51.5%	24.5%	4.4%

○ 東日本大震災発生後の防災意識について、「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合が50.8%と最も高くなっており、昨年度から26.9ポイント増加しています。

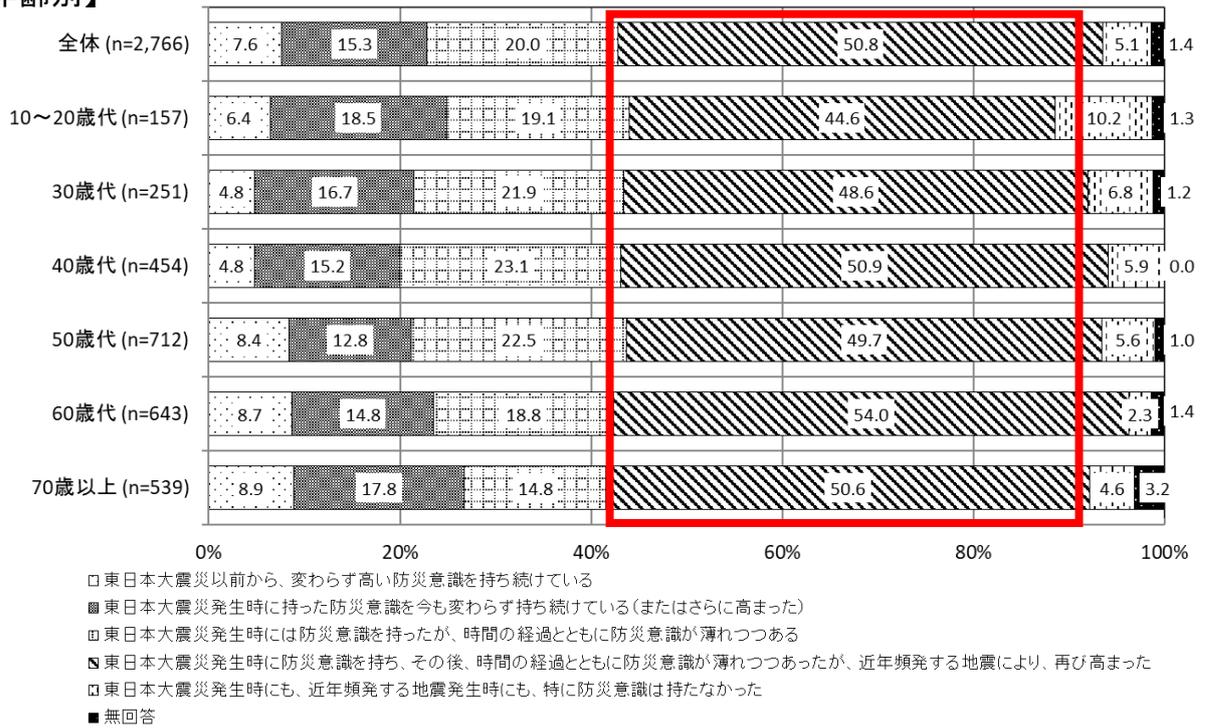
○ 一方で、「時間の経過とともに薄れつつある」と答えた方の割合が昨年度から30.2ポイント減少しています。

【地域別】



- 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している
- 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)
- ▣ 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- ▤ 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
- ▥ 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

【年齢別】



- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域において、地震に対して「高い防災意識を持ち続けている」(選択肢1, 2)と答えた方の割合が他の地域に比べて高くなっています。
- どの地域・年代においても、「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合が約5割と高くなっています。

問2 巨大地震発生時の避難先

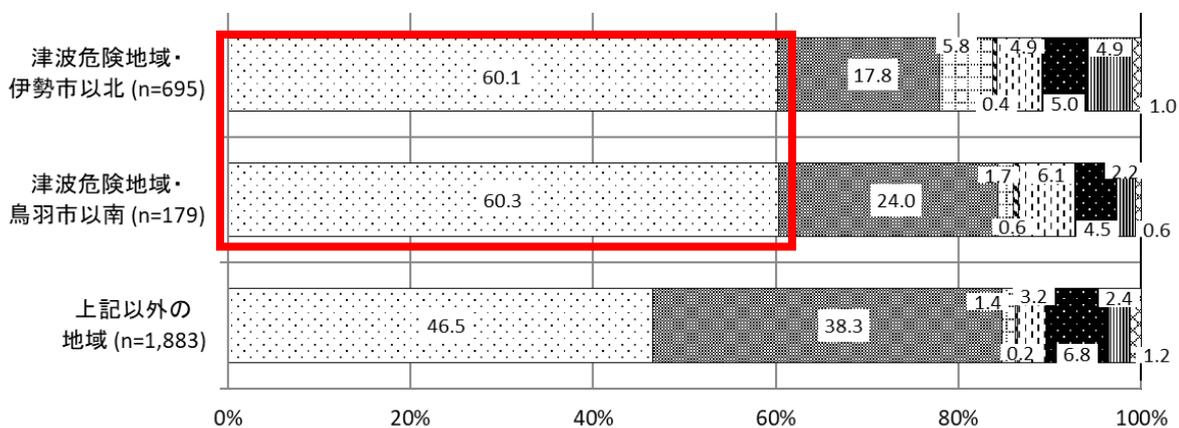
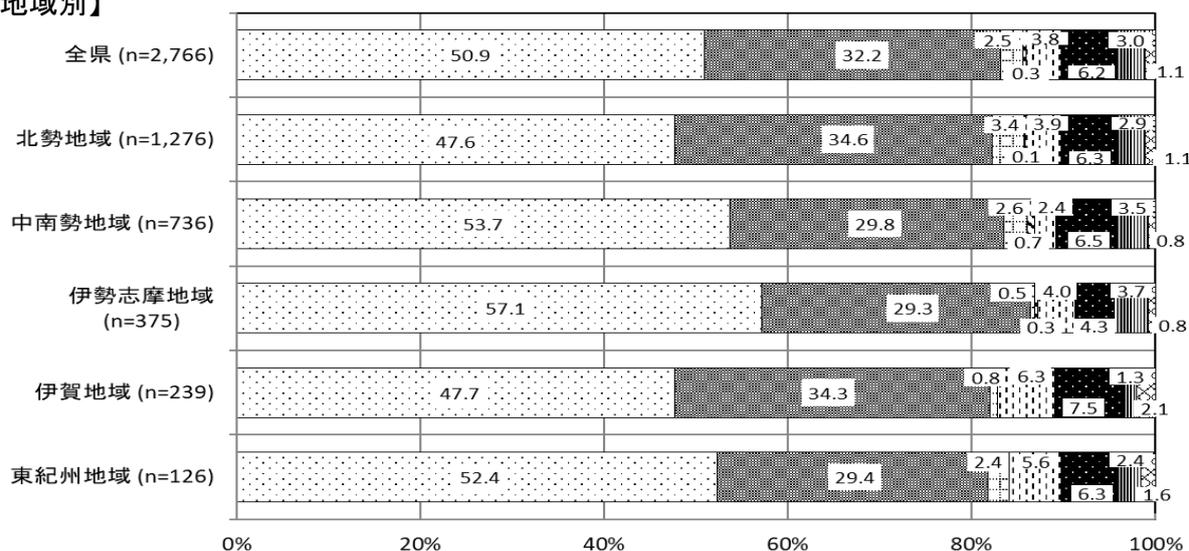
近い将来発生が危惧されている南海トラフ地震では、県内で最大震度7の揺れが想定されており、沿岸地域では津波による被害も想定されています。お住まいの地域で巨大地震が発生した場合、どこに避難することを考えていますか。

	1	2	3	4	5
選択肢	緊急避難場所、避難所	自宅(在宅避難)	親戚・知人宅	ホテル・旅館	車中泊避難
R 6	50.9%	32.2%	2.5%	0.3%	3.8%

	6	7
選択肢	特に考えていない	その他
R 6	6.2%	3.0%

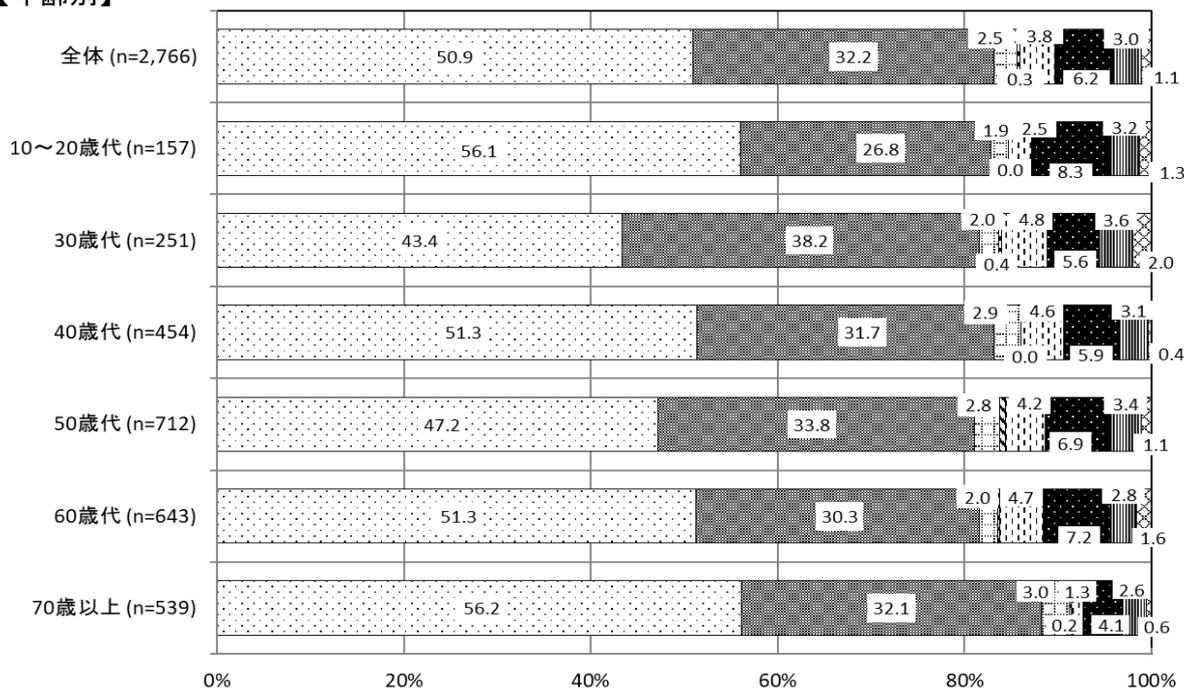
○ 巨大地震発生時の避難先として、「緊急避難場所、避難所」と答えた方の割合が 50.9%と最も高く、次いで「自宅(在宅避難)」(32.2%)の割合が高くなっています。

【地域別】



□緊急避難場所、避難所 ■自宅(在宅避難) □親戚・知人宅 ■ホテル・旅館 □車中泊避難 ■特に考えていない □その他 □無回答

【年齢別】



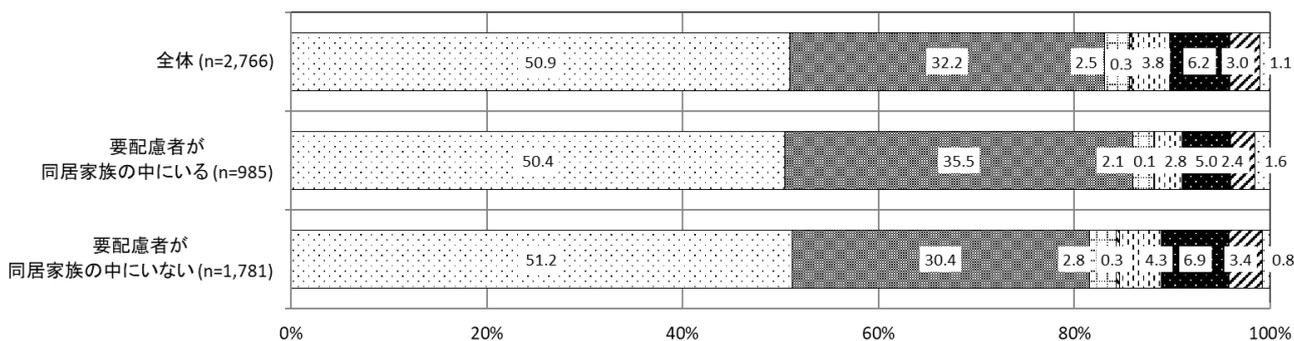
□緊急避難場所、避難所 ■自宅(在宅避難) □親戚・知人宅 ■ホテル・旅館 □車中泊避難 ■特に考えていない ■その他 □無回答

【同居家族の中の要配慮者*の有無】

※要配慮者とは

要配慮者とは、災害対策基本法第8条第2項第15号で「高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する者」とされています。

本調査では、「乳幼児、75歳以上の方、介護・介助が必要な方、妊産婦」を要配慮者として調査しています。



□緊急避難場所、避難所 ■自宅(在宅避難) □親戚・知人宅 ■ホテル・旅館 □車中泊避難 ■特に考えていない ■その他 □無回答

○ 地域別に見ると、県内全域の津波危険地域において、巨大地震発生時の避難先として「緊急避難場所、避難所」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。

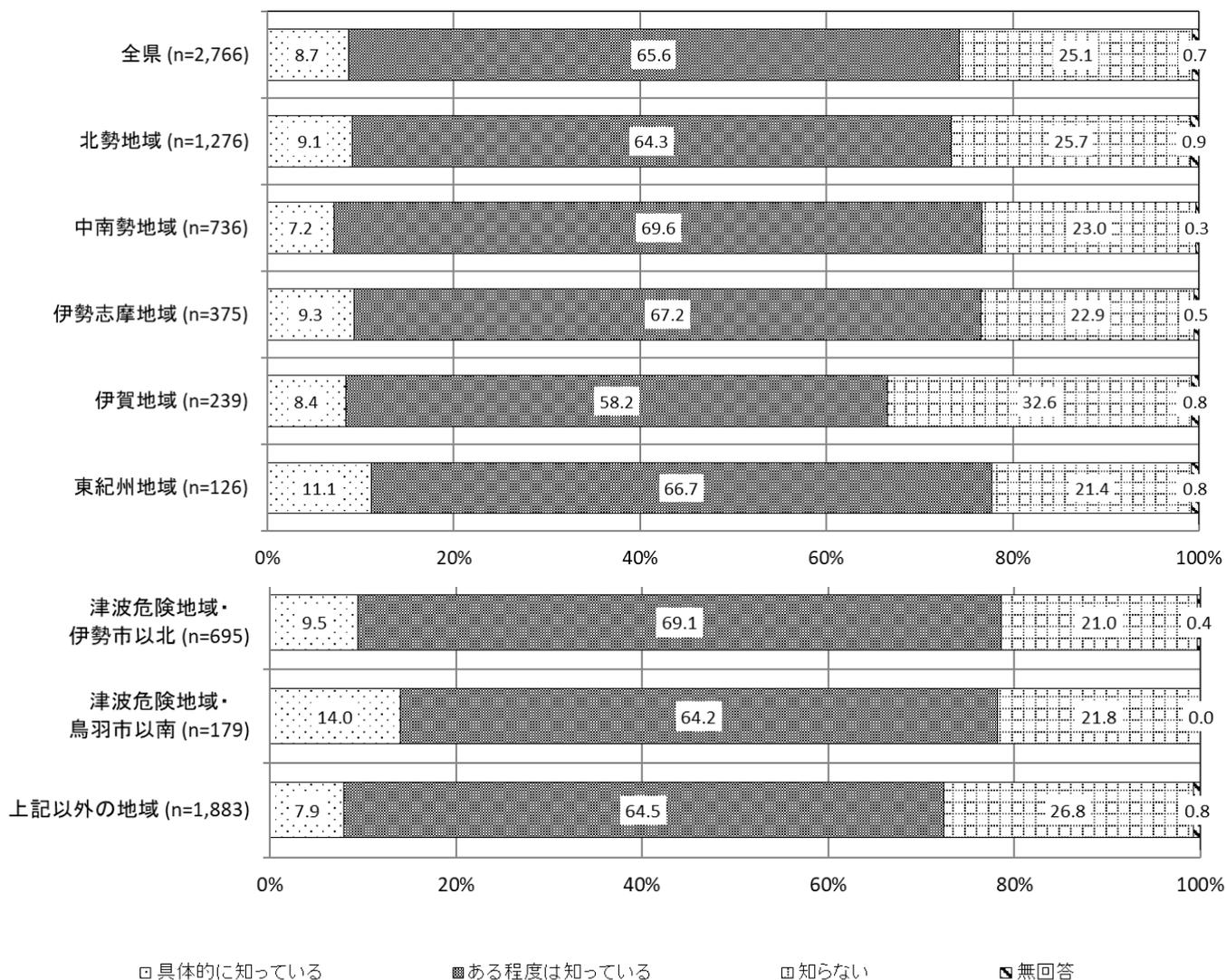
問3 震度予測や津波浸水予測などの被害想定

三重県では南海トラフ地震や内陸直下型地震が発生した際の地震被害想定調査の結果を公表していますが、お住いの地域における震度予測や津波浸水予測など被害想定を知っていますか。

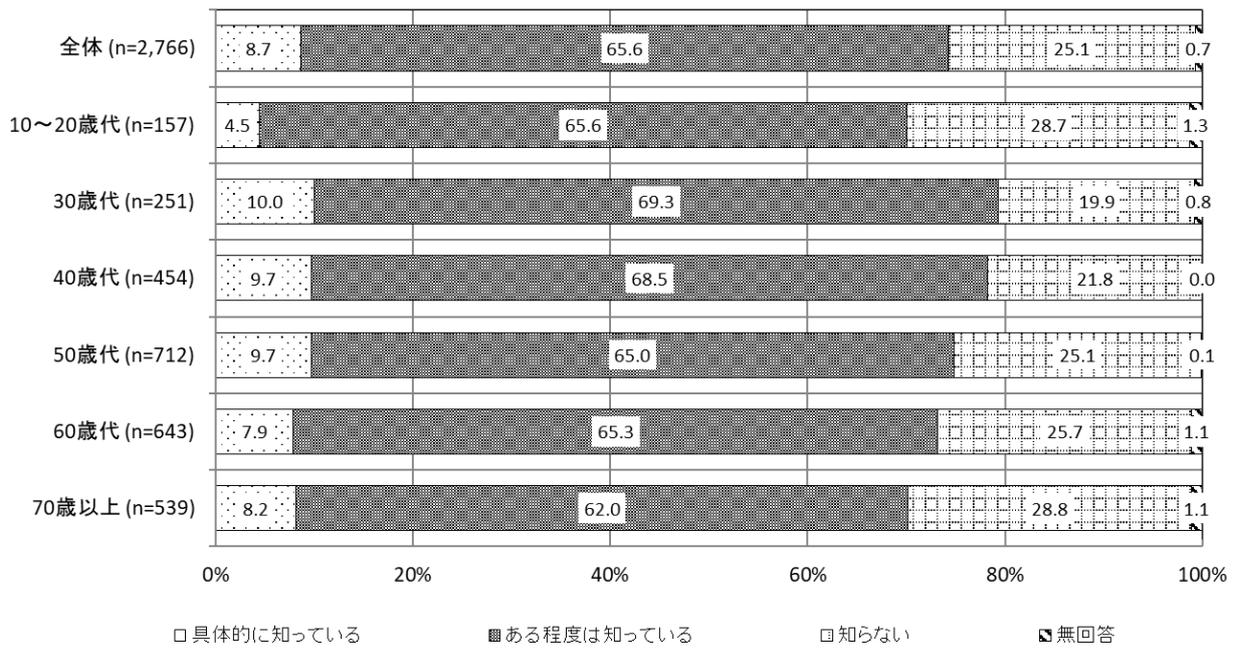
選択肢	1	2	3
	具体的に知っている	ある程度は知っている	知らない
R 6	8.7%	65.6%	25.1%
R 5	6.3%	63.9%	29.2%
R 4	5.7%	64.7%	27.3%

○ 震度予測や津波浸水予測などの被害想定について、74.3%の方が「具体的に知っている」、「ある程度は知っている」と答えている一方で、25.1%の方が「知らない」と答えています。

【地域別】



【年齢別】



○ 地域別、年齢別に見て大きな差はありません。

問4 南海トラフ地震臨時情報の認知度（情報発表時点）

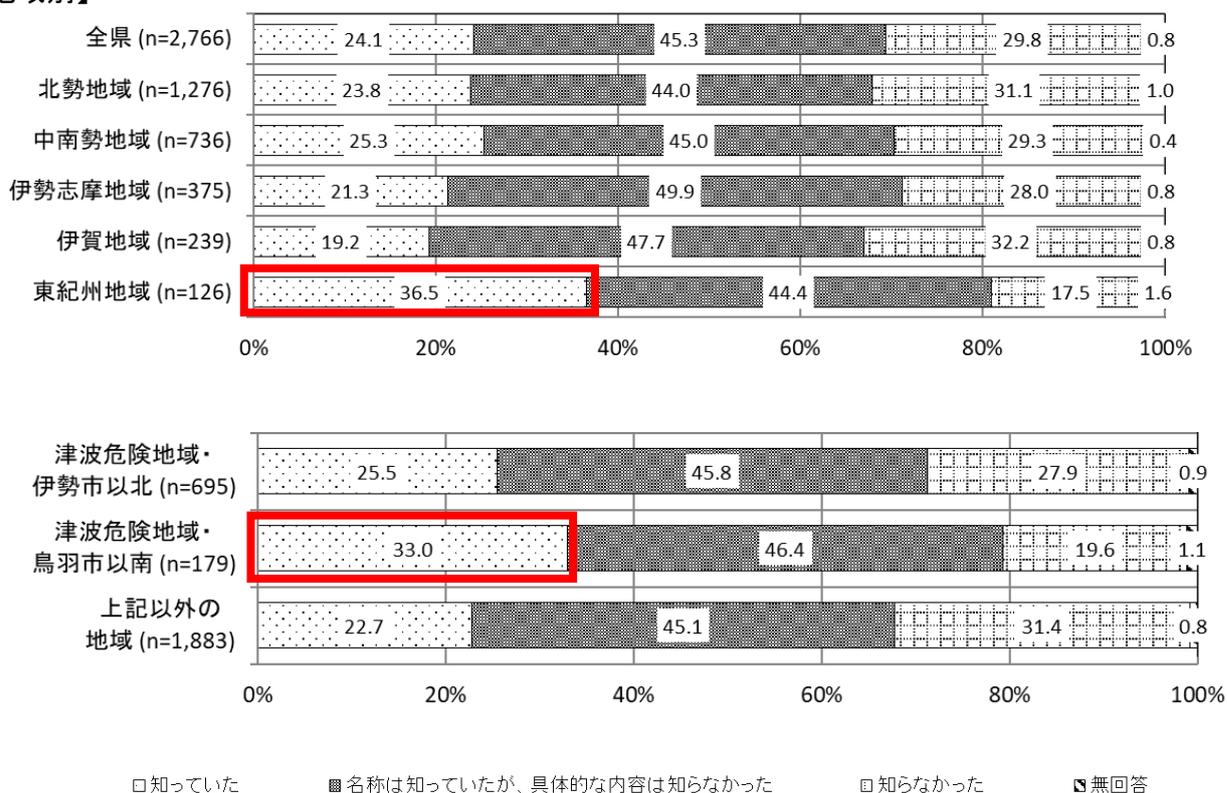
今年8月8日に「南海トラフ地震臨時情報」が発表されましたが、この情報が発表された際に、どのような行動をとるべきかなど具体的な内容を知っていましたか。

選択肢	1	2	3
	知っていた	名称は知っていたが、具体的な内容は知らなかった	知らなかった
R 6	24.1%	45.3%	29.8%
R 5 [※]	24.6%	36.2%	38.7%
R 4 [※]	23.2%	30.4%	43.5%

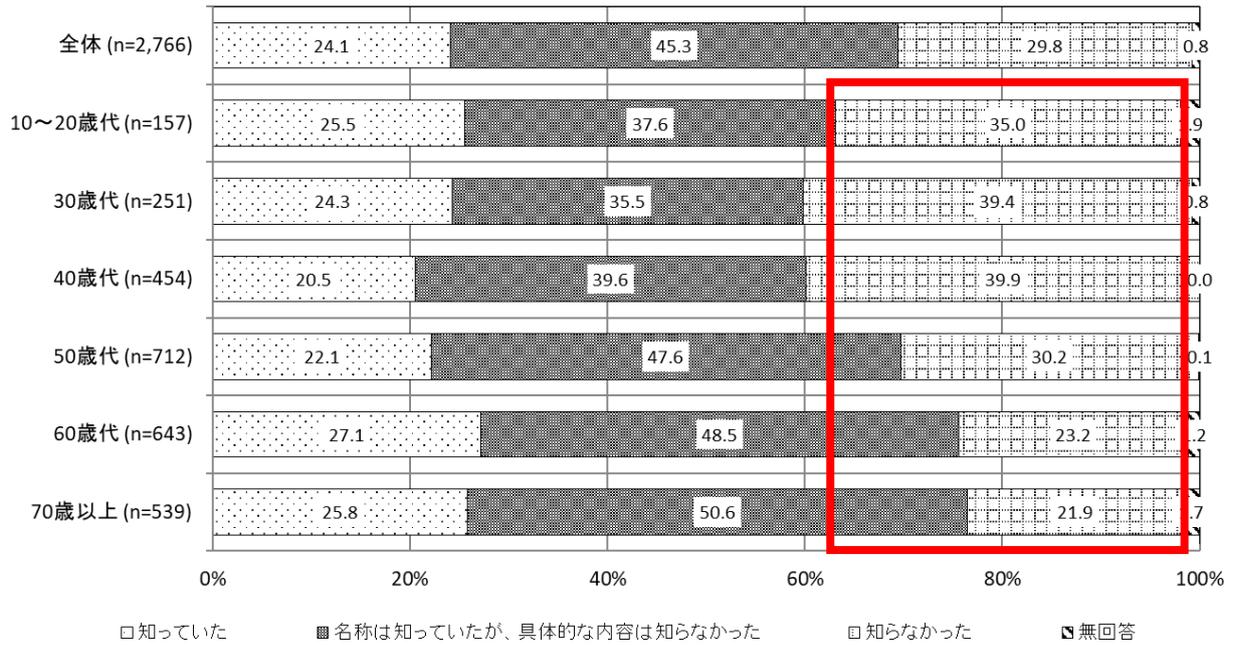
※令和5年度、4年度は「南海トラフ地震臨時情報について知っていますか。」という設問に対し、「知っている」、「名称は知っているが、具体的な内容は知らない」、「知らない」と答えた方の割合

- 南海トラフ地震臨時情報について、45.3%の方が「名称は知っていたが、具体的な内容は知らなかった」と答えており、昨年度から割合が増加しています。
- 一方で、依然として 75.1%の方が、南海トラフ地震臨時情報の具体的な内容は知らなかった（選択肢2,3）と答えています。

【地域別】



【年齢別】



- 地域別に見ると、東紀州地域、鳥羽市以南の津波危険地域において、「具体的な内容を知っていた」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、40歳代以下の層で「名称も具体的な内容も知らなかった」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

問5 南海トラフ地震臨時情報の認知度の変化（情報発表後）

問4で選択肢2または3と回答された方にお尋ねします。

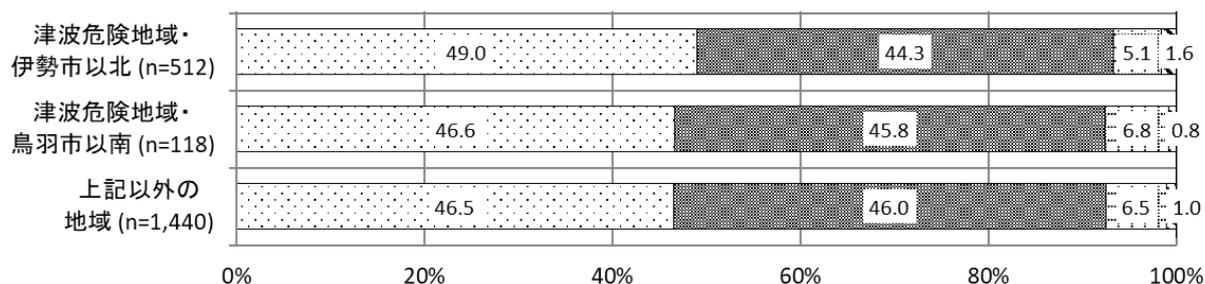
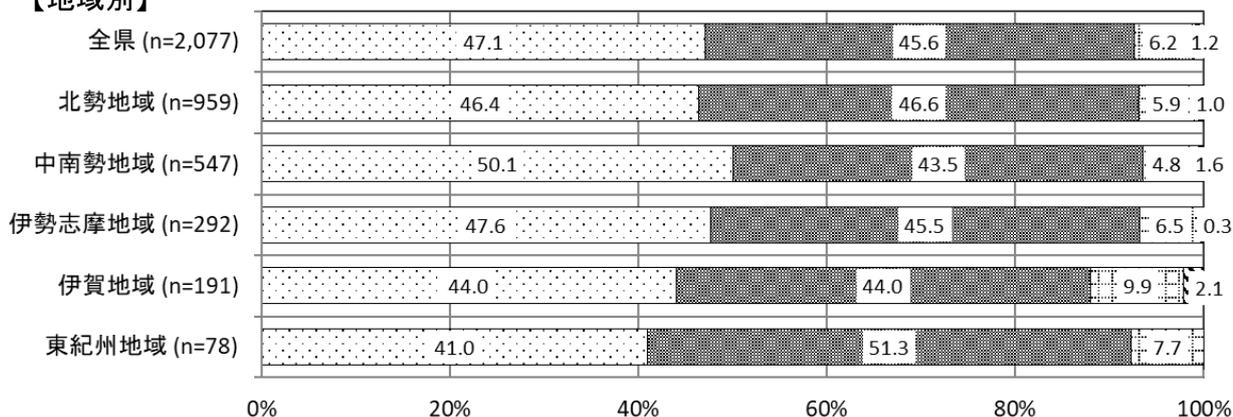
今回の南海トラフ地震臨時情報の発表以降、情報に対する認知度はどのように変わりましたか。

	1	2	3
選択肢	テレビや新聞、インターネットなどで得られた情報により、具体的な内容がわかった	テレビや新聞、インターネットなどで情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった	臨時情報が発表されていたことを知らなかった
R 6	47.1%	45.6%	6.2%

○ 南海トラフ地震臨時情報の具体的な内容を知らなかった方のうち、47.1%の方が8月8日の臨時情報の発表を受けて、「具体的な内容がわかった」と答えています。

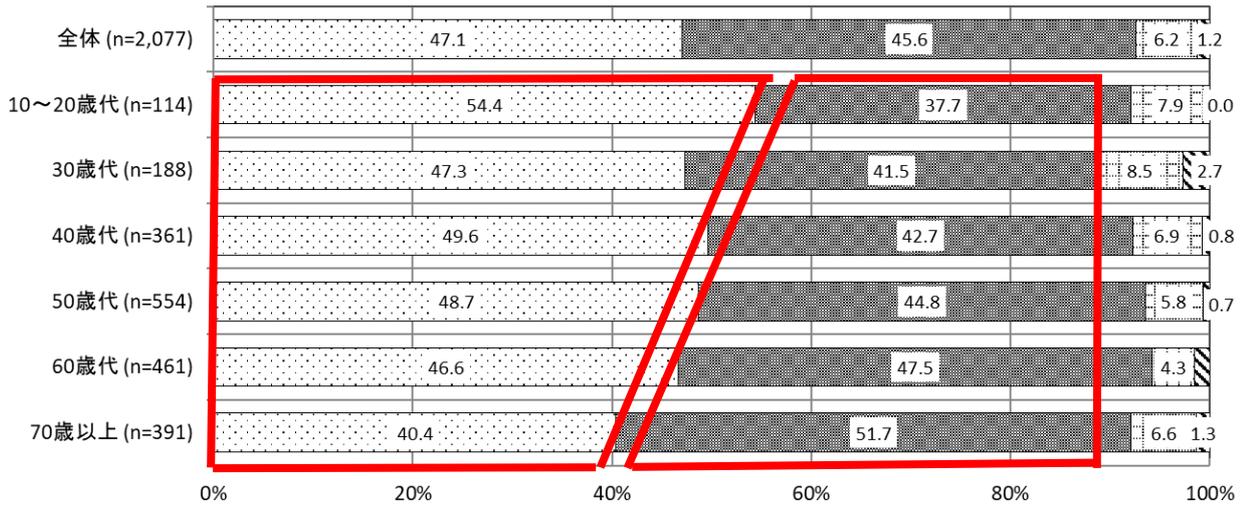
○ 一方で、45.6%の方が「情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった」と答えています。

【地域別】



- テレビや新聞、インターネットなどで得られた情報により、具体的な内容がわかった
- テレビや新聞、インターネットなどで情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった
- ▣ 臨時情報が発表されていたことを知らなかった
- 無回答

【年齢別】



- テレビや新聞、インターネットなどで得られた情報により、具体的な内容がわかった
- テレビや新聞、インターネットなどで情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった
- ▣ 臨時情報が発表されていたことを知らなかった
- 無回答

○年齢別に見ると、年齢が低いほど臨時情報の発表を受けて、「具体的な内容がわかった」と答えた方の割合が高く、年齢が高いほど「情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

問6 南海トラフ地震臨時情報の発表を受けた行動

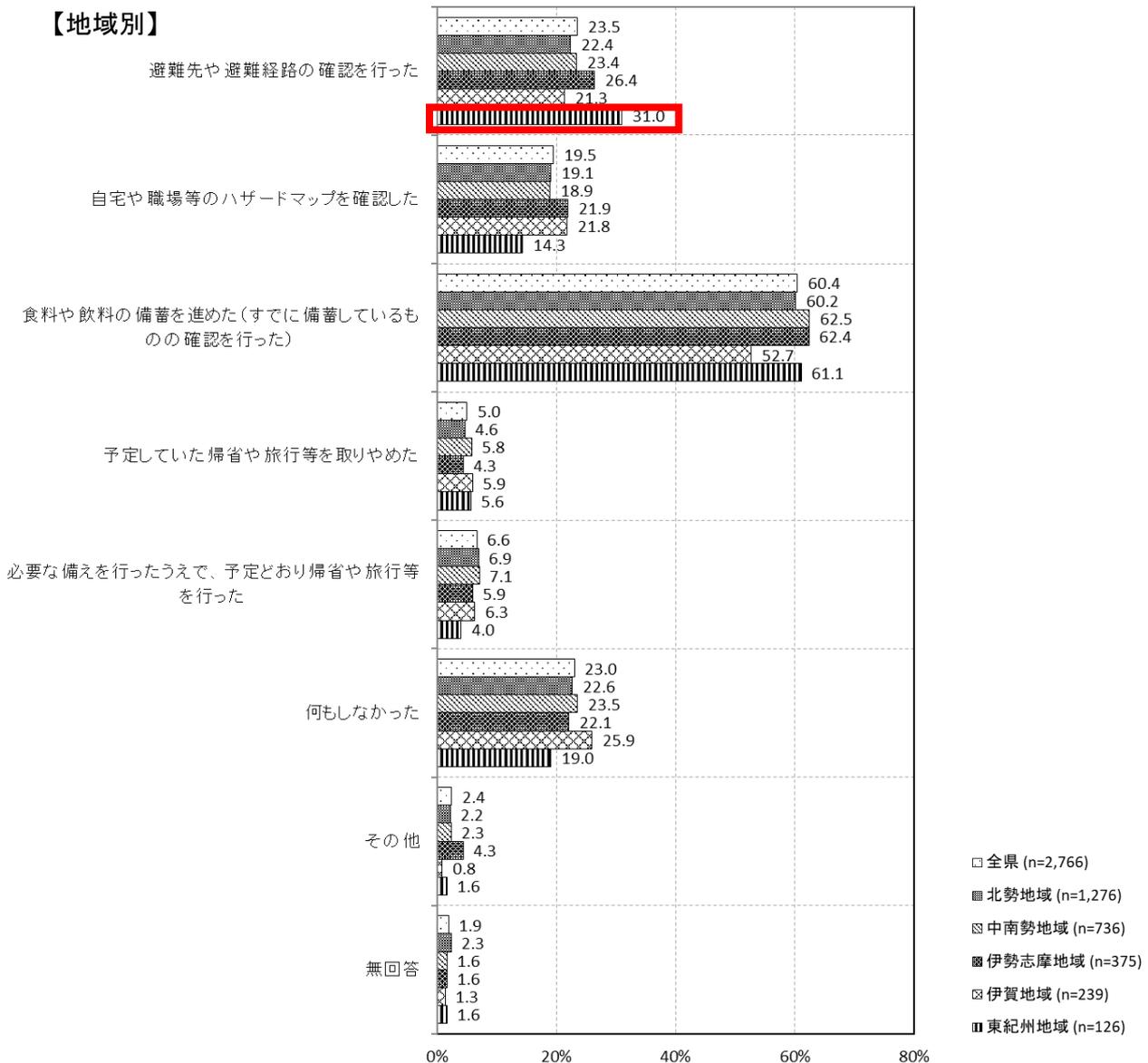
8月8日の「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」の発表を受けて、どのような行動をとりましたか。(複数回答可)

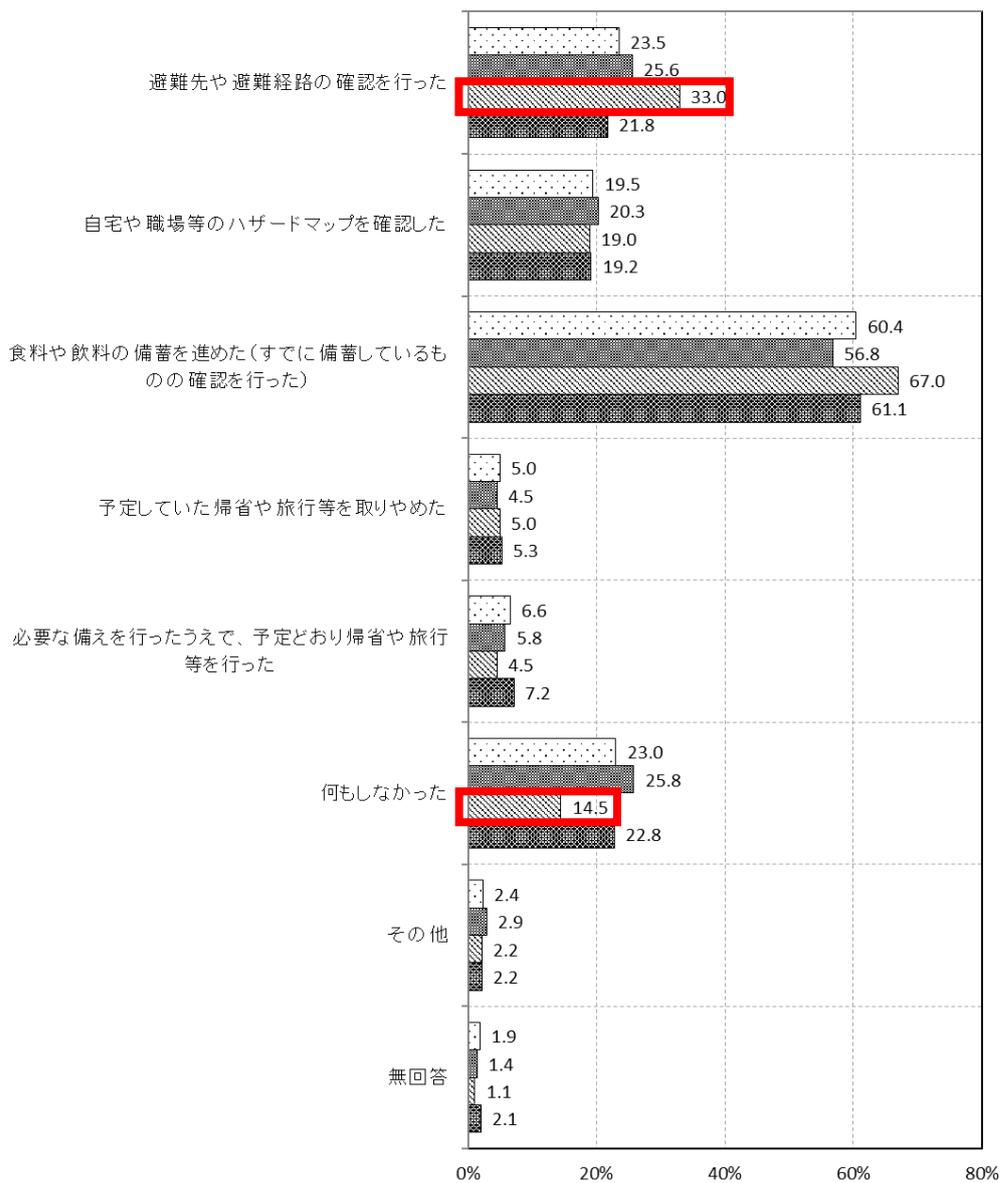
	1	2	3	4	5	6	7
選択肢	避難先や避難経路の確認を行った	自宅や職場等のハザードマップを確認した	食料や飲料の備蓄を進めた(すでに備蓄しているもの確認を行った)	予定していた帰省や旅行等を取りやめた	必要な備えを行ったうえで、予定どおり帰省や旅行等を行った	何もしなかった	その他
R 6	23.5%	19.5%	60.4%	5.0%	6.6%	23.0%	2.4%

○ 南海トラフ地震臨時情報の発表を受けて、「食料や飲料の備蓄を進めた」と答えた方の割合が60.4%と最も高く、「避難先や避難経路の確認を行った」が23.5%、「自宅や職場等のハザードマップを確認した」が19.5%となっています。

○ 一方で、23.0%の方が「何もしなかった」と答えています。

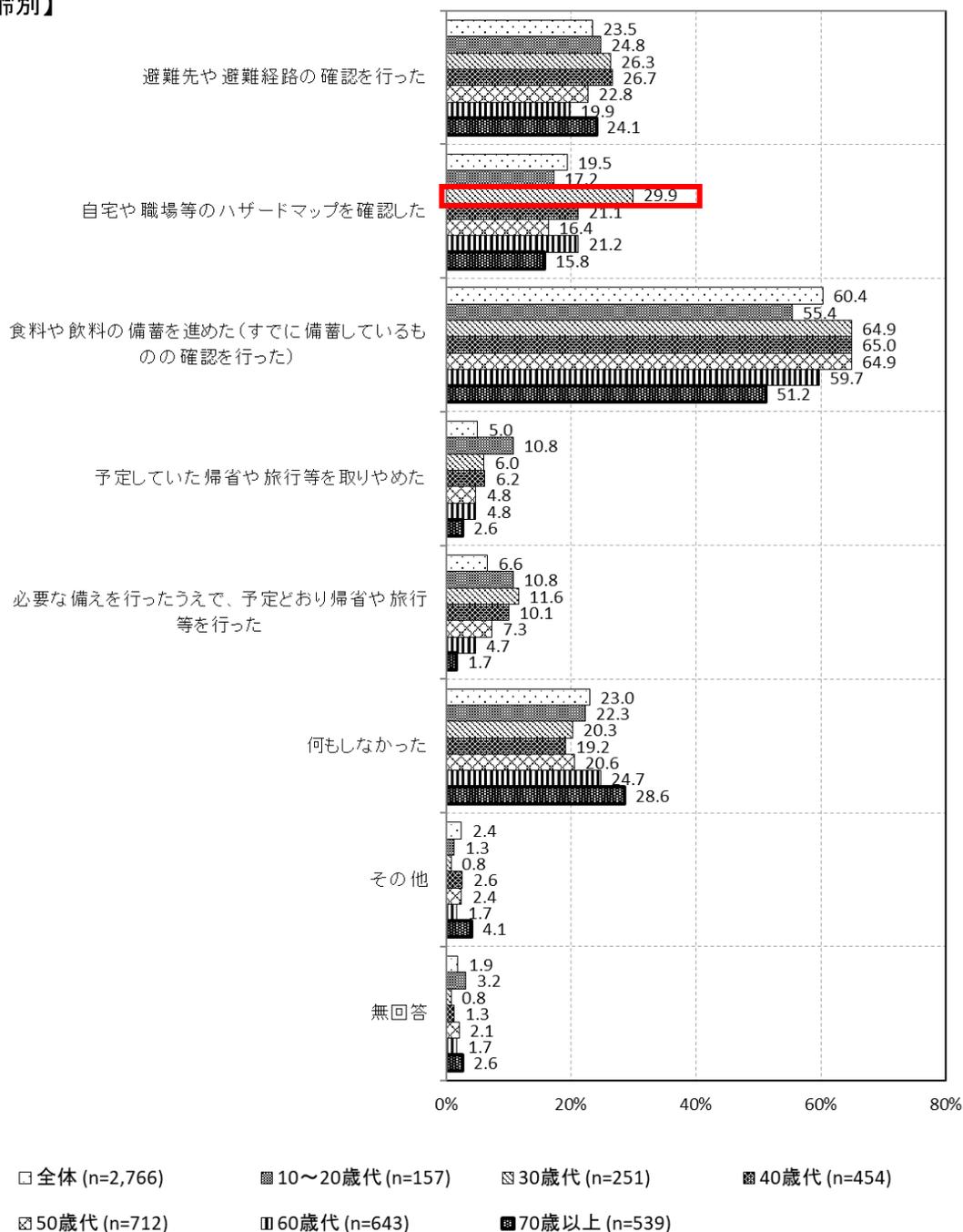
【地域別】





□ 全県 (n=2,766) ■ 津波危険地域・伊勢市以北 (n=695) ▨ 津波危険地域・鳥羽市以南 (n=179) ▩ 上記以外の地域 (n=1,883)

【年齢別】



- 地域別に見ると、東紀州地域において「避難先や避難経路の確認を行った」と答えた方の割合が他の地域に比べて高くなっています。
- 津波危険地域に着目すると、鳥羽市以南の津波危険地域において「避難先や避難経路の確認を行った」と答えた方の割合が他の地域より高く、「何もしなかった」と答えた方の割合が他の地域より低くなっています。
- 年齢別に見ると、30歳代において「自宅や職場等のハザードマップを確認した」と答えた方の割合が他の年齢より高くなっています。

(3) 風水害対策について

問7 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり

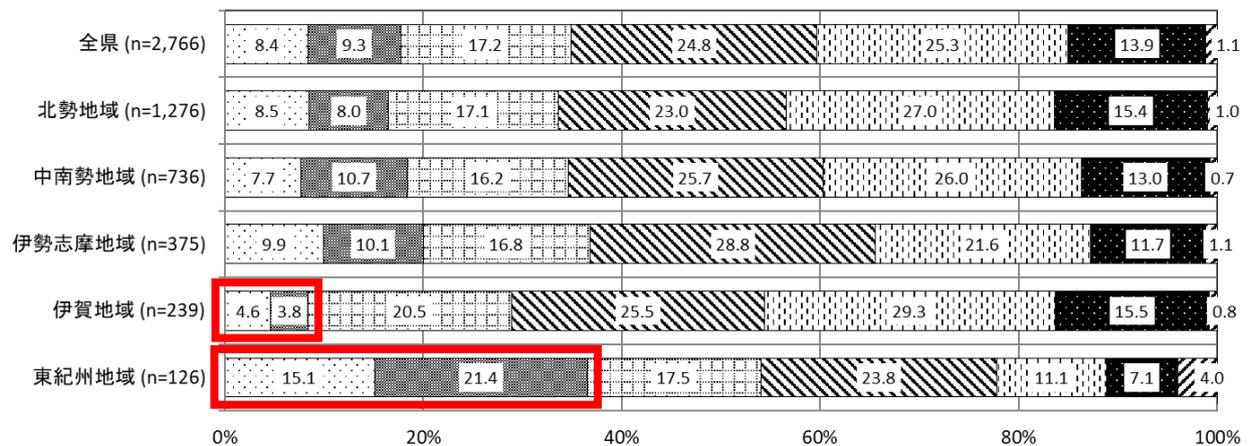
平成23年の紀伊半島大水害の発生から13年が経過しましたが、あなたの風水害に対する防災意識に変化はありますか。

	1	2	3	4	5	6
選択肢	紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている	紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)	紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある	紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった	紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていたが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。	紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
R 6	8.4%	9.3%	17.2%	24.8%	25.3%	13.9%
R 5	7.1%	8.7%	35.6%	17.2%	15.8%	14.2%
R 4	6.7%	7.3%	32.5%	17.0%	16.9%	14.3%

○ 紀伊半島大水害発生後の防災意識について、「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった」(24.8%)、「当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により高まった」(25.3%)と答えた方の割合が合わせて50.1%となっており、昨年度から17.1ポイント増加しています。

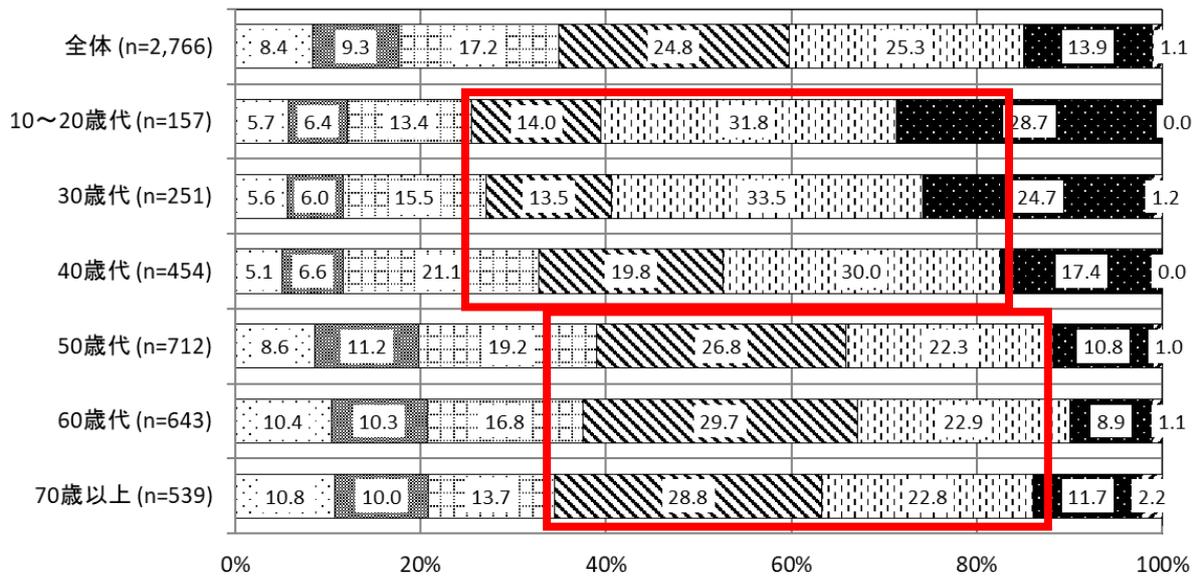
○ 一方で、「時間の経過とともに薄れつつある」と答えた方の割合が昨年度から18.4ポイント減少しています。

【地域別】



- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
- 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)
- ▨ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- ▩ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- ▧ 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった
- 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

【年齢別】



- 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している
- 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)
- 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
- ▨ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
- 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった
- 紀伊半島大水害当時も、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
- 無回答

- 地域別に見ると、風水害に対して「高い防災意識を維持している」(選択肢1, 2)と答えた方の割合が、東紀州地域において他の地域に比べて高くなっており、伊賀地域において他の地域に比べて低くなっています。
- 年齢別に見ると、10~20歳代、30歳代、40歳代において、「紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により高まった」と答えた方の割合が高く、50歳代、60歳代、70歳以上において、「時間の経過とともに薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった」と答えた方の割合が高くなっており、どの年代においても、「近年頻発する風水害により、防災意識が高まった」と答えた方の割合が高くなっています。

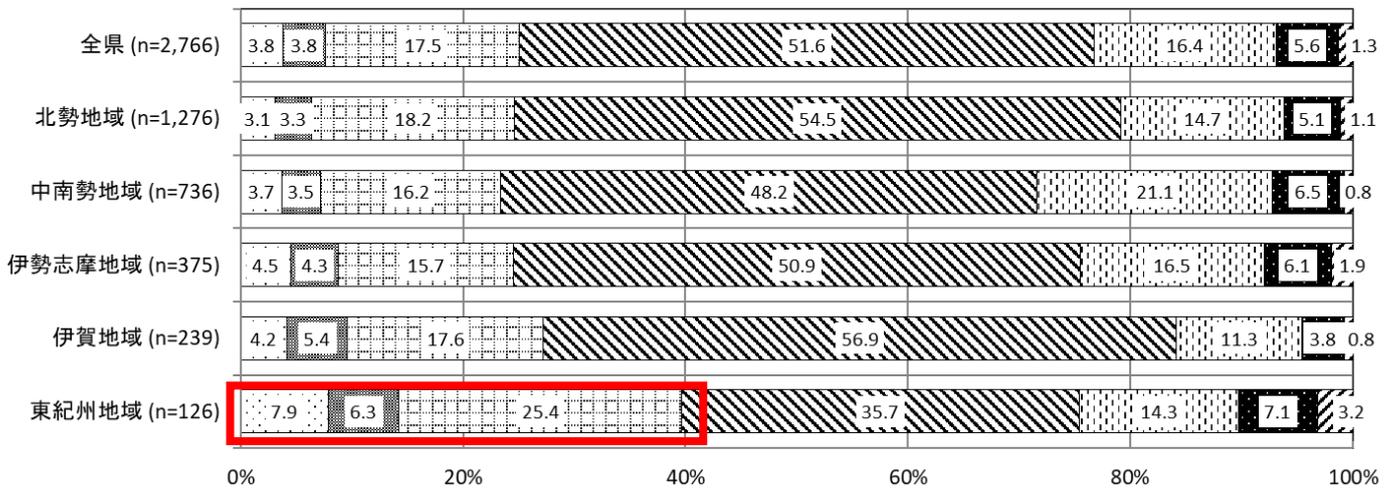
問8 風水害時の避難のタイミング

今年8月22日に発生した台風第10号の影響で、全国各地で大雨や暴風による被害が発生し、県内においても、特に中勢地域を中心に、記録的な大雨により浸水や河川の護岸損傷などの被害が発生しました。台風や大雨などによる風水害がお住まいの地域で発生、または発生が予想される場合、どのようなタイミングで避難しますか。

	1	2	3	4	5	6
選択肢	大雨や暴風が見込まれる段階で事前に避難しておく	警報や注意報などが発令されていなくても、大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき	台風情報や気象警報・注意報、土砂災害警戒情報などの気象情報が発表されたとき	避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されたとき	浸水や土砂崩れなどが発生したとき	その他
R6	3.8%	3.8%	17.5%	51.6%	16.4%	5.6%

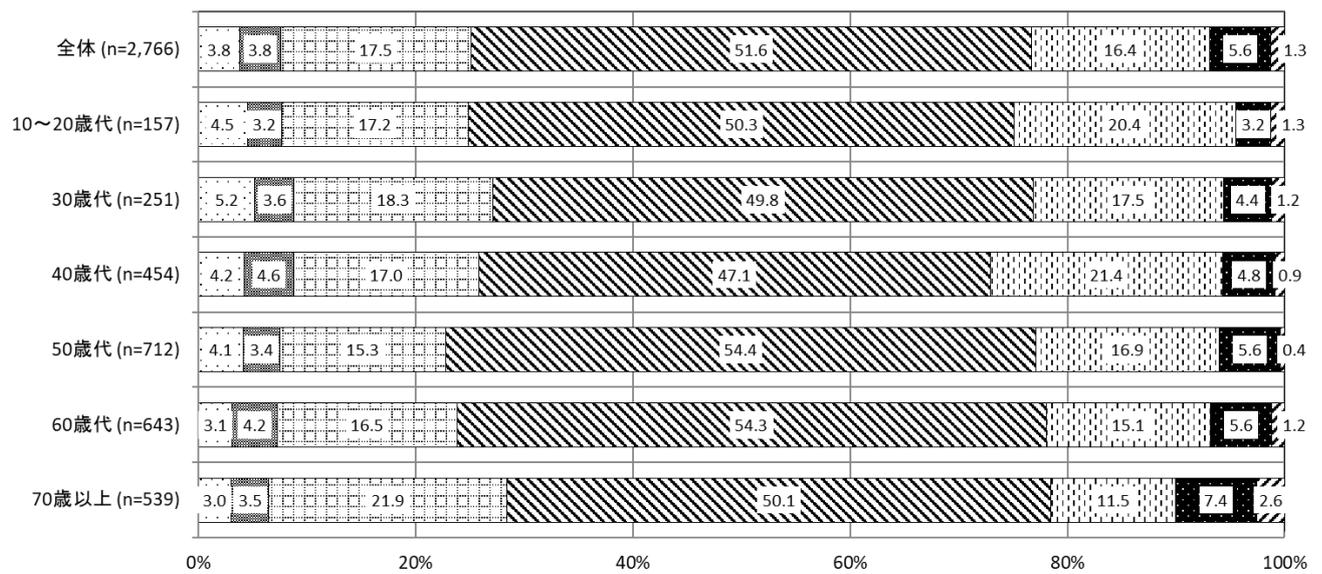
○風水害時の避難のタイミングについて、「避難情報が発令されたとき」と答えた方の割合が51.6%と最も高く、次いで、「気象情報が発表されたとき」(17.5%)、「浸水や土砂崩れなどが発生したとき」(16.4%)の割合が高くなっています。

【地域別】



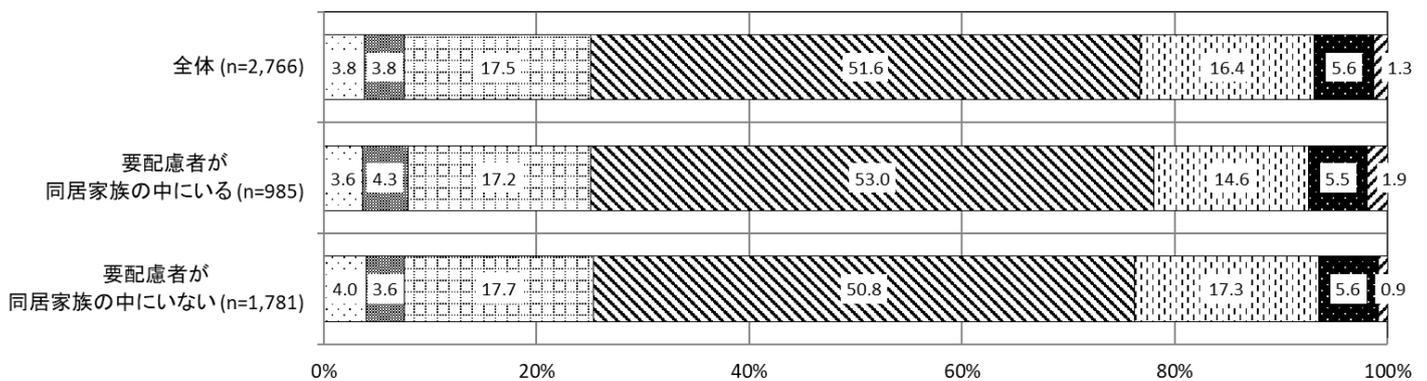
- 大雨や暴風が見込まれる段階で事前に避難しておく
- ▨ 警報や注意報などが発令されていなくても、大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき
- ▩ 台風情報や気象警報・注意報、土砂災害警戒情報などの気象情報が発表されたとき
- ▧ 避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されたとき
- ▤ 浸水や土砂崩れなどが発生したとき
- その他
- ▨ 無回答

【年齢別】



- 大雨や暴風が見込まれる段階で事前に避難しておく
- 台風情報や気象警報・注意報、土砂災害警戒情報などの気象情報が発表されたとき
- 浸水や土砂崩れなどが発生したとき
- 無回答
- 警報や注意報などが発令されていなくても、大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき
- 避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されたとき
- その他

【同居家族の中の要配慮者の有無】



- 大雨や暴風が見込まれる段階で事前に避難しておく
- 台風情報や気象警報・注意報、土砂災害警戒情報などの気象情報が発表されたとき
- 浸水や土砂崩れなどが発生したとき
- 無回答
- 警報や注意報などが発令されていなくても、大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき
- 避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されたとき
- その他

○ 地域別に見ると、東紀州地域において「大雨や暴風が見込まれる段階」、「大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき」、「台風情報や気象警報・注意報などの気象情報が発表されたとき」に避難すると答えた方の割合が他の地域に比べて高く、避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されるよりも早い段階で避難する方が多くなっています。

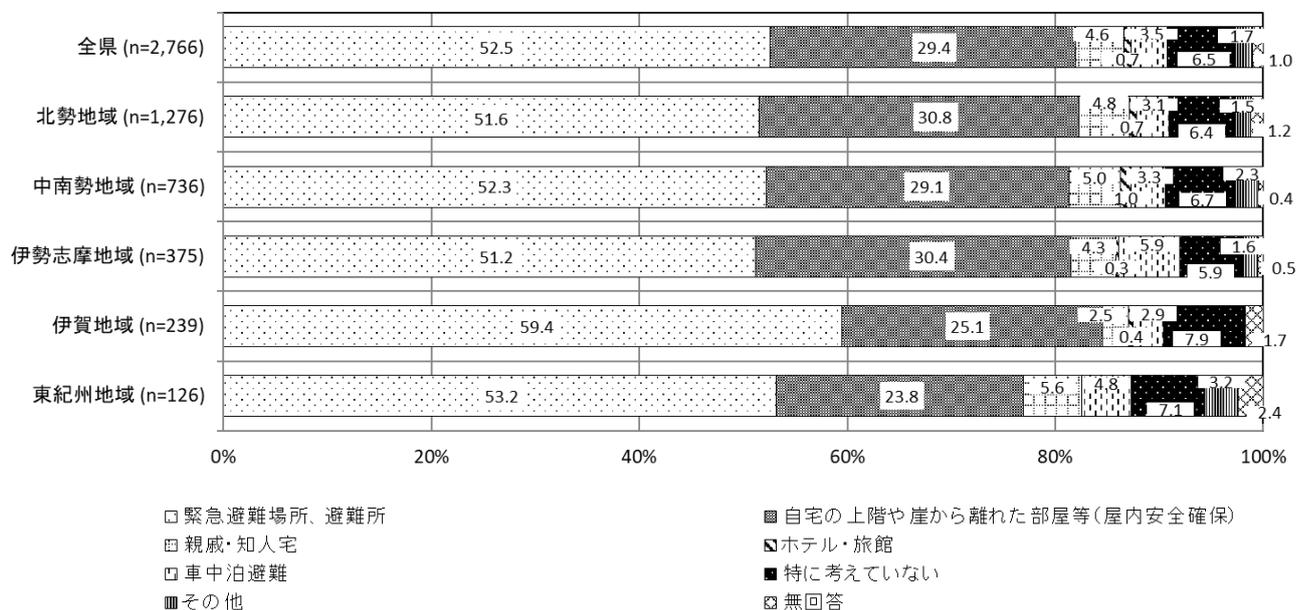
問9 風水害時の避難先

風水害が発生し、避難指示が発令されるなど自宅周辺が危険な状況にある場合、どこに避難することを考えていますか。

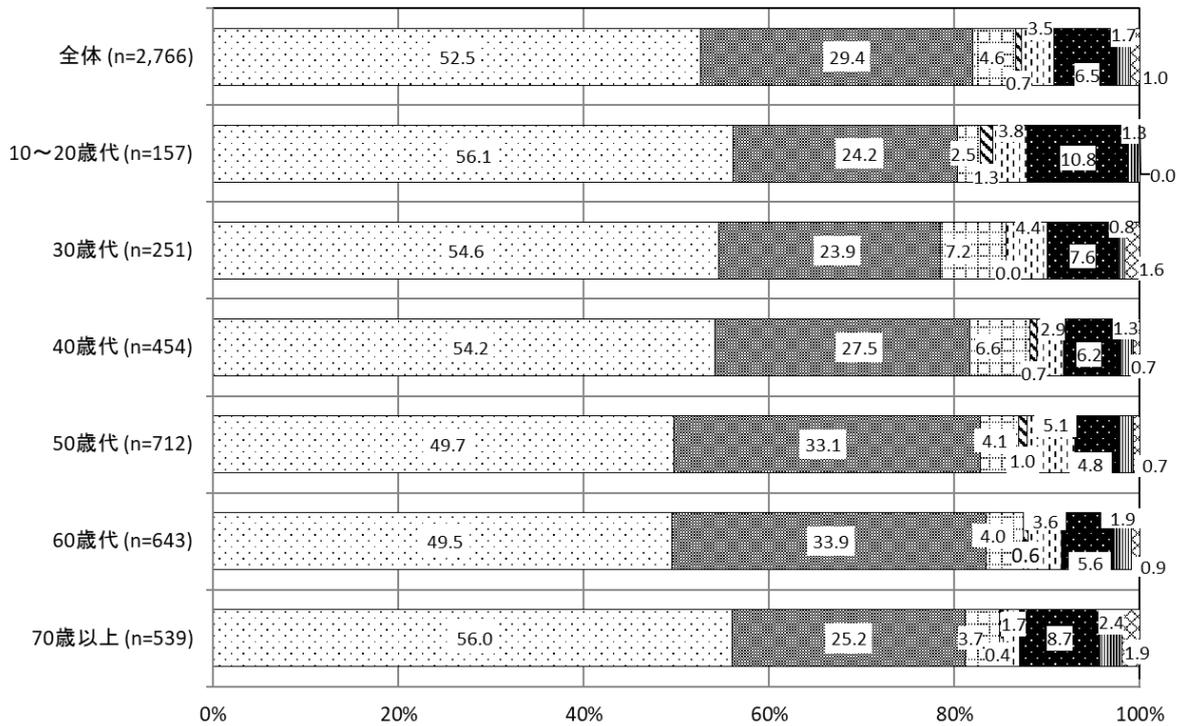
	1	2	3	4	5	6	7
選択肢	緊急避難場所、避難所	自宅の上階や崖から離れた部屋等(屋内安全確保)	親戚・知人宅	ホテル・旅館	車中泊避難	特に考えていない	その他
R 6	52.5%	29.4%	4.6%	0.7%	3.5%	6.5%	1.7%

○ 風水害時の避難先について、「緊急避難場所、避難所」と答えた方の割合が 52.5%と最も高く、次いで「自宅の上階や崖から離れた部屋等(屋内安全確保)」が 29.4%となっています。

【地域別】

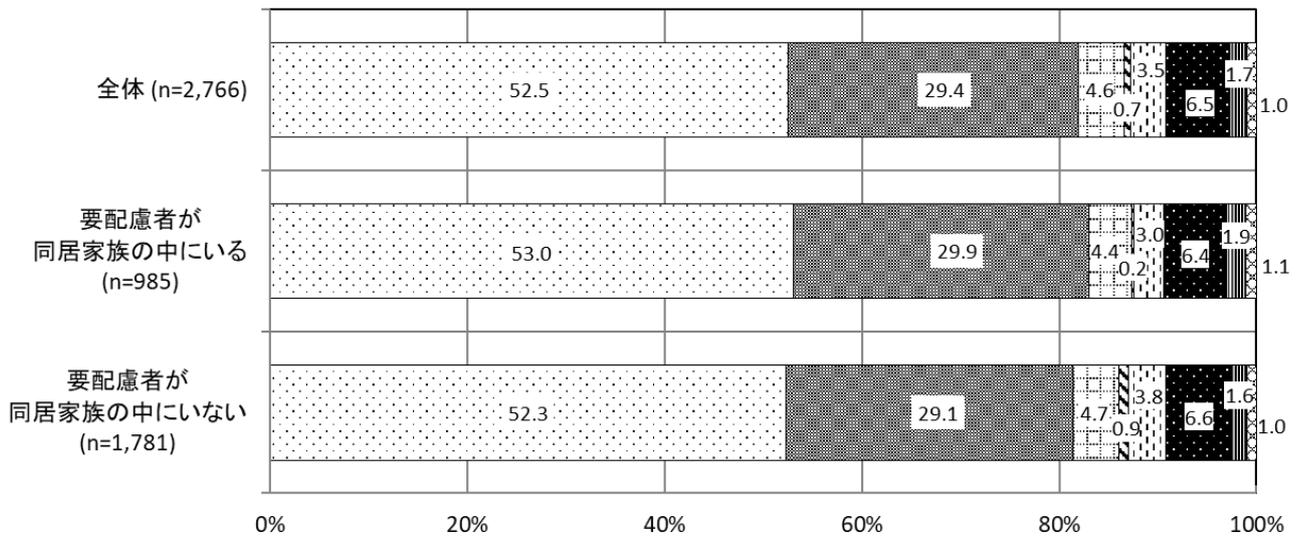


【年齢別】



- 緊急避難場所、避難所
- ▨ 親戚・知人宅
- ▩ 車中泊避難
- その他
- 自宅の上階や崖から離れた部屋等(屋内安全確保)
- ▨ ホテル・旅館
- 特に考えていない
- ▩ 無回答

【同居家族の中の要配慮者の有無】



- 緊急避難場所、避難所
- ▨ 親戚・知人宅
- ▩ 車中泊避難
- その他
- 自宅の上階や崖から離れた部屋等(屋内安全確保)
- ▨ ホテル・旅館
- 特に考えていない

○ 地域別、年齢別、同居家族の中の要配慮者の有無によって大きな差はありません。

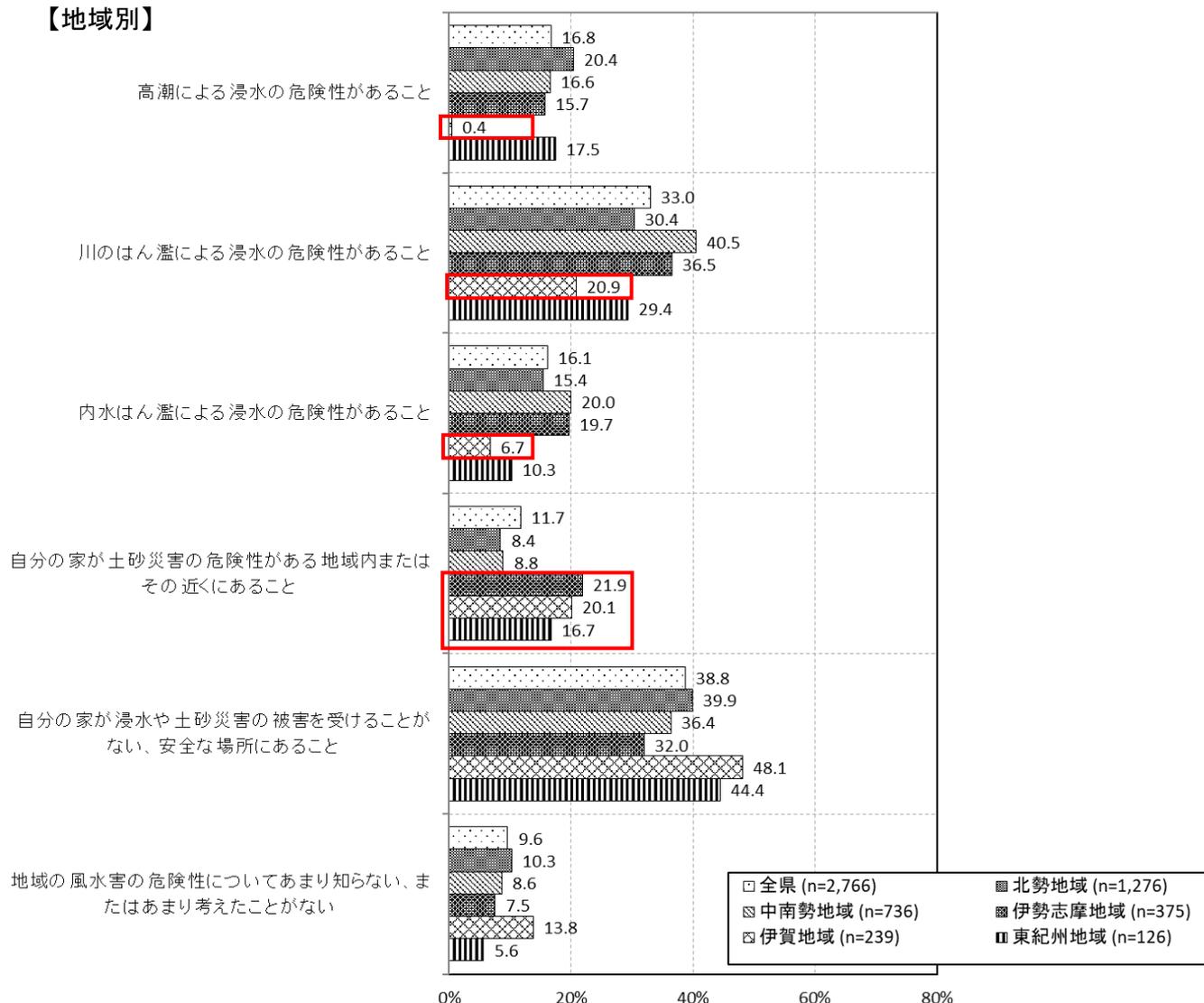
問 10 自宅周辺の風水害の危険性の把握

あなたのお住いの周辺における風水害の危険性について、どの程度把握されていますか。
(複数選択可)

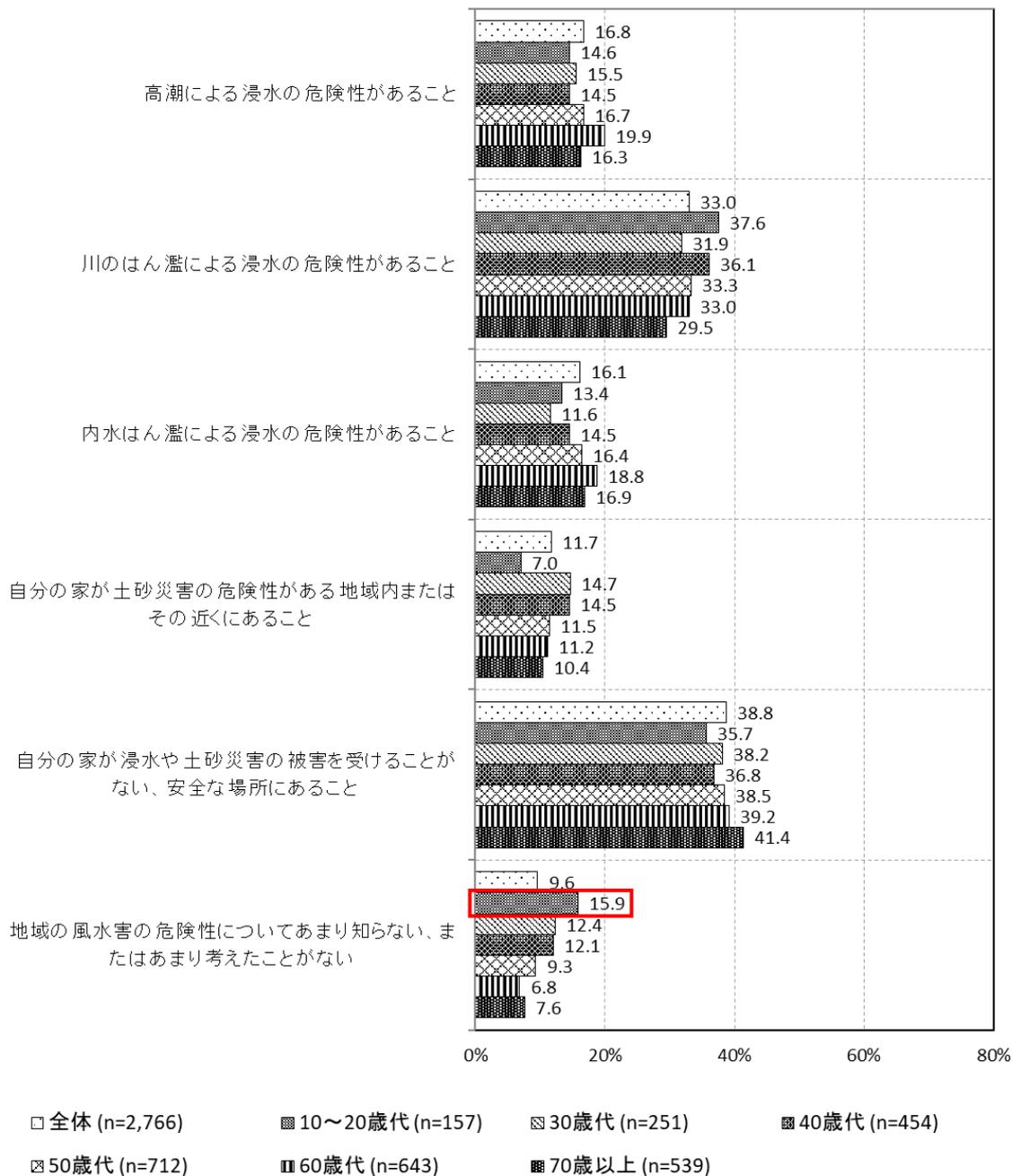
	1	2	3	4	5	6
選択肢	高潮による浸水の危険性があること	川のはん濫による浸水の危険性があること	内水はん濫による浸水の危険性があること	自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあること	自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けない、安全な場所にあること	地域の風水害の危険性についてあまり知らない、またはあまり考えたことがない
R 6	16.8%	33.0%	16.1%	11.7%	38.8%	9.6%
R 5	21.5%	35.6%	14.6%	14.3%	35.2%	9.4%
R 4	20.7%	34.6%	13.4%	15.4%	33.7%	9.6%

○「地域の風水害の危険性についてあまり知らない、またはあまり考えたことがない」と答えた方の割合は 9.6%となっており、多くの方が自宅周辺の風水害の危険性について把握していると答えています。

【地域別】



【年齢別】



- 地域別に見ると、伊賀地域において、「高潮による浸水の危険性があること」、「川のはん濫による浸水の危険性があること」、「内水はん濫による浸水の危険性があること」と答えた方の割合が、他の地域に比べて低くなっています。
- また、伊勢志摩地域、伊賀地域、東紀州地域において、「自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあること」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、10~20 歳代において「地域の風水害の危険性についてあまり知らない、またはあまり考えたことがない」と答えた方の割合が他の年齢に比べて高くなっています。

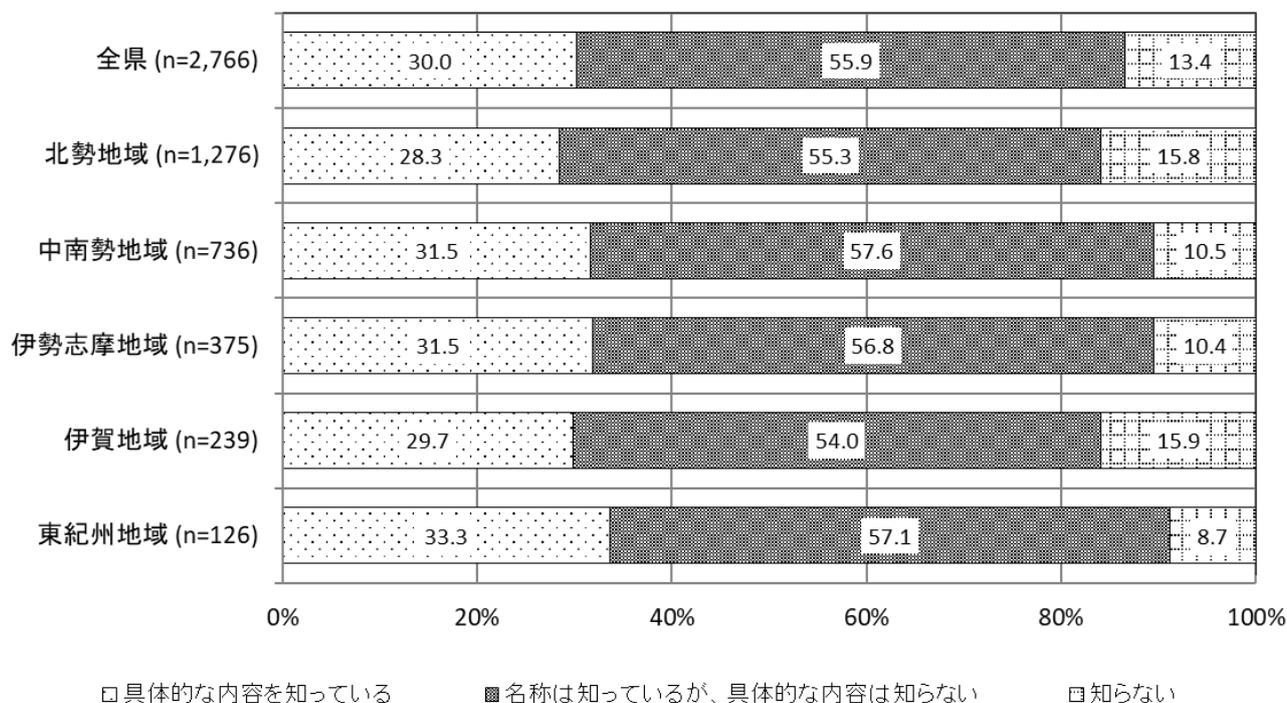
問 11 避難情報（警戒レベル）の認知度

市町が発令する避難情報に5段階の警戒レベルを用いて伝達することとなっていますが、この警戒レベルを知っていますか。

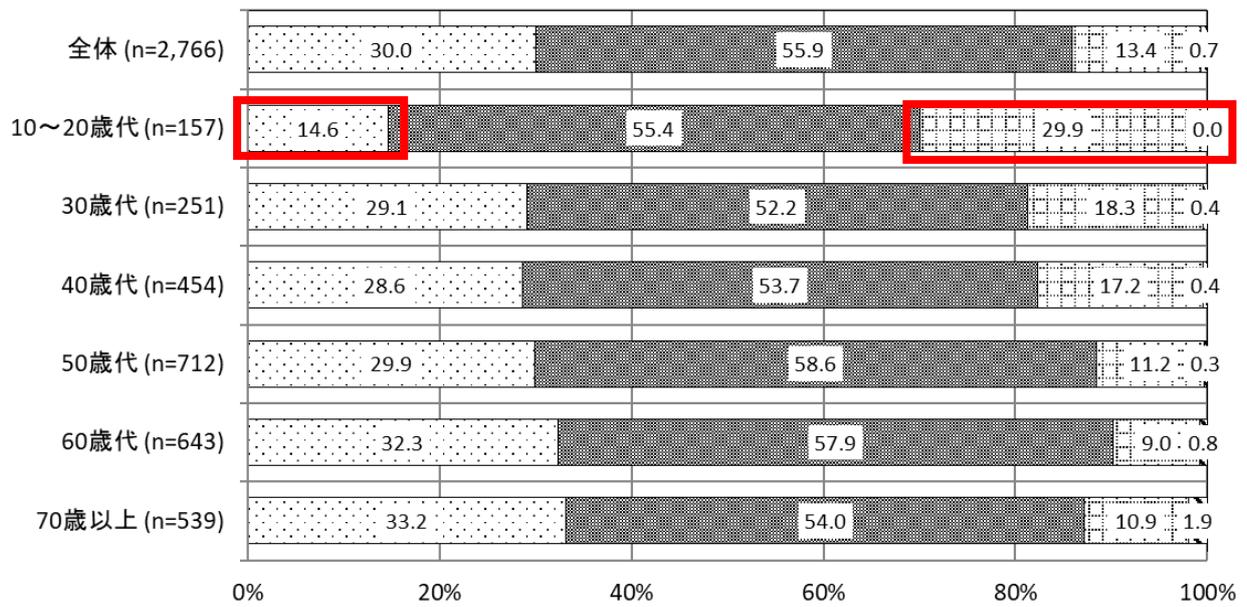
	1	2	3
選択肢	具体的な内容を知っている	名称は知っているが、具体的な内容は知らない	知らない
R 6	30.0%	55.9%	13.4%
R 5	27.2%	57.0%	14.9%
R 4	21.5%	61.9%	13.0%

○ 避難情報（警戒レベル）の認知度について、30.0%の方が「具体的な内容を知っている」と答えており、増加傾向にあります。

【地域別】



【年齢別】



□具体的な内容を知っている ■名称は知っているが、具体的な内容は知らない □知らない ■無回答

○ 年齢別に見ると、10～20 歳代において「具体的な内容を知っている」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低く、「知らない」と答えた方の割合が高くなっています。

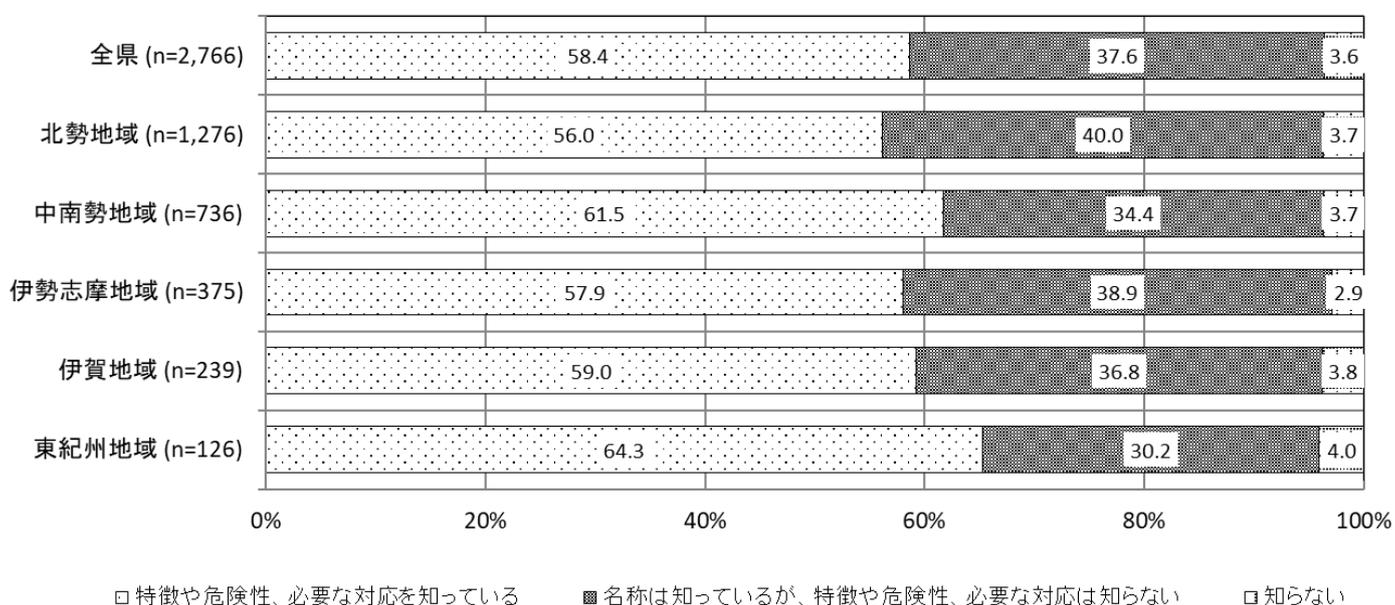
問 12 線状降水帯の認知度

近年各地で発生し、被害をもたらしている「線状降水帯」について、その特徴や危険性、必要な対応について知っていますか。

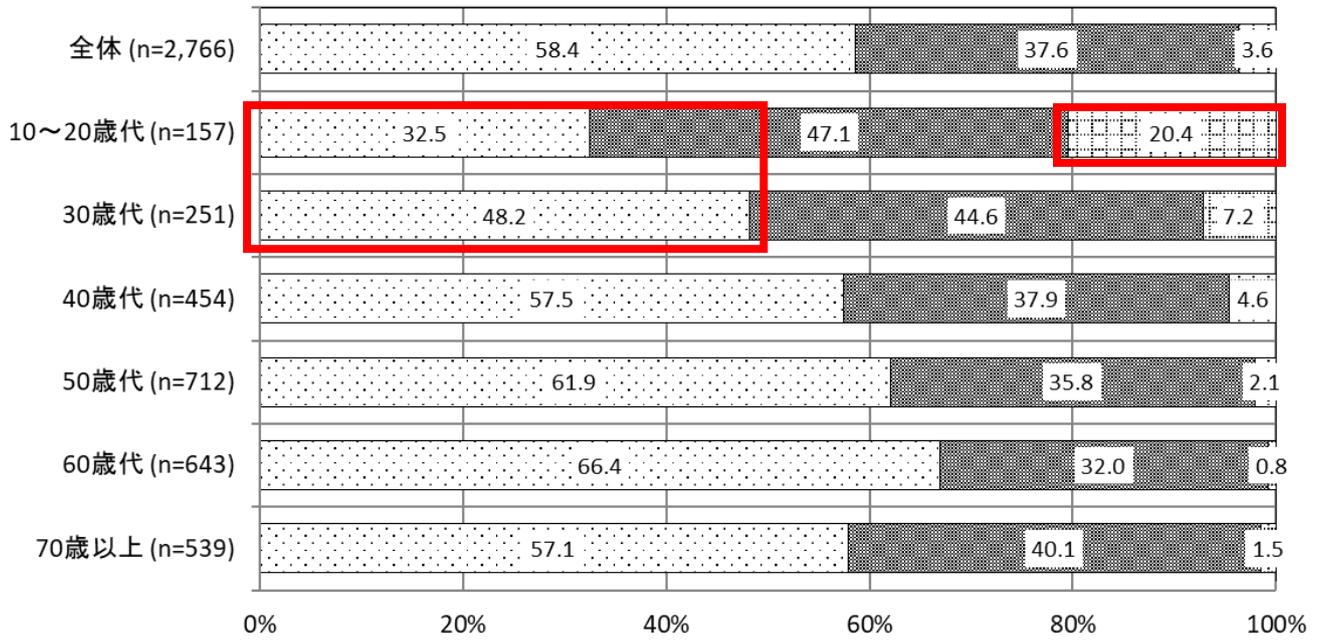
	1	2	3
選択肢	特徴や危険性、必要な対応を知っている	名称は知っているが、特徴や危険性、必要な対応は知らない	知らない
R 6	58.4%	37.6%	3.6%
R 5	52.7%	41.3%	5.4%

○ 線状降水帯の認知度について、58.4%の方が、「特徴や危険性、必要な対応を知っている」と答えており、昨年度よりも 5.7 ポイント増加しています。

【地域別】



【年齢別】



□ 特徴や危険性、必要な対応を知っている ■ 名称は知っているが、特徴や危険性、必要な対応は知らない □ 知らない

- 年齢別に見ると、10~20 歳代において「特徴や危険性、必要な対応を知っている」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低く、「知らない」と答えた方の割合が高くなっています。
- また、30 歳代においても「特徴や危険性、必要な対応を知っている」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低くなっています。

(4) 災害時の情報について

問 13・14 災害時の情報の入手先

気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。

問 13 現在どこから入手することが多いかお答えください。(複数選択可)

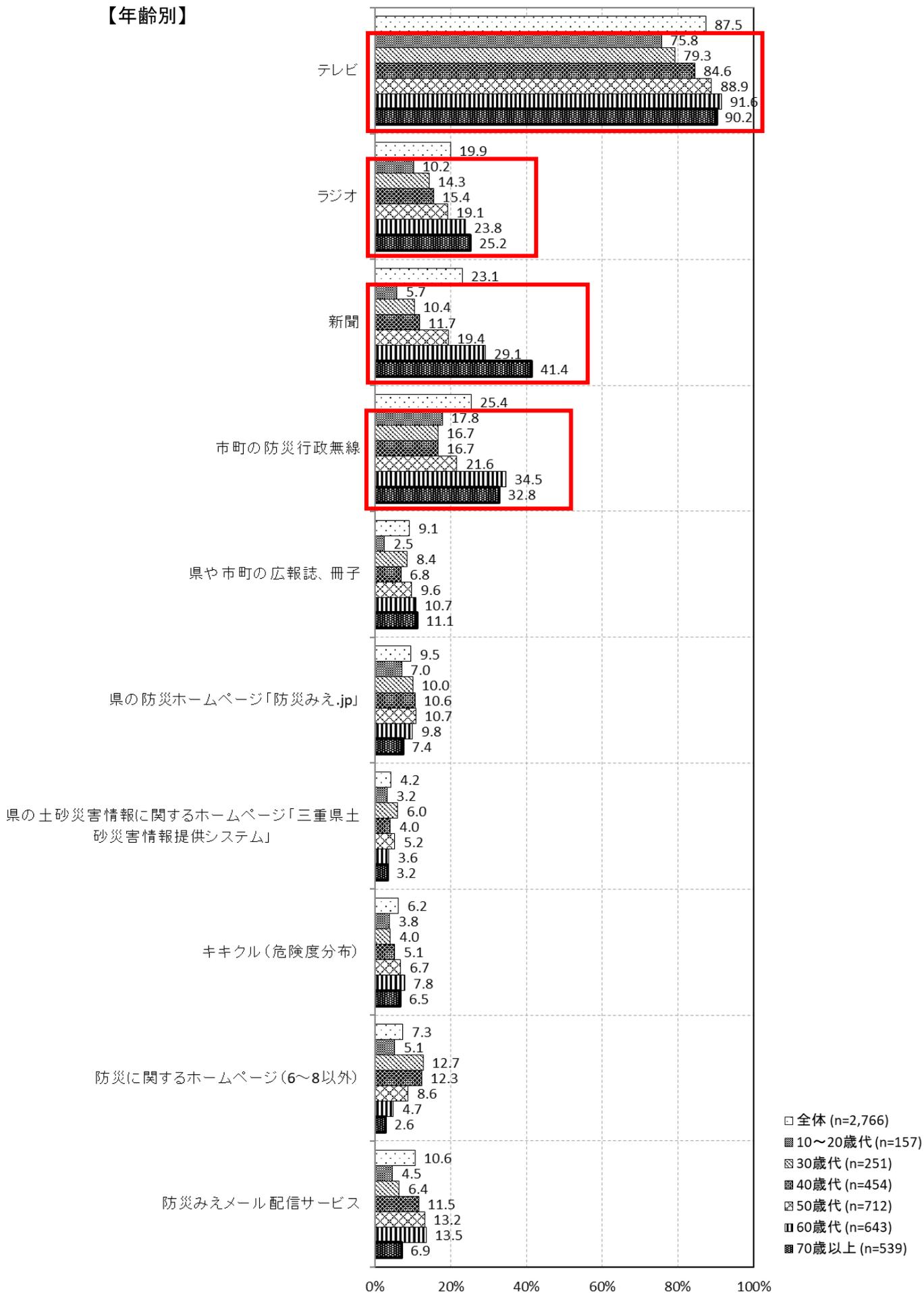
問 14 今後どこから入手したいかお答えください。(複数選択可)

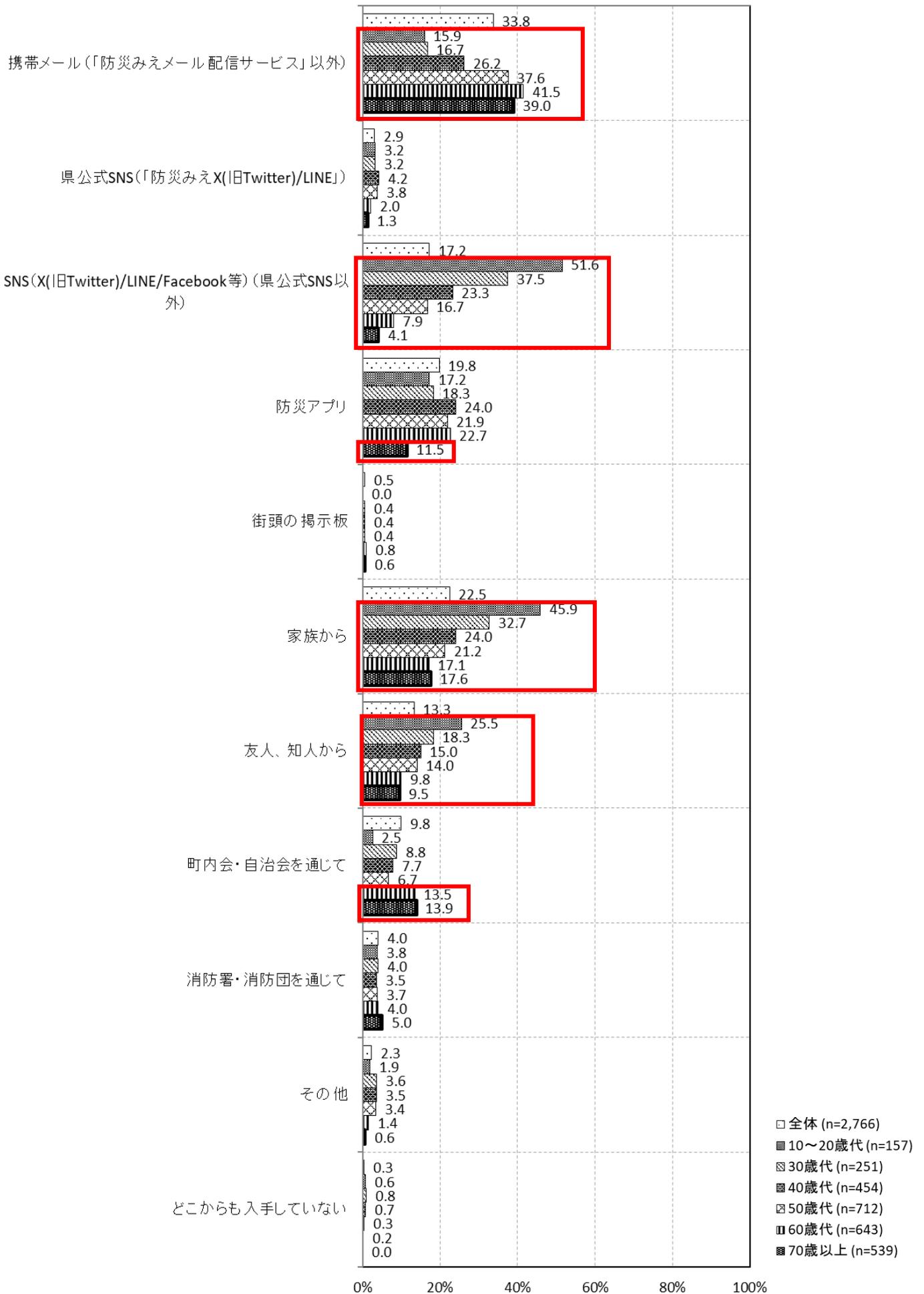
選択肢		1	2	3	4	5	6	7
		テレビ	ラジオ	新聞	市町の防災 行政無線	県や市町の 広報誌、冊子	県の防災ホ ームページ 「防災み え.jp」	県の土砂災害 情報に関する HP「三重 県土砂災害情 報提供システ ム」
現 在	R 6	87.5%	19.9%	23.1%	25.4%	9.1%	9.5%	4.2%
	R 5	88.9%	22.3%	20.4%	33.0%	11.2%	12.6%	6.4%
	R 4	89.9%	23.5%	28.4%	29.0%	11.3%	20.2%	11.1%
今 後	R 6	67.0%	20.4%	15.5%	24.5%	10.0%	16.4%	9.1%
	R 5	61.6%	21.3%	13.7%	29.3%	9.3%	17.8%	10.5%
	R 4	68.9%	25.6%	18.6%	28.7%	9.6%	31.5%	19.9%
選択肢		8	9	10	11	12	13	14
		キキクル (危険度分 布)	防災に関す るホームペ ージ(6~8 以外)	防災みえメ ール配信サ ービス	携帯メール (「防災みえ メール配信サ ービス」以 外)	県公式 SNS (「防災みえ X(旧 Twitter) /LINE」)	SNS(X(旧 Twitter) /LINE/Facebo ok等)(県公式 SNS以外)	防災アプリ
現 在	R 6	6.2%	7.3%	10.6%	33.8%	2.9%	17.2%	19.8%
	R 5	5.7%	7.0%	13.1%	35.9%	2.5%	12.3%	21.4%
	R 4	-	-	33.2%	14.1%	2.9%	12.0%	25.5%
今 後	R 6	16.9%	8.0%	17.9%	31.6%	7.9%	16.2%	23.9%
	R 5	14.7%	8.4%	20.6%	30.6%	9.0%	13.2%	25.7%
	R 4	-	-	42.3%	16.5%	12.3%	13.9%	29.6%
選択肢		15	16	17	18	19	20	21
		街頭の掲示 板	家族から	友人、知人か ら	町内会・自治 会を通じて	消防署・消防 団を通じて	その他	どこからも入 手していない
現 在	R 6	0.5%	22.5%	13.3%	9.8%	4.0%	2.3%	0.3%
	R 5	0.8%	26.6%	15.5%	17.4%	7.4%	1.8%	0.4%
	R 4	1.3%	25.1%	15.8%	15.2%	7.2%	0.8%	0.1%
今 後	R 6	1.3%	13.9%	9.5%	15.9%	9.3%	1.3%	1.1%
	R 5	1.7%	16.6%	11.0%	20.5%	13.0%	1.5%	0.8%
	R 4	1.7%	18.0%	12.5%	18.8%	12.6%	0.8%	0.1%

- 現在利用している災害時の情報の入手先について、「テレビ」と答えた方の割合が 87.5%と最も高く、次いで、「携帯メール(「防災みえメール配信サービス」以外)」「(33.8%)」、「市町の防災行政無線」(25.4%)の割合が高くなっています。
- 今後利用したい災害時の情報の入手先についても同様に、「テレビ」と答えた方の割合が 67.0%と最も高く、次いで、「携帯メール(「防災みえメール配信サービス」以外)」「(31.6%)」、「市町の防災行政無線」(24.5%)の割合が高くなっています。
- 「防災みえ.jp」、「キキクル(危険度分布)」、「防災みえメール配信サービス」、「県公式SNS」、「町内会・自治会を通じて」、「消防署・消防団を通じて」は現在の情報入手先として答えた方の割合に比べて、今後利用したい情報入手先として答えた方の割合が高くなっています。
- 一方で「テレビ」、「新聞」、「家族から」は現在の情報入手先として答えた方の割合に比べて、今後利用したい情報入手先として答えた方の割合が低くなっています。

問 13：災害時の情報の入手先（現在）

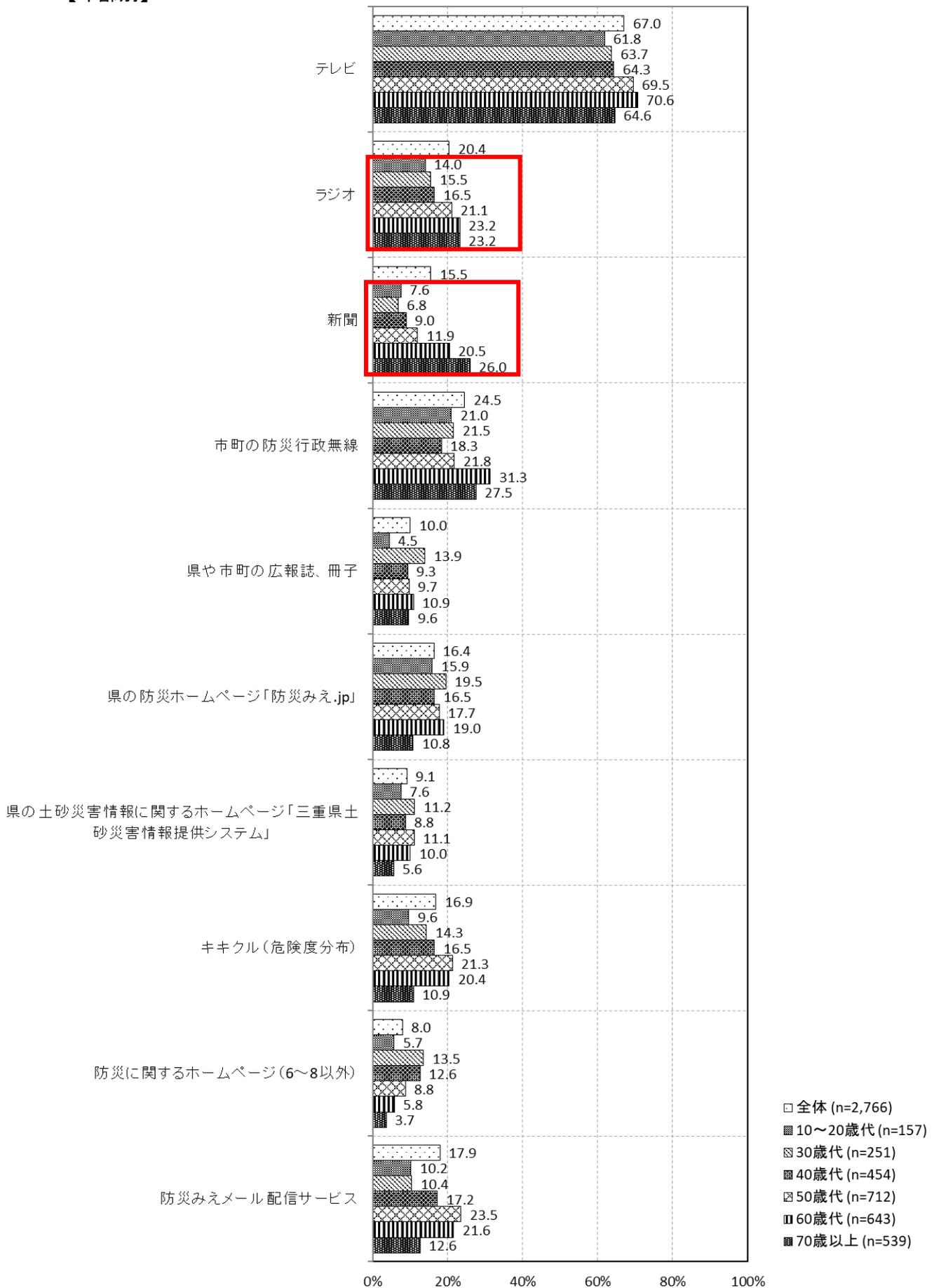
【年齢別】

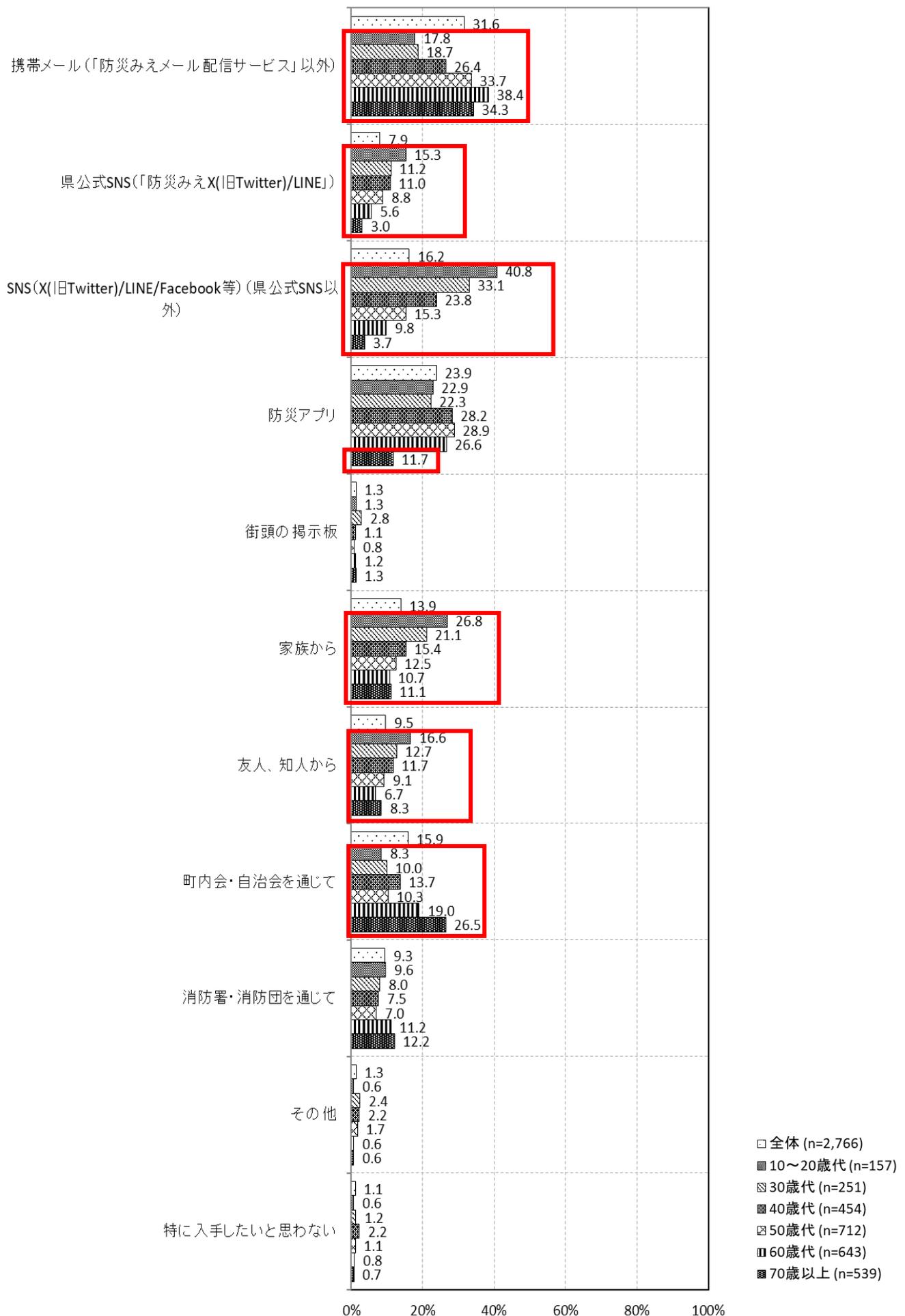




問 14：災害時の情報の入手先（今後）

【年齢別】





【現在利用している情報の入手先】

- 年齢が高いほど「テレビ」、「ラジオ」、「新聞」、「市町の防災行政無線」、「携帯メール(防災みえメール配信サービス以外)」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 一方で、年齢が低いほど「SNS(県公式 SNS 以外)」、「家族から」、「友人、知人から」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 60 歳代、70 歳以上において「町内会・自治会を通じて」と答えた方の割合が、他の年齢より高くなっています。
- 70 歳以上において「防災アプリ」と答えた方の割合が、他の年齢より低くなっています。

【今後利用したい情報の入手先】

- 年齢が高いほど「ラジオ」、「新聞」、「携帯メール(防災みえメール配信サービス以外)」、「町内会・自治会を通じて」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- 一方で、年齢が低いほど「県公式 SNS」、「SNS(県公式 SNS 以外)」、「家族から」、「友人・知人から」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- また、70 歳以上において「防災アプリ」と答えた方の割合が、他の年齢より低くなっています。

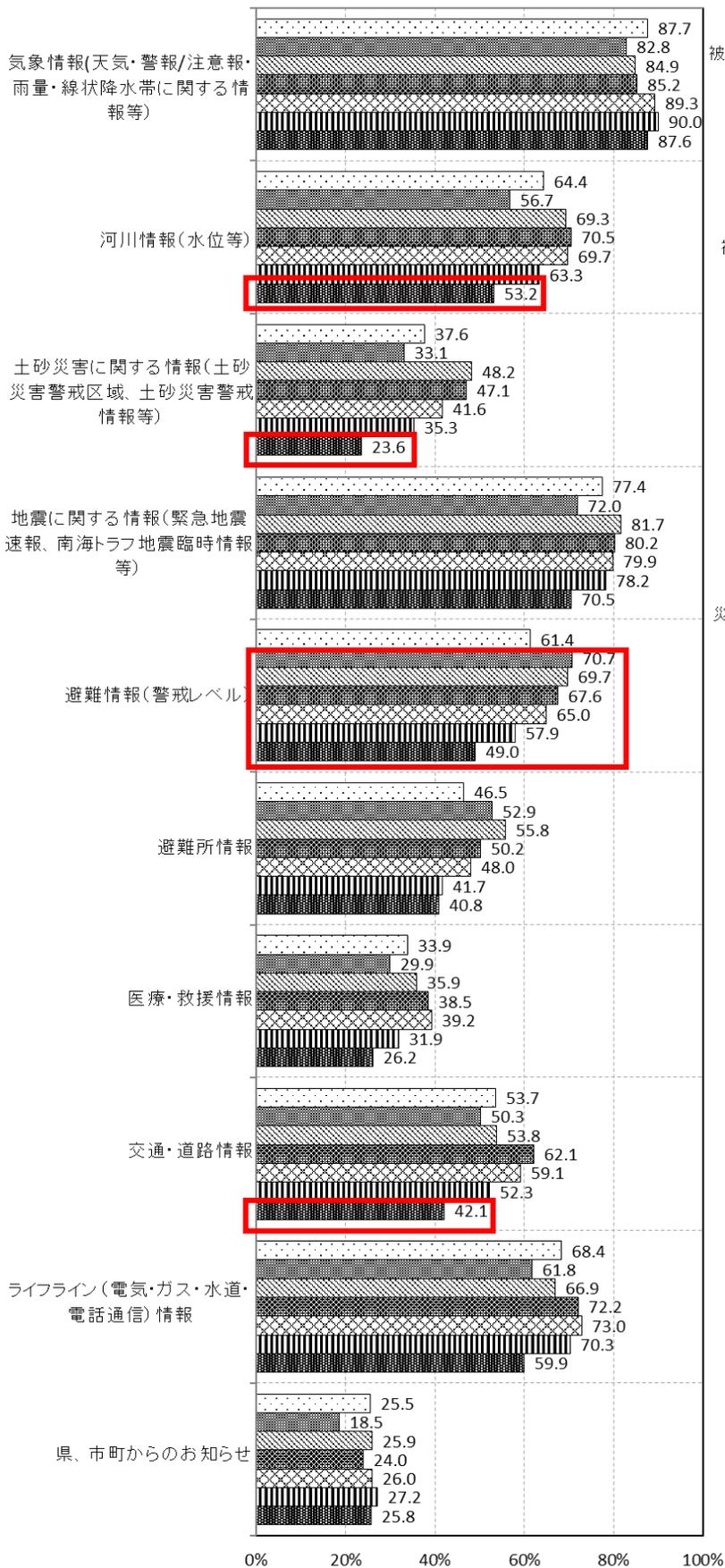
問 15 災害時に知りたい情報

災害発生時やそのおそれがあるときにどのような情報を知りたいですか。(複数選択可)

	1	2	3	4	5	6
選択肢	気象情報(天気・警報/注意報・雨量・線状降水帯に関する情報等)	河川情報(水位等)	土砂災害に関する情報(土砂災害警戒区域、土砂災害警戒情報等)	地震に関する情報(緊急地震速報、南海トラフ地震臨時情報等)	避難情報(警戒レベル)	避難所情報
R 6	87.7%	64.4%	37.6%	77.4%	61.4%	46.5%
R 5	85.4%	60.2%	39.2%	74.8%	63.9%	47.0%
R 4	81.9%	-	36.0%	-	71.0%	52.8%
	7	8	9	10	11	12
選択肢	医療・救援情報	交通・道路情報	ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信)情報	県、市町村からのお知らせ	被害情報(詳細): 文字による被害詳細情報	被害情報(概要): 地図情報
R 6	33.9%	53.7%	68.4%	25.5%	21.8%	22.1%
R 5	33.7%	49.0%	62.2%	30.8%	20.1%	22.1%
R 4	40.5%	51.4%	68.5%	39.9%	29.7%	28.2%
	13	14	15	16		
選択肢	ライブカメラ等の映像情報	災害、天気に関するニュース	その他	特に知りたい情報はない		
R 6	35.7%	38.2%	1.4%	0.4%		
R 5	29.4%	32.5%	0.9%	0.4%		
R 4	31.6%	38.4%	1.5%	-		

- 災害時に知りたい情報について、「気象情報」と答えた方の割合が 87.7%と最も高く、次いで、「地震に関する情報」(77.4%)、「ライフライン情報」(68.4%)、「河川情報」(64.4%)、「避難情報(警戒レベル)」(61.4%)の割合が高くなっています。

【年齢別】



被害情報(詳細):文字による被害詳細情報

被害情報(概要):地図情報

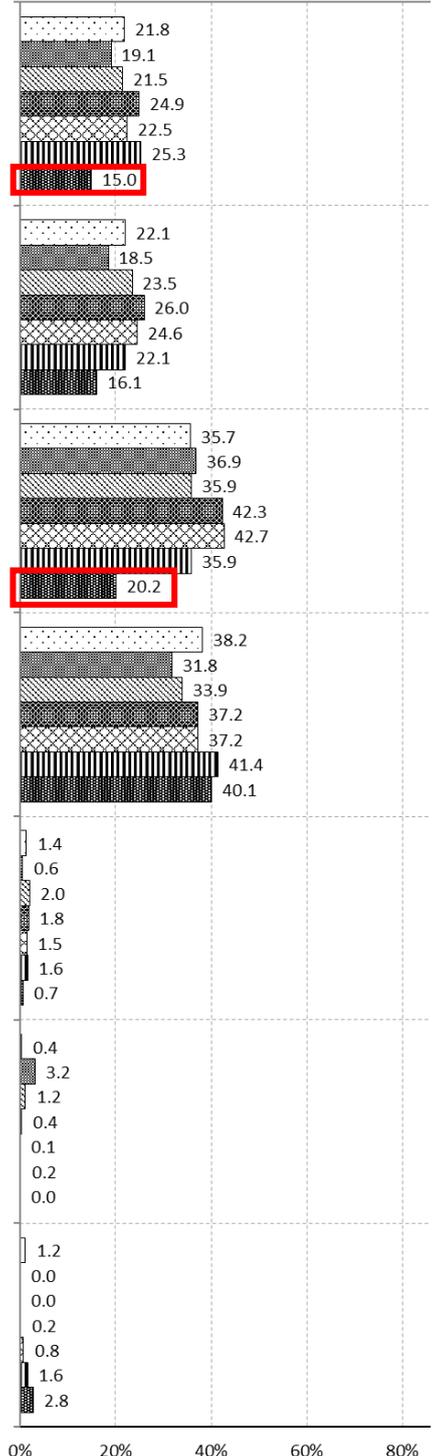
ライブカメラ等の映像情報

災害、天気に関するニュース

その他

特に知りたい情報はない

無回答



□ 全体 (n=2,766) ■ 10~20歳代 (n=157) ▨ 30歳代 (n=251) ▩ 40歳代 (n=454)
 ▪ 50歳代 (n=712) ▫ 60歳代 (n=643) ▬ 70歳以上 (n=539)

- 年齢別に見ると、年齢が低いほど「避難情報(警戒レベル)」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- また、70 歳以上において、「河川情報」、「土砂災害に関する情報」、「交通・道路情報」、「文字による被害情報詳細」、「ライブカメラ等の映像情報」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低くなっています。

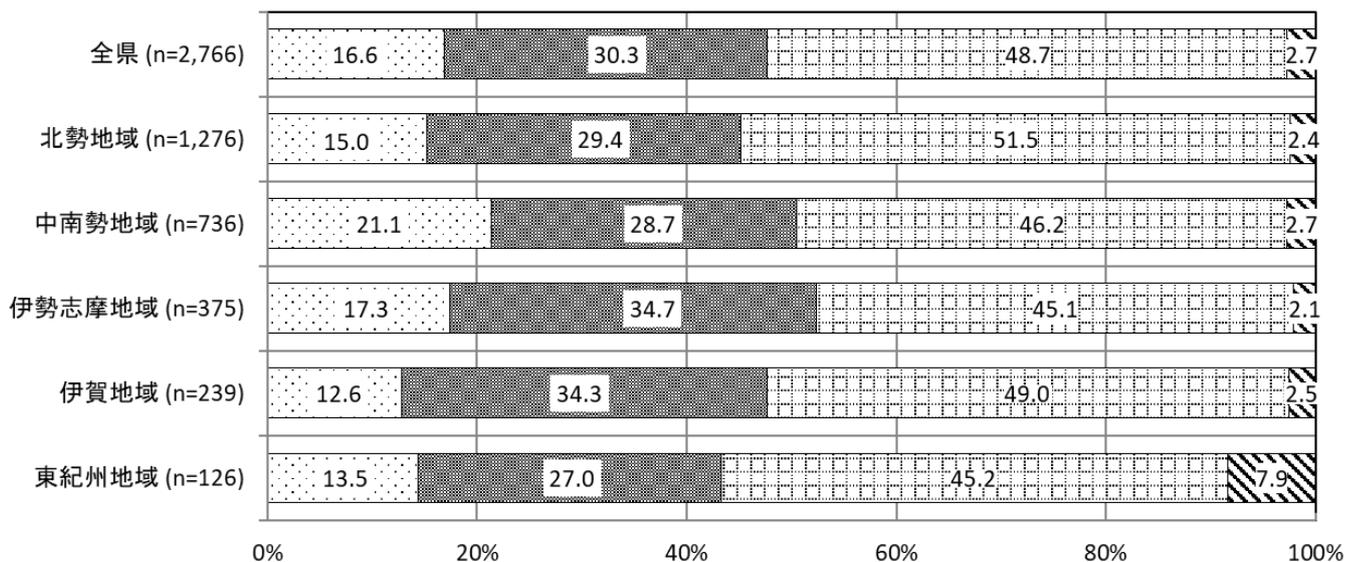
問 16 「防災みえ.jp」の認知度

県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」をご存知ですか。

	1	2	3	4
選択肢	知っており、災害発生時やそのおそれがある時に見たことがある	知っているが、災害時に見たことがない	知らない	インターネット等の環境がない(スマートフォン等を持っていない)
R 6	16.6%	30.3%	48.7%	2.7%
R 5	15.8%	30.7%	48.1%	2.0%
R 4	20.5%	27.0%	45.5%	3.2%

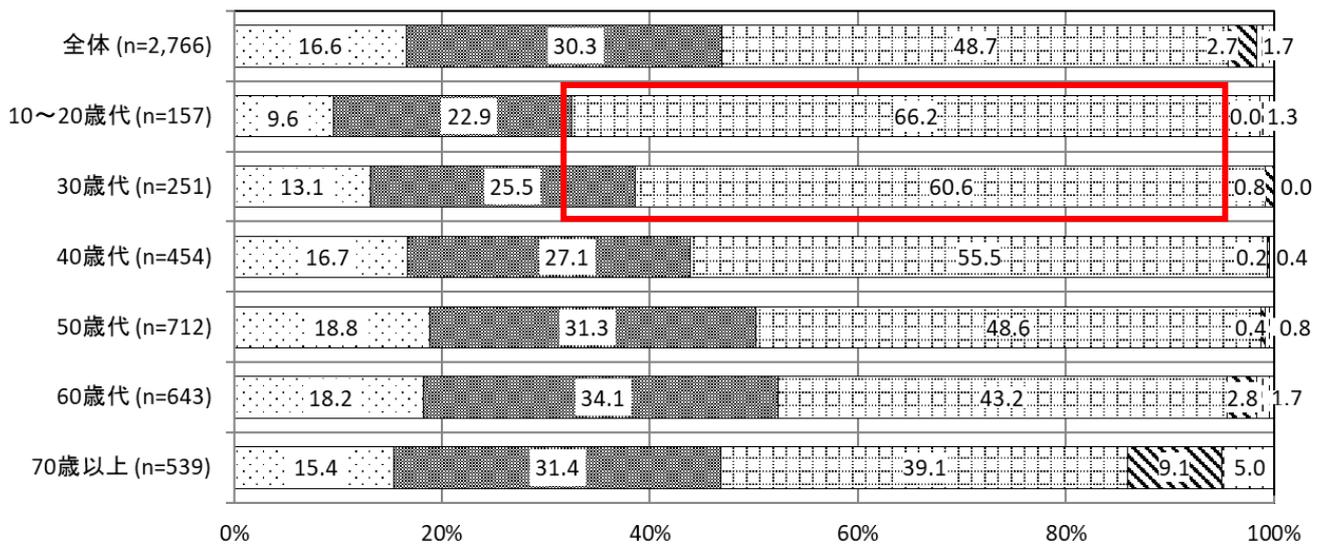
- 県ホームページ「防災みえ.jp」について、「知らない」と答えた方の割合が 48.7%と最も高く、次いで「知っているが、災害時に見たことがない」が 30.3%となっています。

【地域別】



□ 知っており、災害発生時やそのおそれがある時に見たことがある ■ 知っているが、災害時に見たことがない
 □ 知らない ■ インターネット等の環境がない(スマートフォン等を持っていない)

【年齢別】



知っており、災害発生時やそのおそれがある時に見たことがある
 知っているが、災害時に見たことがない
 知らない
 インターネット等の環境がない(スマートフォン等を持っていない)
 無回答

○ 年齢別に見ると、10～20歳代、30歳代において、「知らない」と答えた方の割合が、他の年齢に比べて高くなっています。

問 17 「防災みえ.jp」を活用しない理由

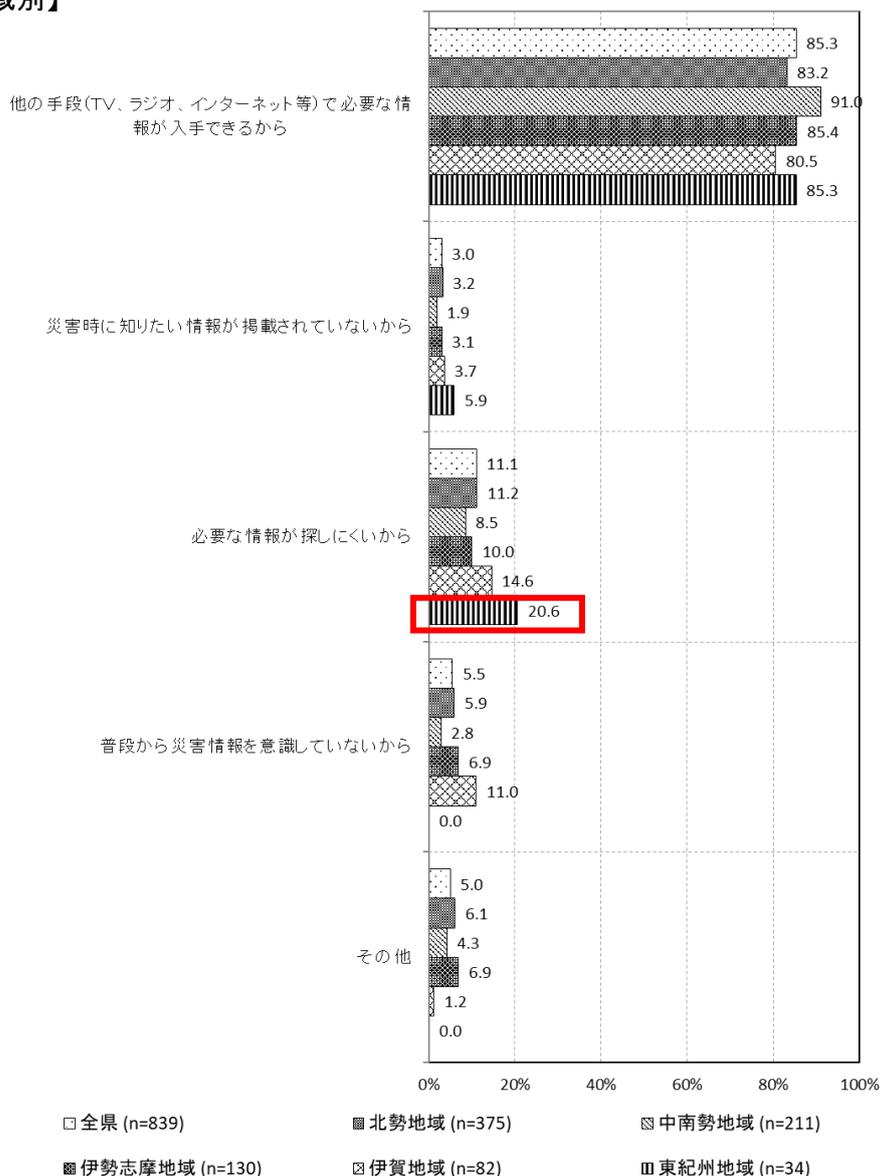
問 16 で選択肢2と回答された方にお尋ねします。

災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。(複数選択可)

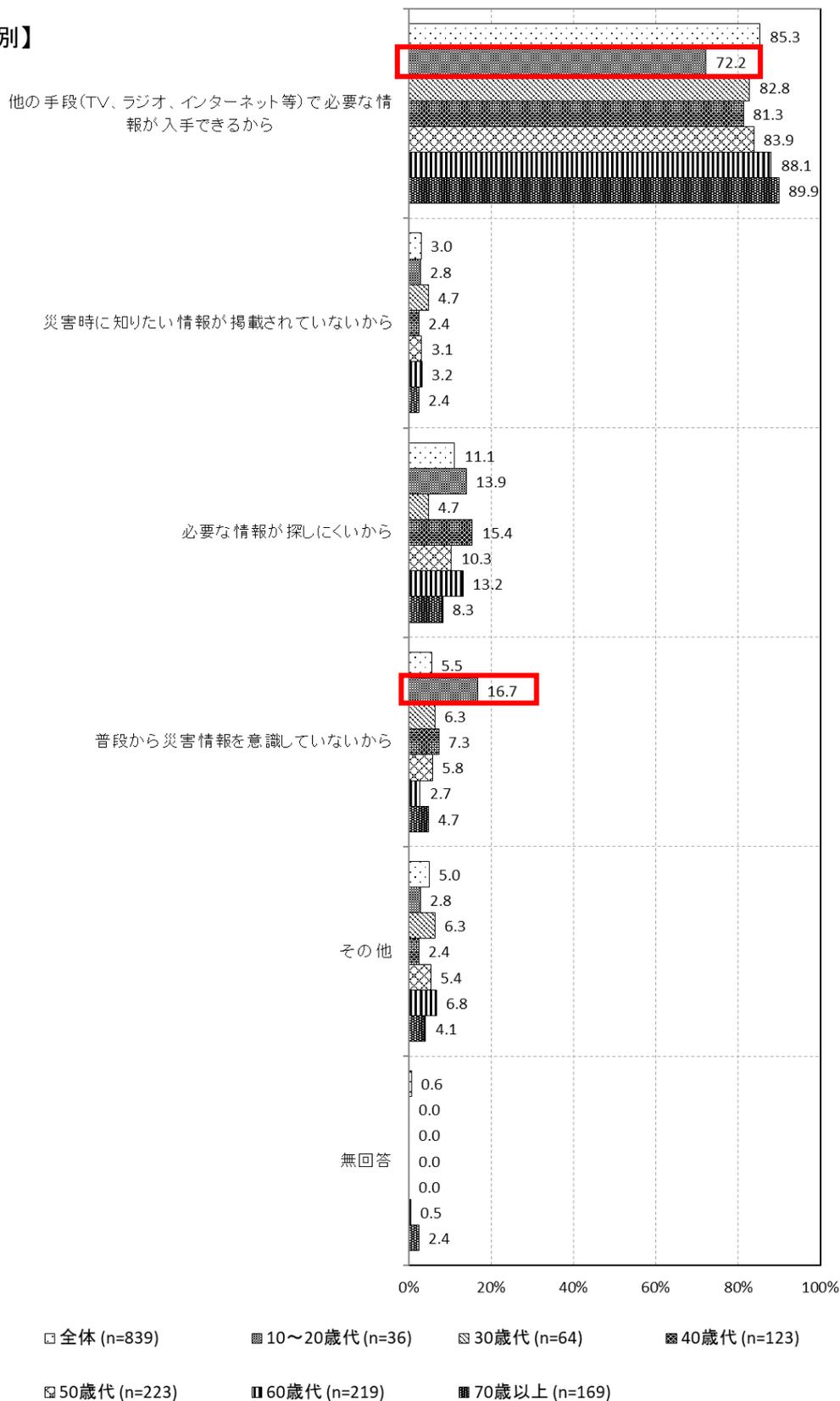
	1	2	3	4	5
選択肢	他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから	災害時に知りたい情報が掲載されていないから	必要な情報が探しにくいから	普段から災害情報を意識していないから	その他
R 6	85.3%	3.2%	11.8%	5.5%	3.0%
R 5	83.7%	3.8%	12.2%	7.4%	4.1%
R 4	83.9%	4.0%	11.0%	5.1%	4.5%

○ 災害時に「防災みえ.jp」を活用しない理由について、「他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから」が 85.3%と最も高くなっています。

【地域別】



【年齢別】



- 地域別に見ると、東紀州地域において「必要な情報が探しにくいから」と答えた方の割合が他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、10～20 歳代において「他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから」と答えた方の割合が、他の年齢に比べて低く、「普段から災害情報を意識していないから」と答えた方の割合が高くなっています。

(5) 避難場所・避難所について

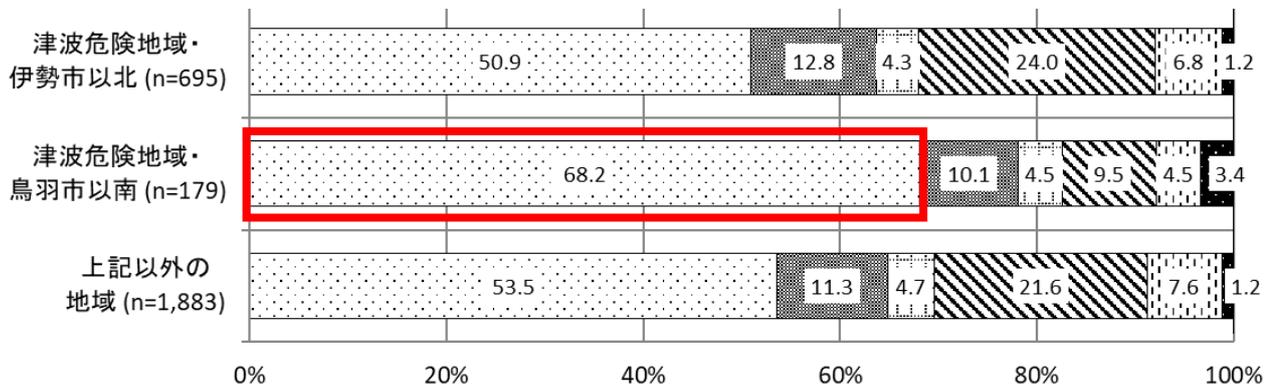
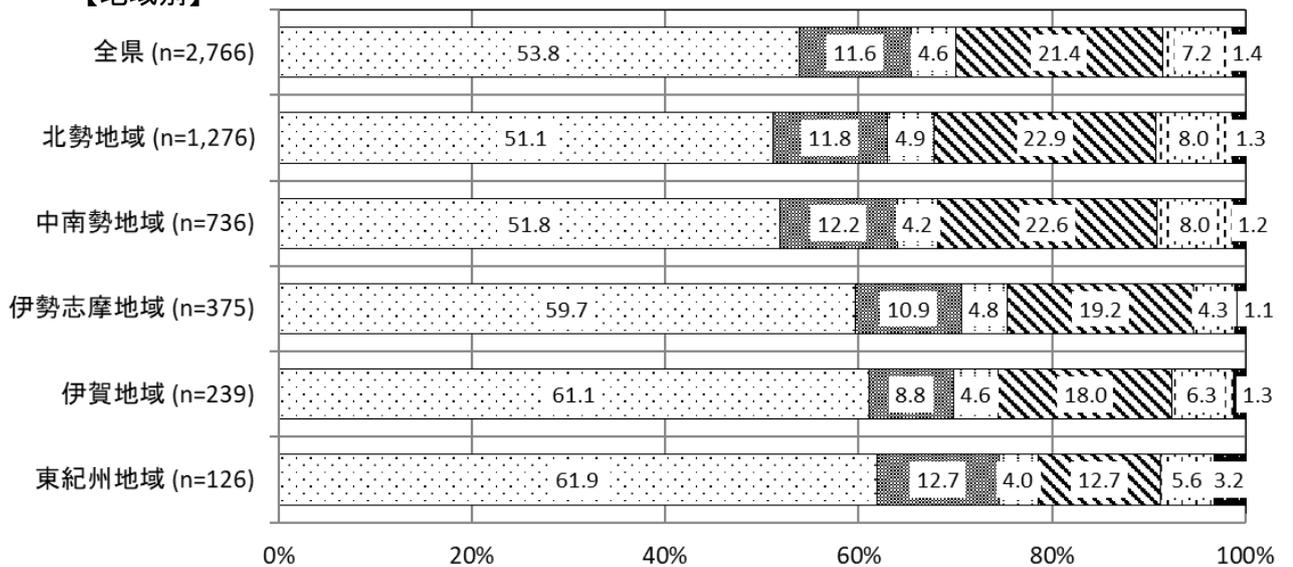
問 18 避難場所や避難所の認知度

自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。

	1	2	3	4	5
選択肢	避難場所も避難所も知っている	避難場所だけ知っている	避難所だけ知っている	避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない	知らない
R 6	53.8%	11.6%	4.6%	21.4%	7.2%
R 5	49.2%	12.1%	4.3%	21.5%	11.2%
R 4	49.0%	9.0%	4.8%	24.3%	9.9%

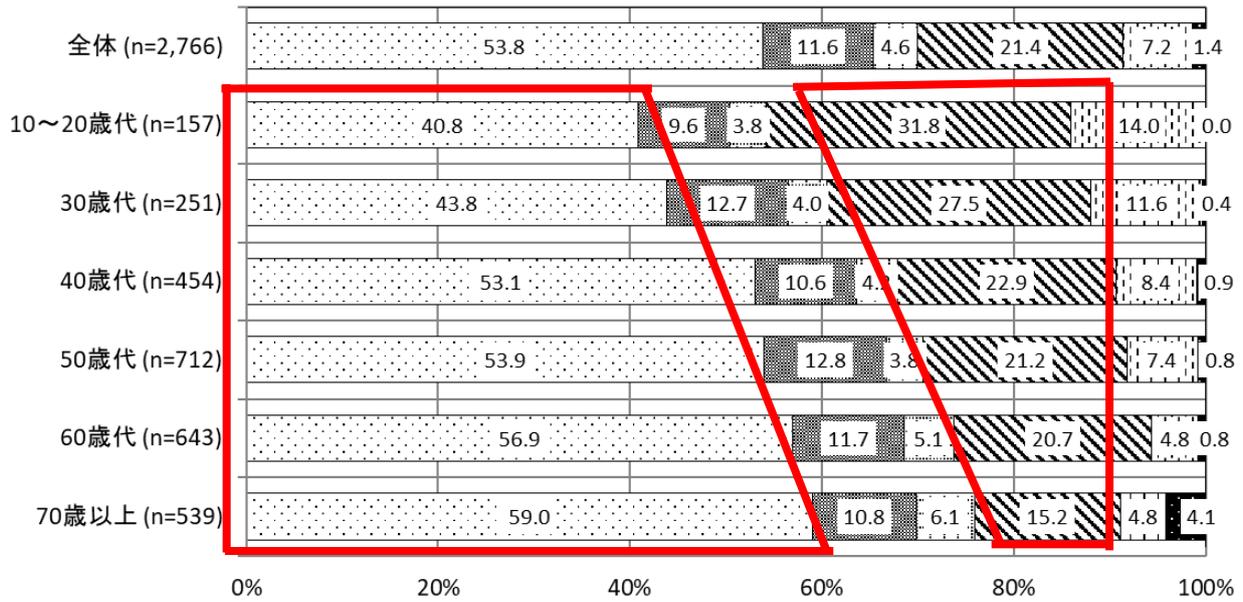
○ 避難場所や避難経路について「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が53.8%と最も高く、次いで「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない」(21.4%)の割合が高くなっています。

【地域別】



- 避難場所も避難所も知っている
- ▣ 避難所だけ知っている
- ▤ 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
- 知らない
- 無回答

【年齢別】



- 避難場所も避難所も知っている
- ▣ 避難場所だけ知っている
- ▤ 避難所だけ知っている
- ▥ 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない
- ▧ 知らない
- 無回答

- 地域別に見ると、鳥羽市以南の津波危険地域において、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が高くなっています。
- 年齢別に見ると、年齢が高いほど「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が高く、年齢が低いほど「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区別はわからない」と答えた方の割合が高い傾向にあります。

問 19 避難場所や避難所を知った経緯

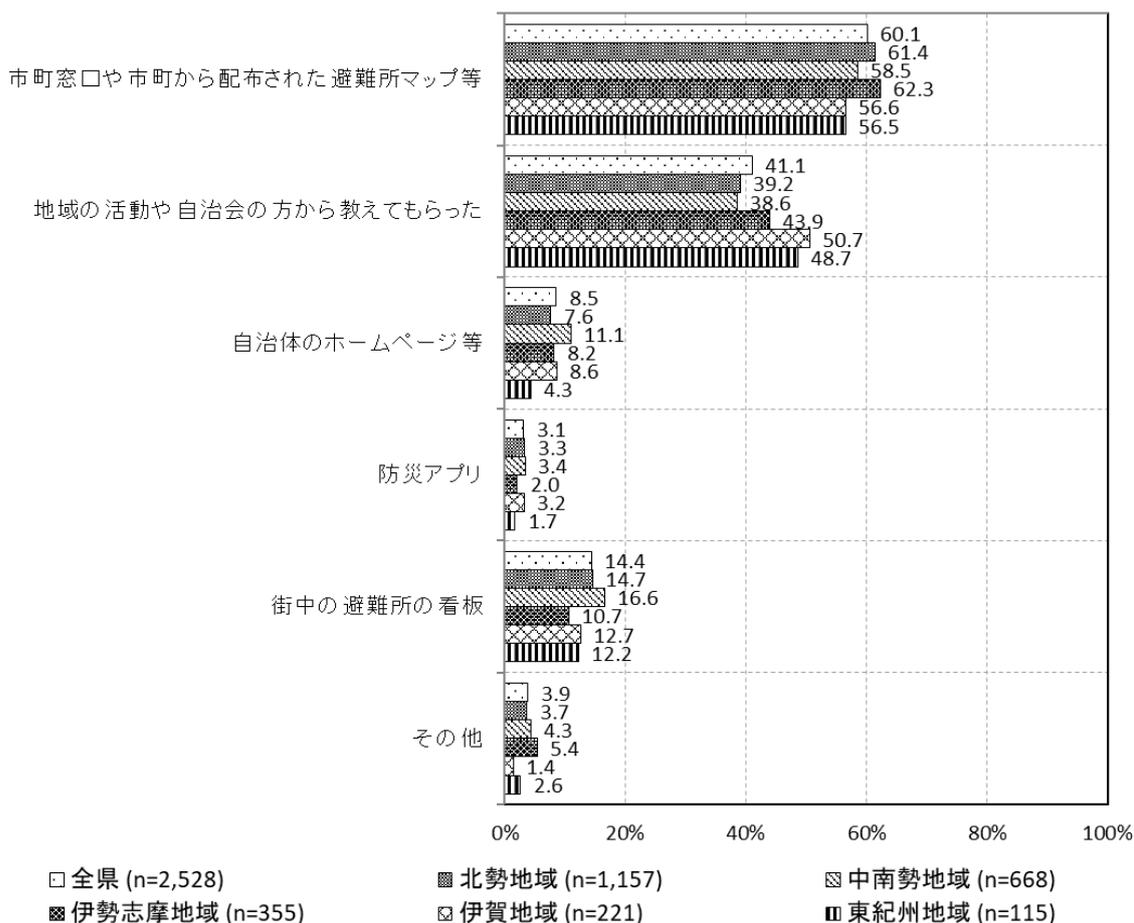
問 18 で選択肢1～4と回答された方にお尋ねします。

自宅付近の避難場所や避難所について、何によって知りましたか。(複数選択可)

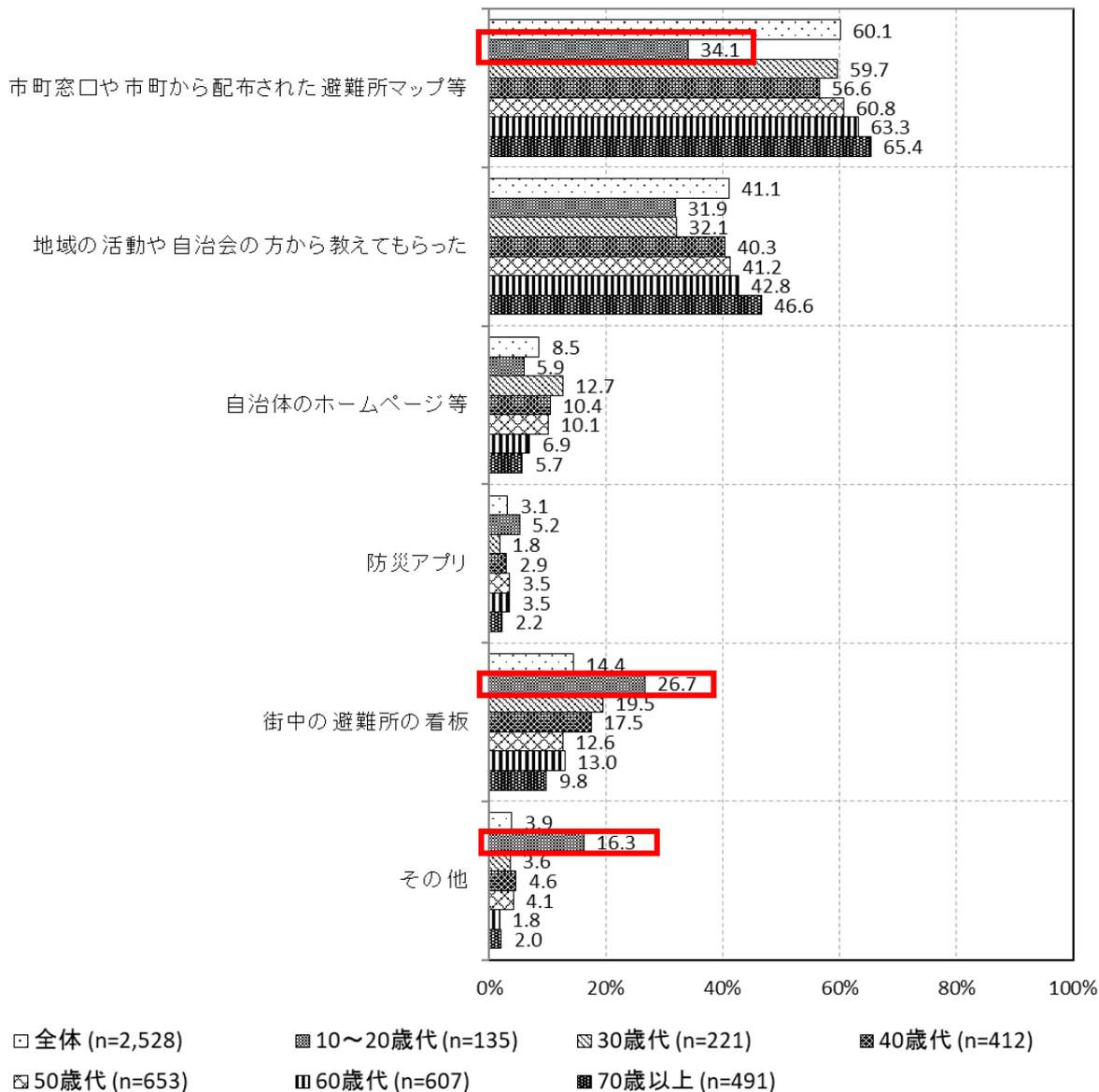
	1	2	3	4	5	6
選択肢	市町窓口や市町から配布された避難所マップ等	地域の活動や自治会の方から教えてもらった	自治体のホームページ等	防災アプリ	街中の避難所の看板	その他
R 6	60.1%	41.1%	8.5%	3.1%	14.4%	3.9%
R 5	58.7%	40.8%	5.6%	3.4%	14.9%	5.1%
R 4	58.2%	42.3%	-	-	-	3.5%

○ 避難場所や避難所を知った経緯について、「市町窓口や市町から配布された避難所マップ等」と答えた方が 60.1%と最も高くなっており、次いで「地域の活動や自治会の方から教えてもらった」が 41.1%となっています。

【地域別】



【年齢別】



○ 年齢別に見ると、10～20歳代において「市町窓口や市町から配布された避難所マップ等」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低く、「街中の避難所の看板」、「その他」と答えた方の割合が高くなっています。

○ 「その他」は、家族から聞いたという内容が多くなっています。

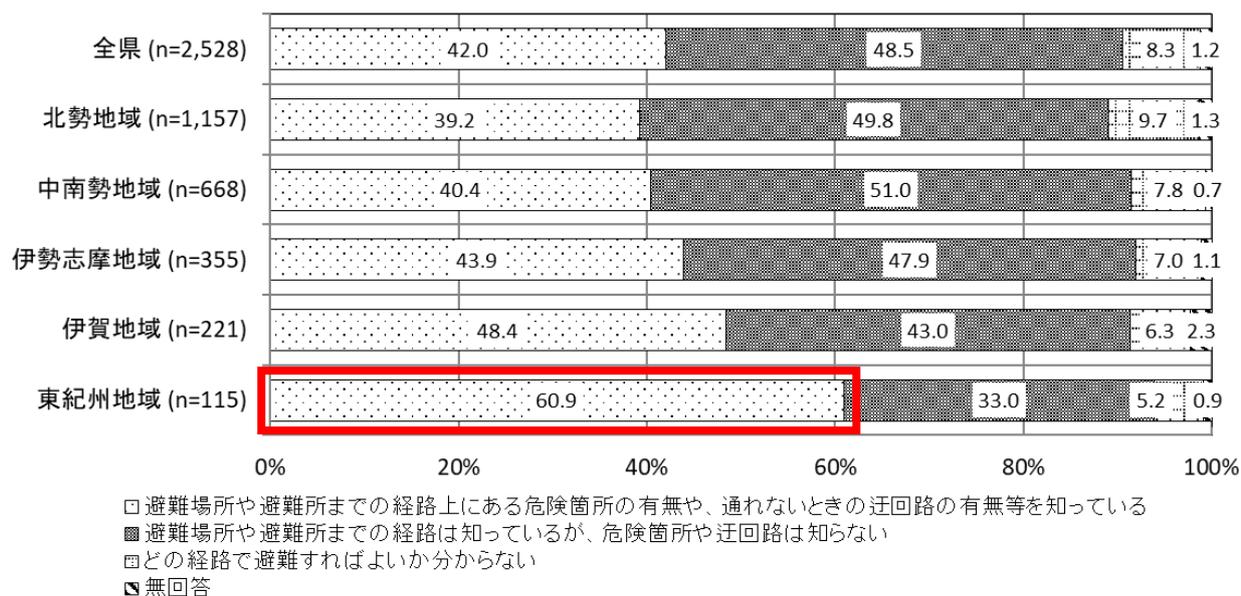
問 20 避難経路の認知度

自宅付近の避難場所や避難所までの避難経路について、どのくらい知っていますか。

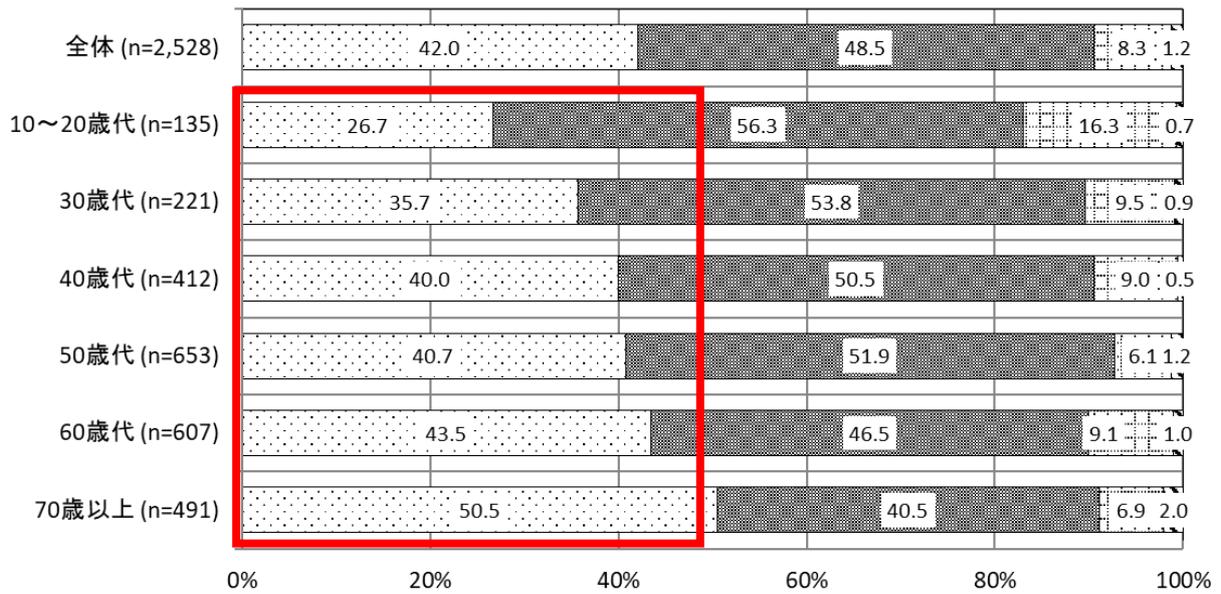
	1	2	3
選択肢	避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている	避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない	どの経路で避難すればよいか分からない
R 6	42.0%	48.5%	8.3%
R 5	40.8%	46.3%	11.0%
R 4	38.6%	46.1%	10.7%

○ 避難場所や避難所までの経路について、知っている(選択肢1, 2)と答えた方の割合が90.5% となっており、増加傾向にあります。

【地域別】



【年齢別】



- 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている
- 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
- どの経路で避難すればよいか分からない
- 無回答

- 地域別に見ると、東紀州地域において「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、年齢が高いほど「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている」と答えた方の割合が高くなっています。

問 21 避難所での生活において重視すること

避難所で生活することが必要となった場合、特にどのようなことを重視しますか。

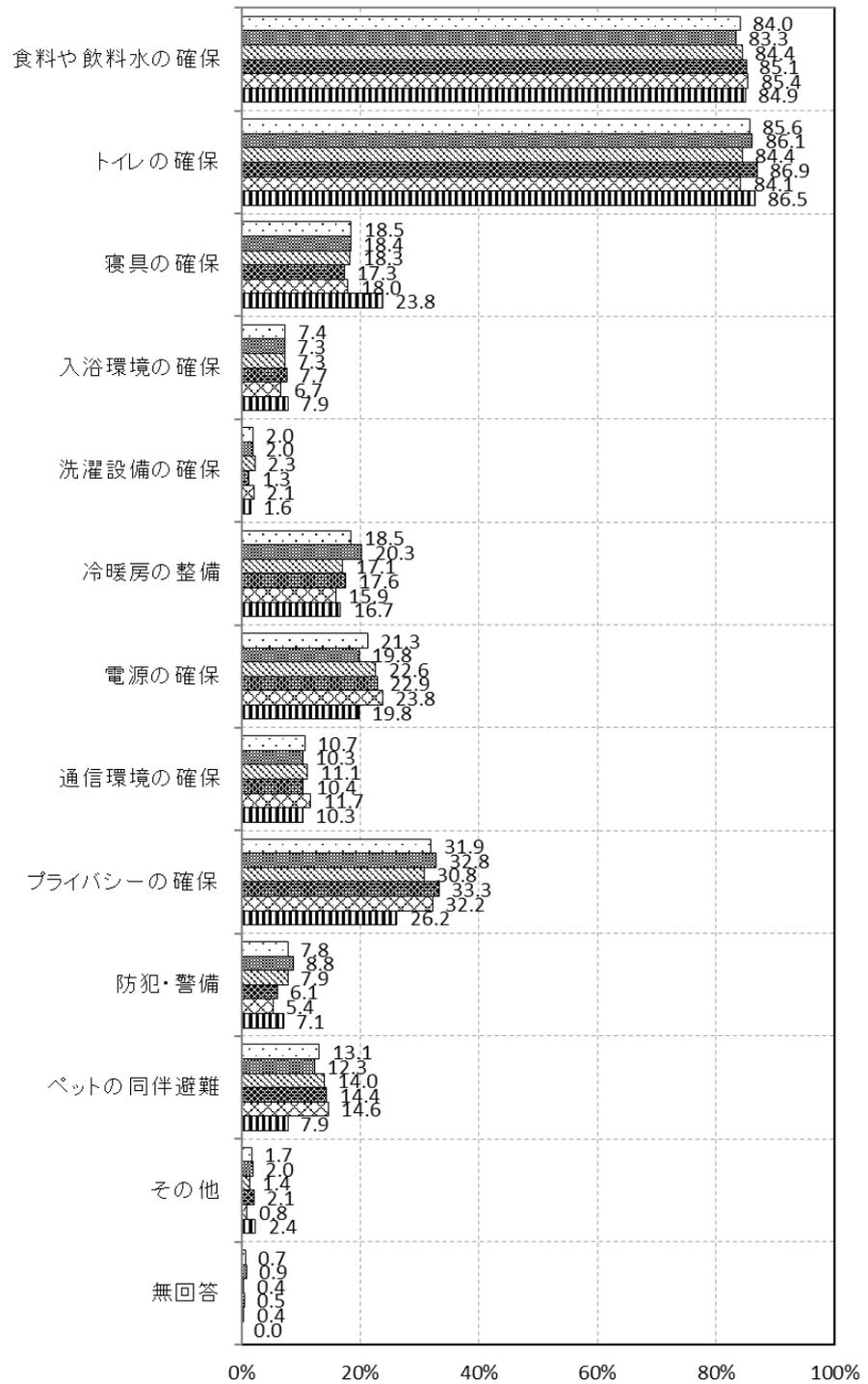
(3つまで選択可)

	1	2	3	4	5	6
選択肢	食料や飲料水の確保	トイレの確保	寝具の確保	入浴環境の確保	洗濯設備の確保	冷暖房の整備
R 6	84.0%	85.6%	18.5%	7.4%	2.0%	18.5%

	7	8	9	10	11	12
選択肢	電源の確保	通信環境の確保	プライバシーの確保	防犯・警備	ペットの同伴避難	その他
R 6	21.3%	10.7%	31.9%	7.8%	13.1%	1.7%

- 避難所での生活において重視することについて、「トイレの確保」と答えた方の割合が85.6%と最も高く、次いで、「食料や飲料水の確保」(84.0%)、「プライバシーの確保」(31.9%)の割合が高くなっています。

【地域別】



□ 全県 (n=2,766)

■ 北勢地域 (n=1,276)

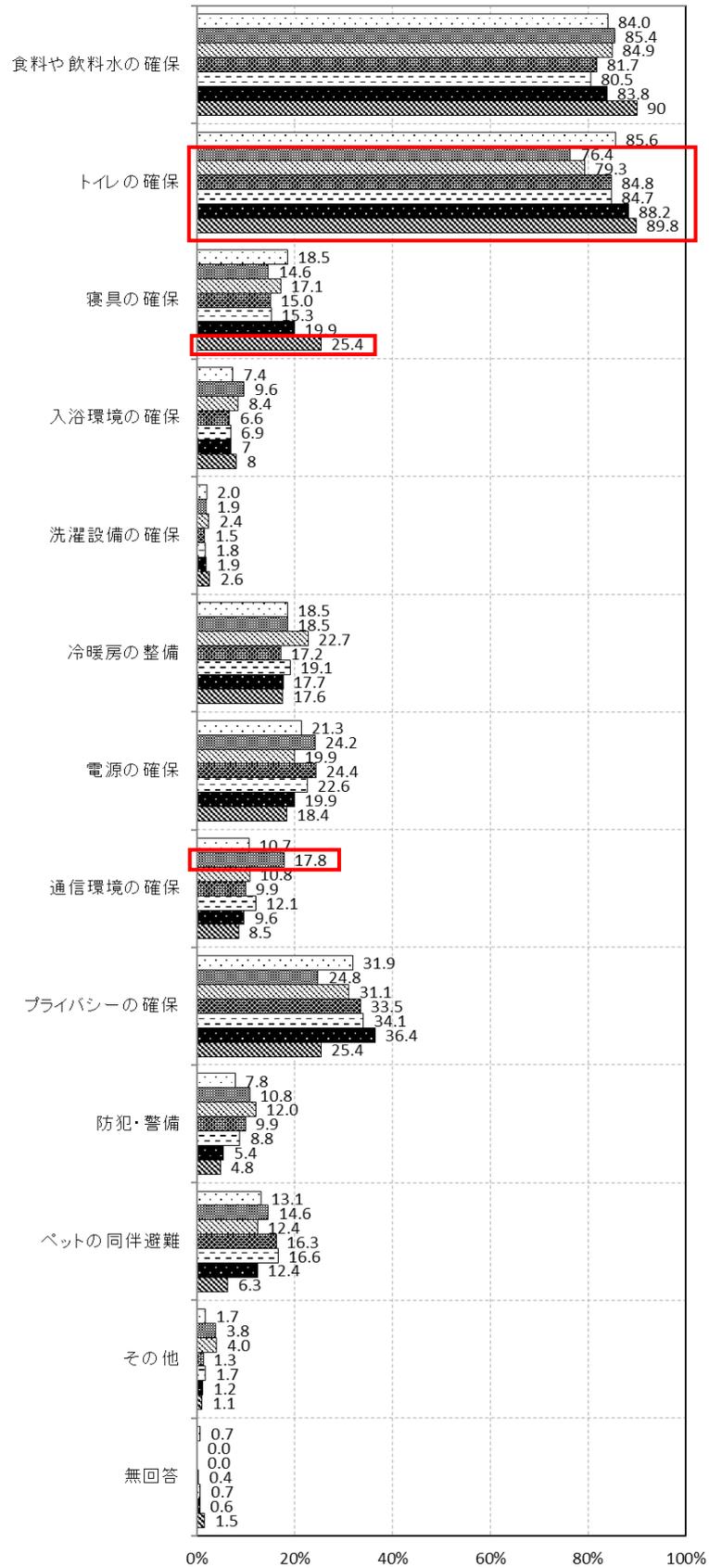
▨ 中南勢地域 (n=736)

▩ 伊勢志摩地域 (n=375)

▧ 伊賀地域 (n=239)

▦ 東紀州地域 (n=126)

【年齢別】



□ 全体 (n=2,766)

▨ 10~20歳代 (n=157)

▩ 30歳代 (n=251)

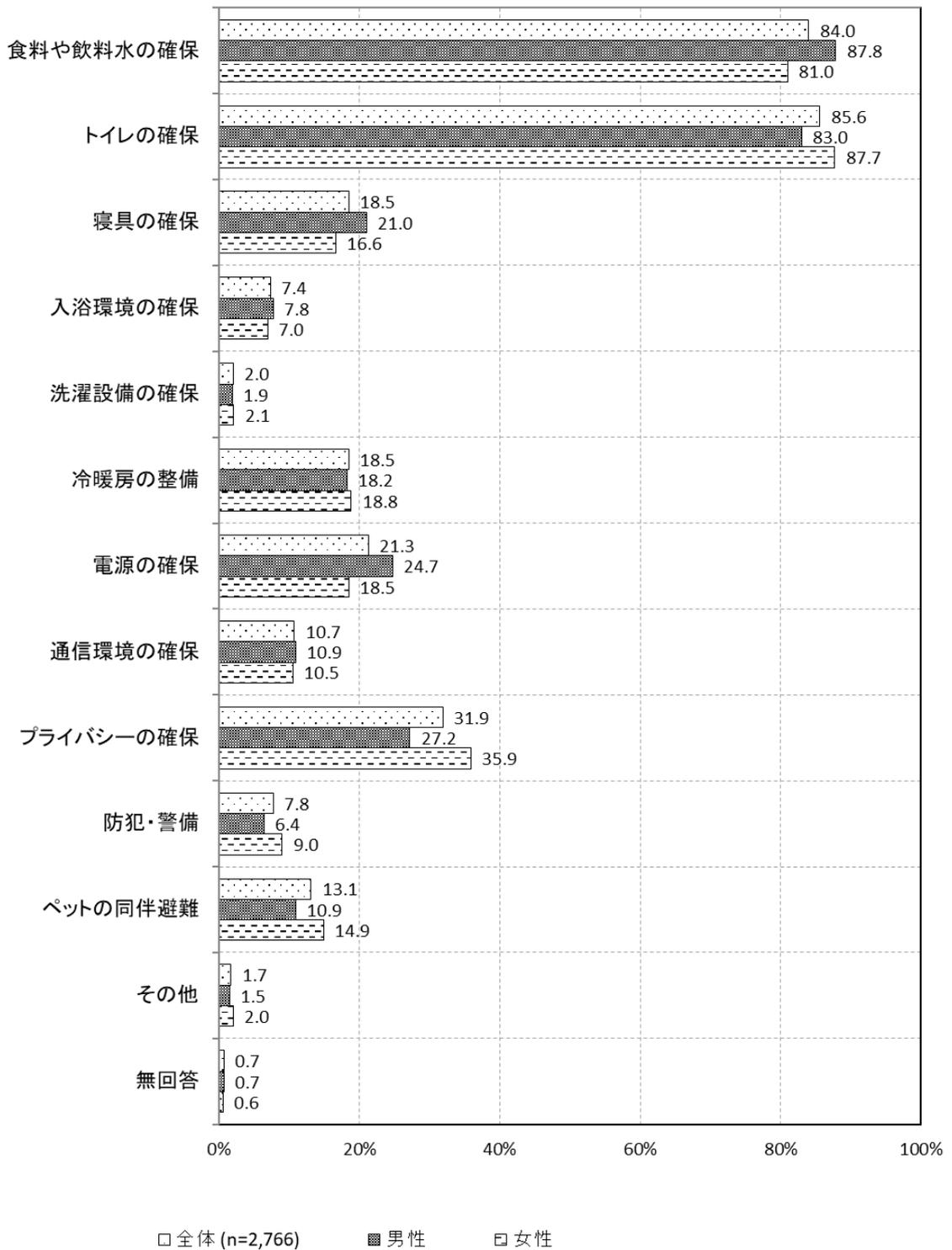
▧ 40歳代 (n=454)

▤ 50歳代 (n=712)

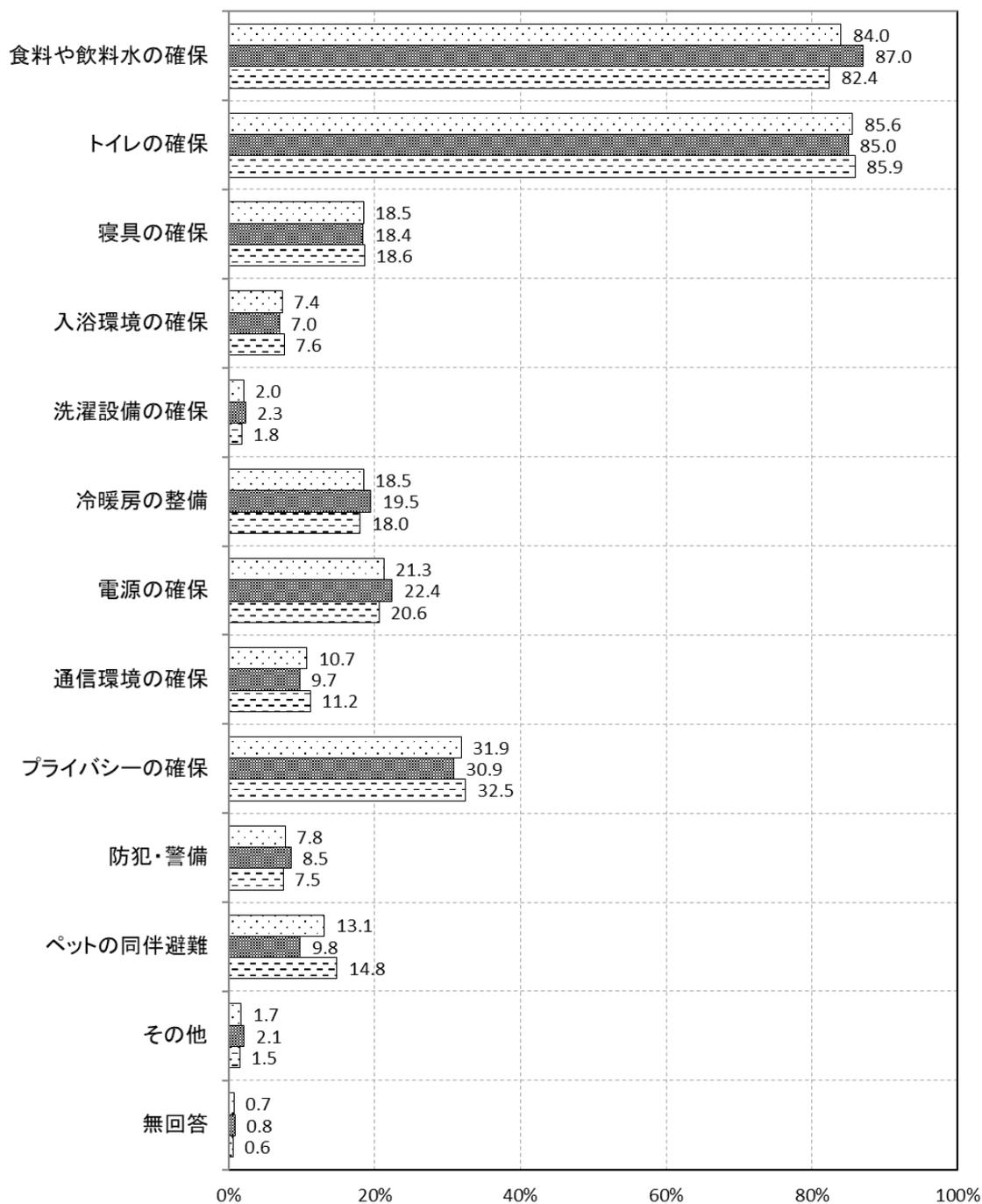
■ 60歳代 (n=643)

▦ 70歳以上 (n=539)

【性別】



【同居家族の中の要配慮者の有無】



□ 全体 (n=2,766) ■ 要配慮者が同居家族の中にいる (n=985) ▨ 要配慮者が同居家族の中にいない (n=1,781)

- 年齢別に見ると、年齢が高いほど「トイレの確保」と答えた方の割合が高い傾向にあります。
- また、10～20歳代において「通信環境の確保」、70歳以上において「寝具の確保」と答えた方の割合が他の年齢に比べて高くなっています。

(6) 日頃の防災対策について

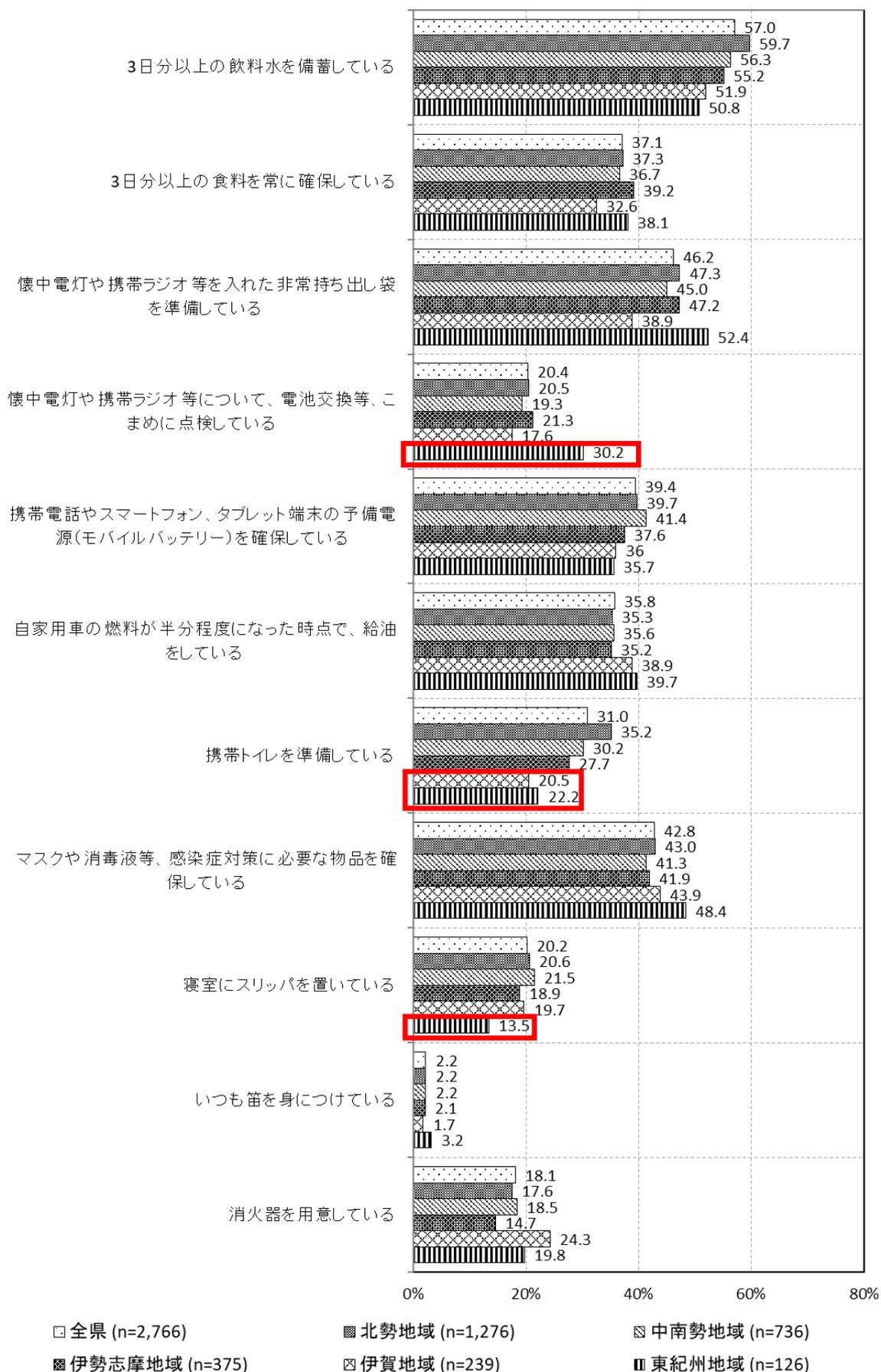
問 22 家庭での防災対策の状況

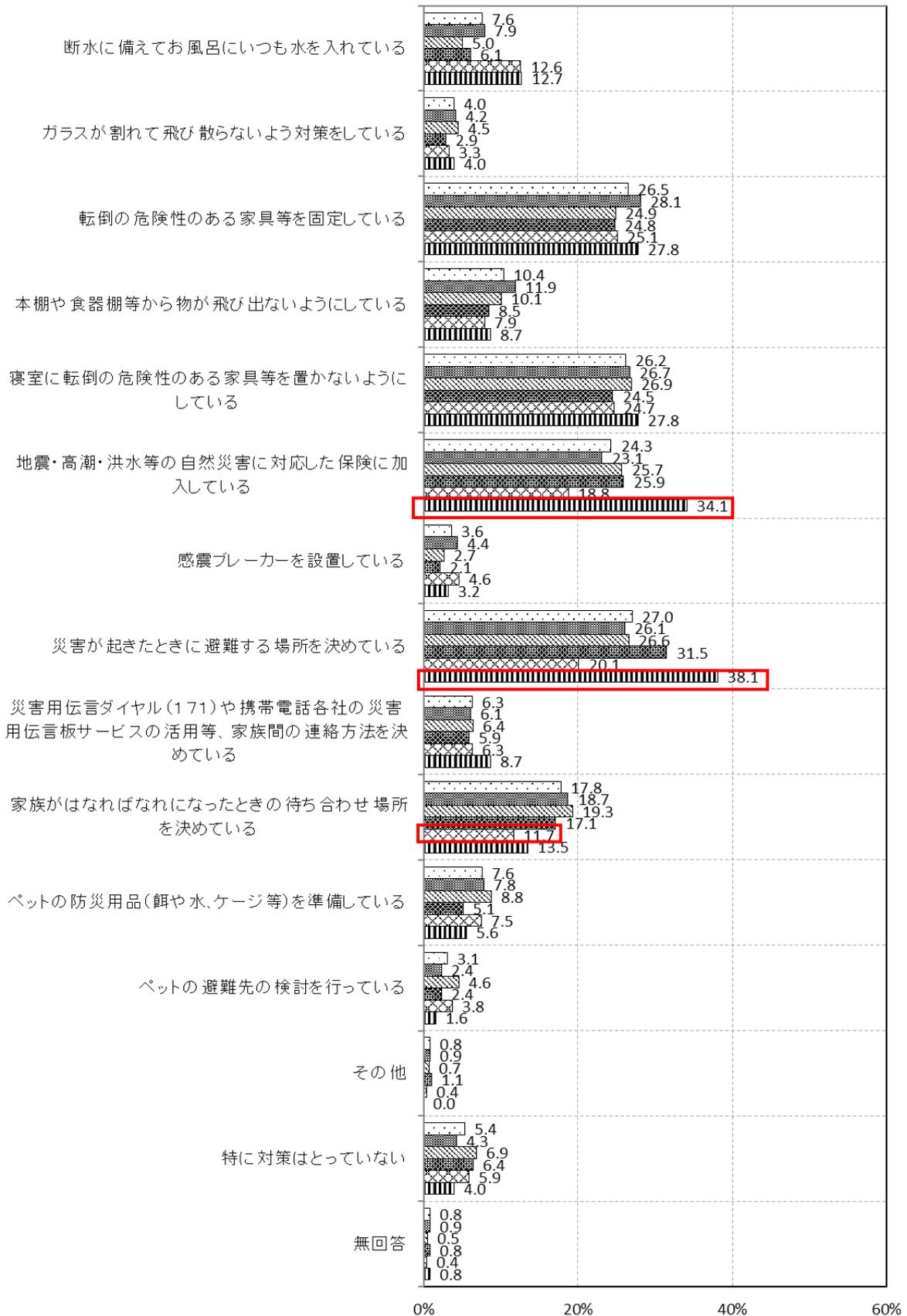
あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。(複数選択可)

選択肢	1	2	3	4	5
	3日分以上の飲料水を備蓄している	3日分以上の食料を常に確保している	懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している	懐中電灯や携帯ラジオ等について、電池交換等、こまめに点検している	携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の予備電源(モバイルバッテリー)を確保している
R 6	57.0%	37.1%	46.2%	20.4%	39.4%
R 5	39.5%	29.9%	41.1%	22.2%	33.6%
R 4	38.2%	33.1%	47.3%	32.9%	27.0%
選択肢	6	7	8	9	10
	自家用車の燃料が半分程度になった時点で給油をしている	携帯トイレを準備している	マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している	寝室にスリッパを置いている	いつも笛を身につけている
R 6	35.8%	31.0%	42.8%	20.2%	2.2%
R 5	32.2%	22.5%	41.8%	20.1%	2.3%
R 4	29.2%	18.3%	52.9%	13.2%	1.9%
選択肢	11	12	13	14	15
	消火器を用意している	断水に備えてお風呂にいつも水を入れている	ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている	転倒の危険性のある家具等を固定している	本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
R 6	18.1%	7.6%	4.0%	26.5%	10.4%
R 5	21.9%	7.6%	4.9%	25.5%	10.1%
R 4	24.9%	9.8%	4.8%	-	12.4%
選択肢	16	17	18	19	20
	寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている	地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している	感震ブレーカーを設置している	災害が起きたとき避難する場所を決めている	災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
R 6	26.2%	24.3%	3.6%	27.0%	6.3%
R 5	28.7%	27.3%	4.2%	22.2%	4.9%
R 4	32.5%	26.4%	2.9%	33.7%	6.4%
選択肢	21	22	23	24	25
	家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている	ペットの防災用品(餌や水、ケージ等)を準備している	ペットの避難先の検討を行っている	その他	特に対策をとっていない
R 6	17.8%	7.6%	3.1%	0.8%	5.4%
R 5	13.3%		3.6%	1.1%	9.7%
R 4	17.2%		3.9%	1.8%	7.4%

- 家庭での防災対策について、「3日分以上の飲料水を備蓄している」と答えた方の割合が57.0%と最も高く、次いで、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」(46.2%)、「感染症対策に必要な物品を確保している」(42.8%)、「携帯電話やスマートフォン等の予備電源を確保している」(39.4%)、「3日分以上の食料を常に確保している」(37.1%)の割合が高くなっています。
- 特に、「3日分以上の飲料水を備蓄している」(17.5ポイント増加)、「3日分以上の食料を常に確保している」(7.2ポイント増加)と答えた方の割合が昨年度から大きく増加しています。

【地域別】





□ 全県 (n=2,766)

■ 北勢地域 (n=1,276)

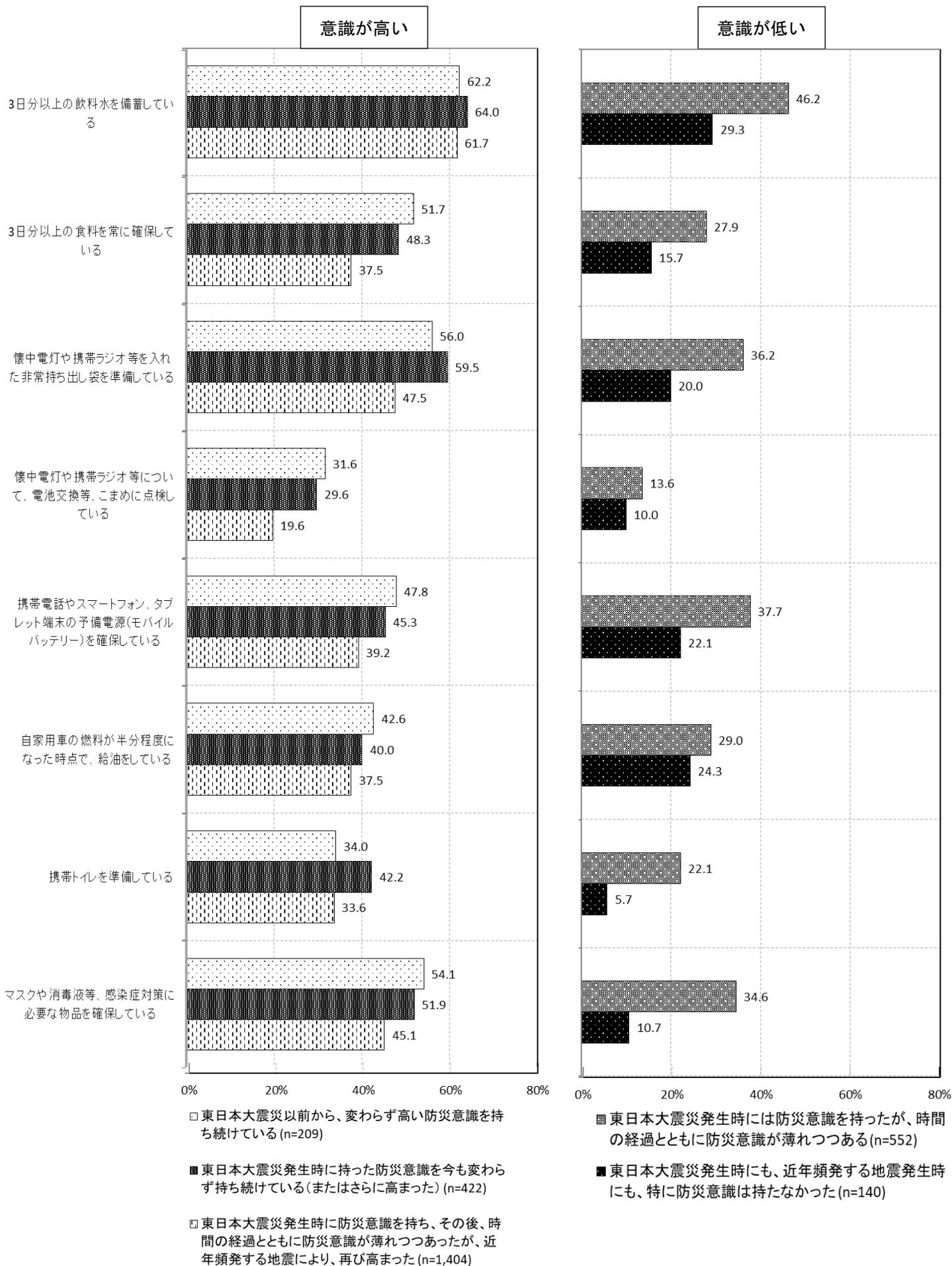
▨ 中南勢地域 (n=736)

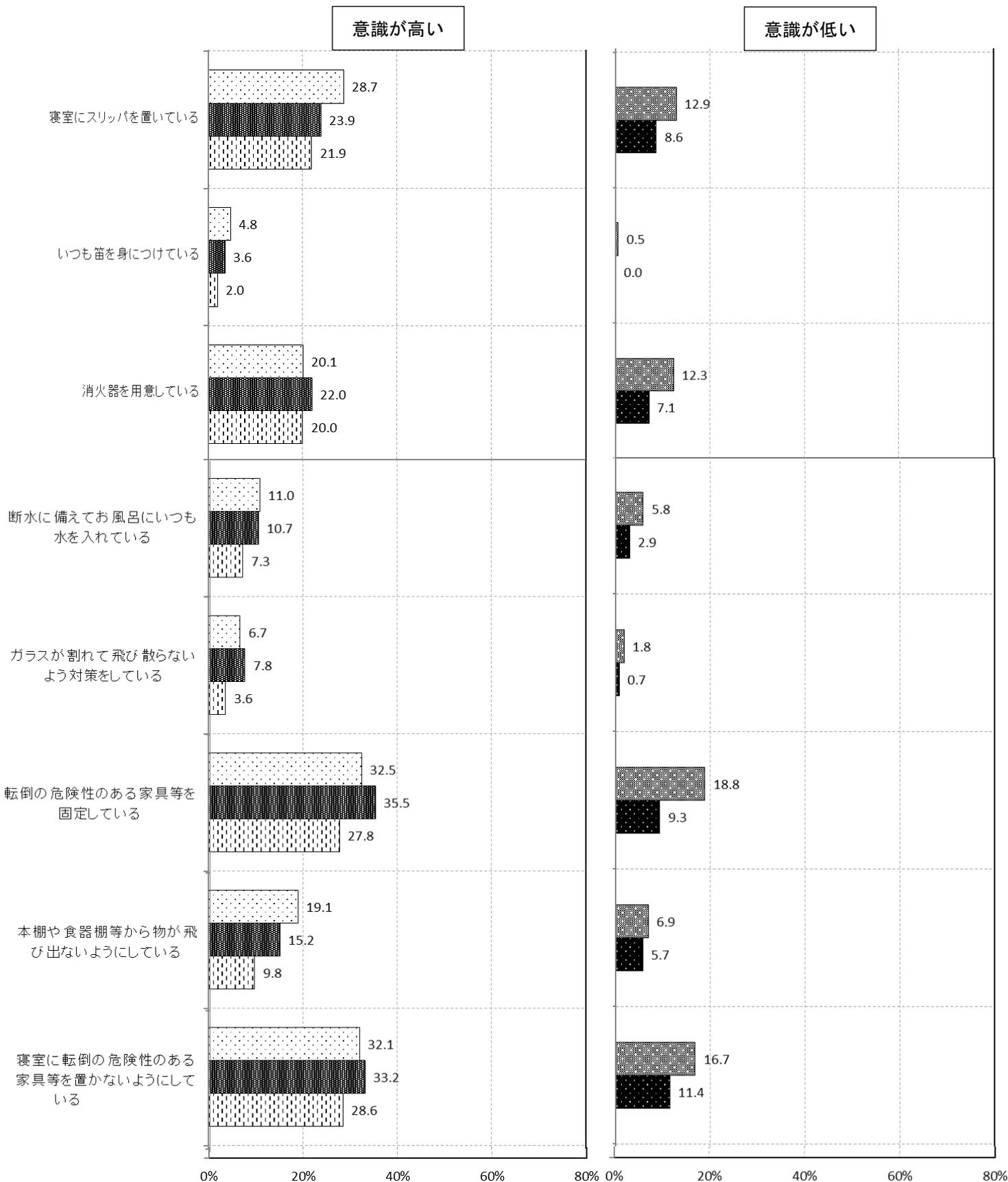
▩ 伊勢志摩地域 (n=375)

▧ 伊賀地域 (n=239)

▦ 東紀州地域 (n=126)

【地震に対する防災意識との関係】





□ 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている (n=209)

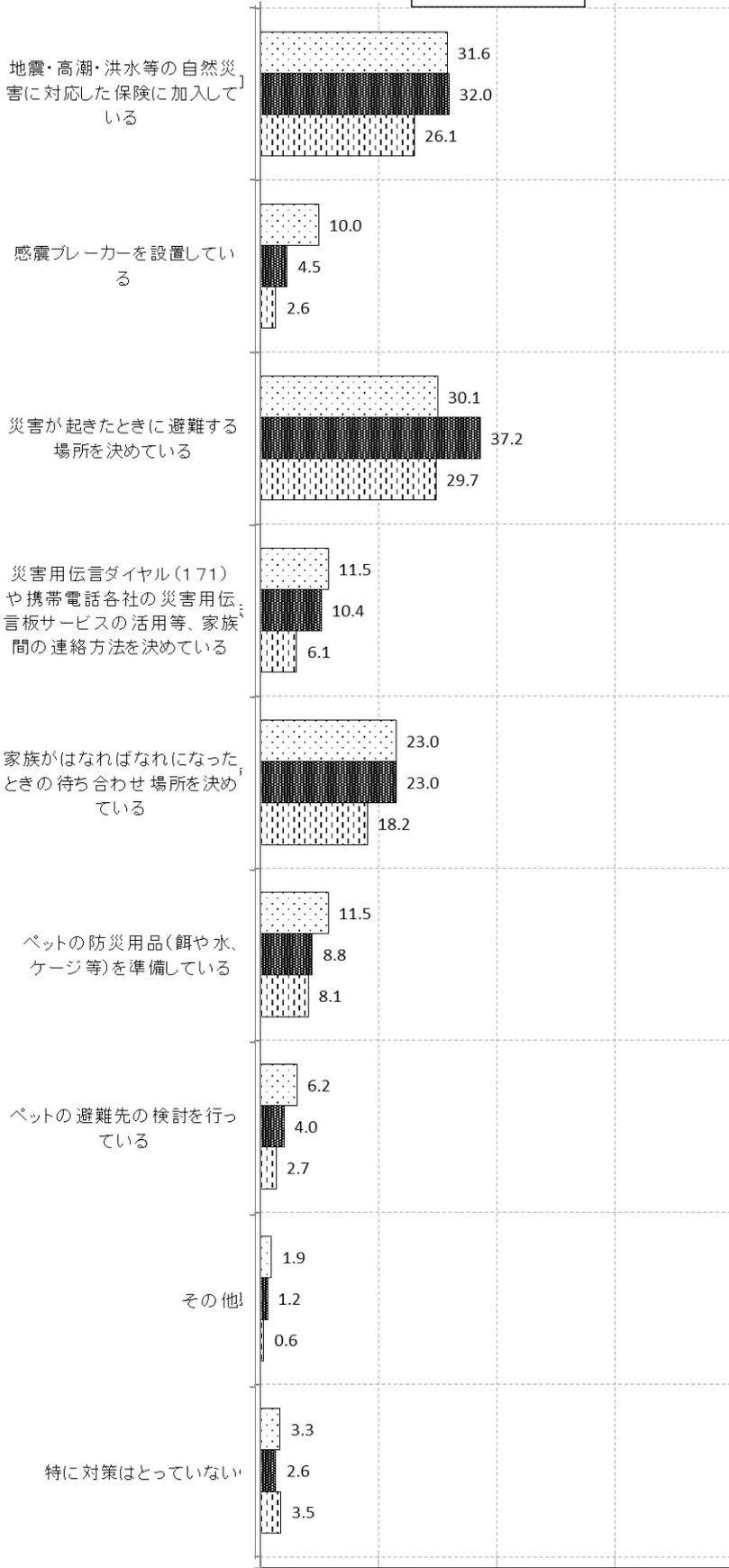
■ 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている (またはさらに高まった) (n=422)

□ 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった (n=1,404)

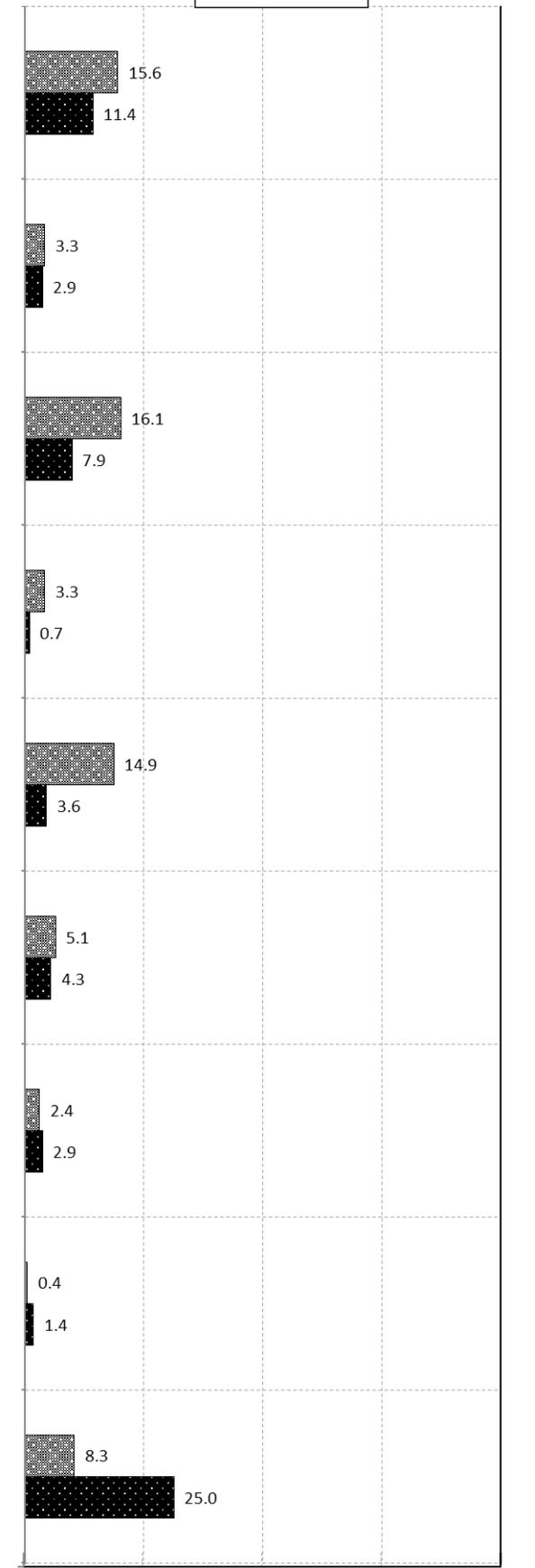
■ 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=552)

■ 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった (n=140)

意識が高い



意識が低い



□ 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している (n=209)

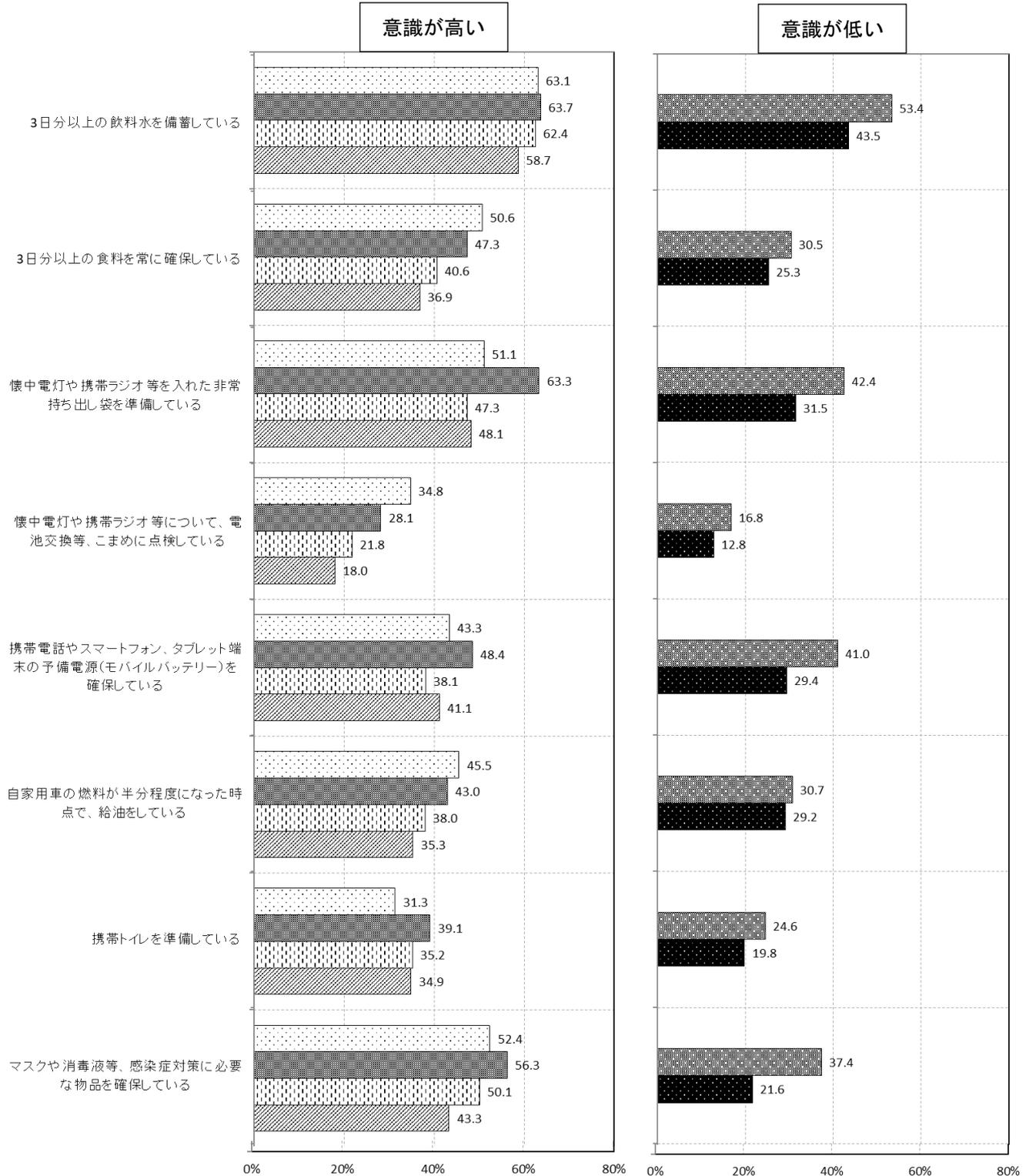
■ 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった) (n=422)

□ 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった (n=1,404)

■ 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=552)

■ 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった (n=140)

【風水害に対する防災意識との関係】



□ 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している (n=233)

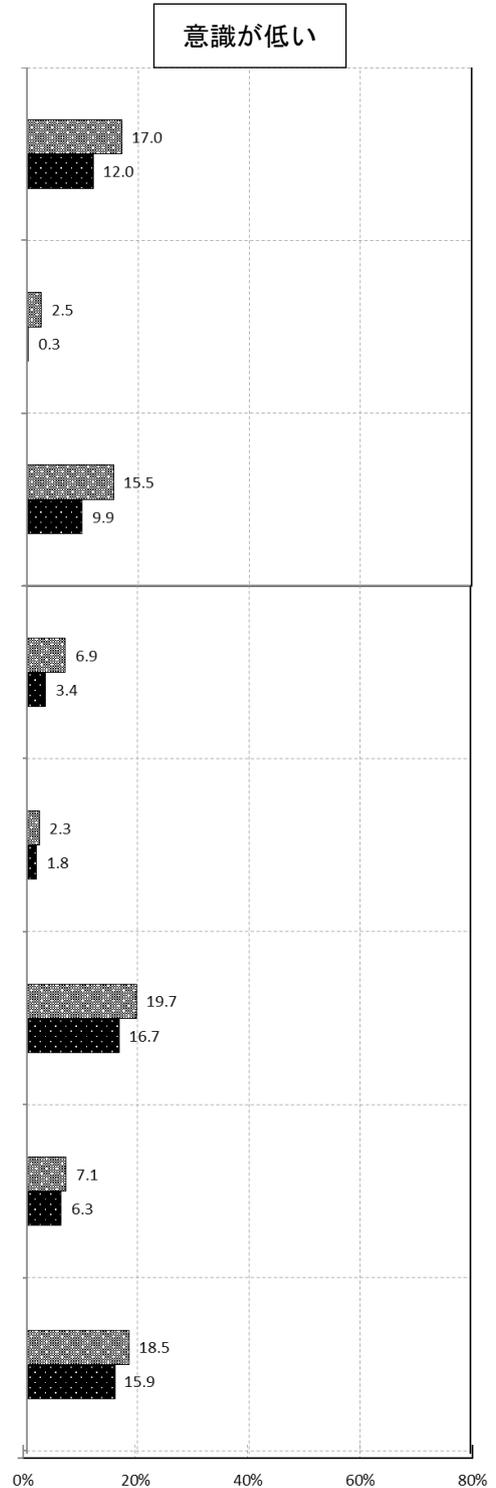
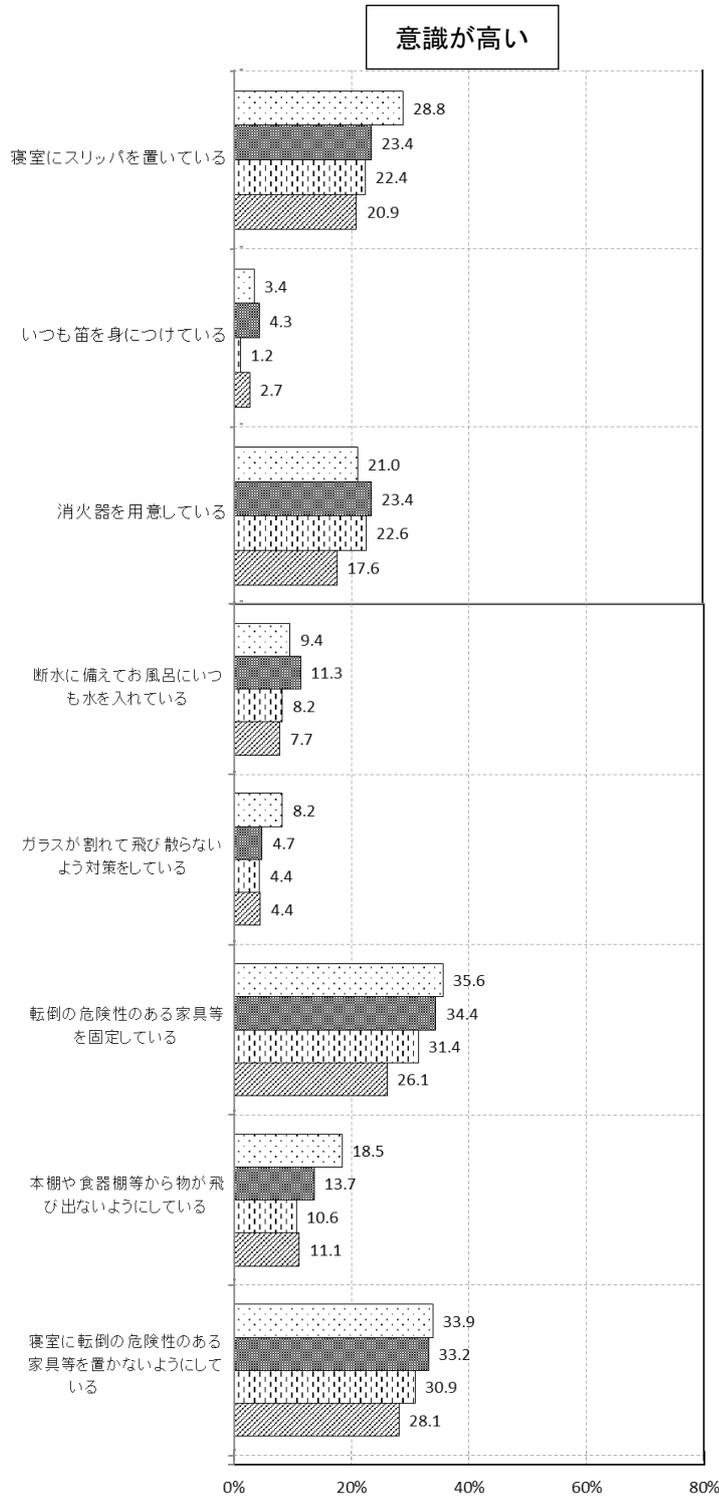
■ 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった) (n=256)

□ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった (n=687)

☒ 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった (n=700)

■ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=476)

■ 紀伊半島大水害当時間も、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった (n=384)



□ 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を
 持ち続けている (n=233)

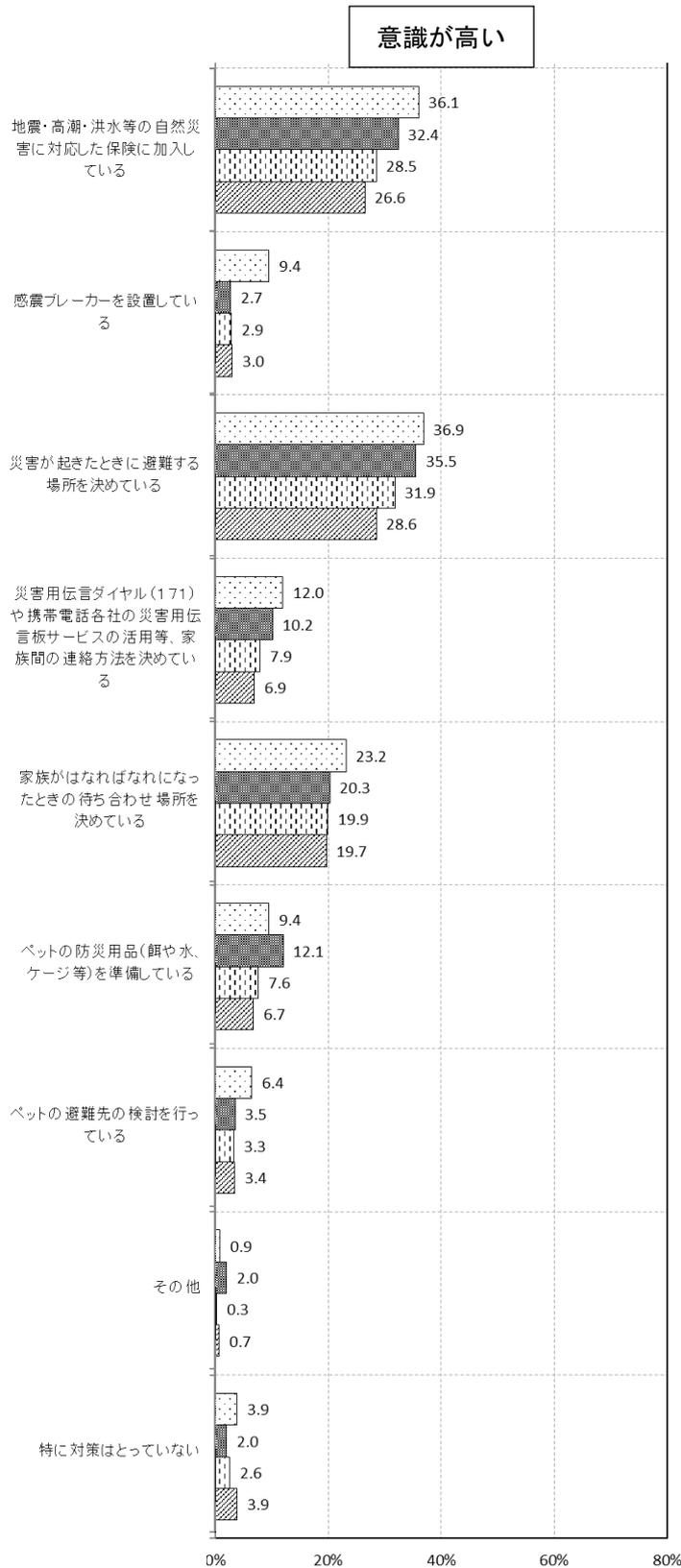
■ 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず
 持ち続けている (またはさらに高まった) (n=256)

□ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間
 の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年
 頻発する風水害により、再び高まった (n=687)

■ 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかった
 が、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった
 (n=700)

■ 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間
 の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=476)

■ 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生
 時にも、特に防災意識は持たなかった (n=384)

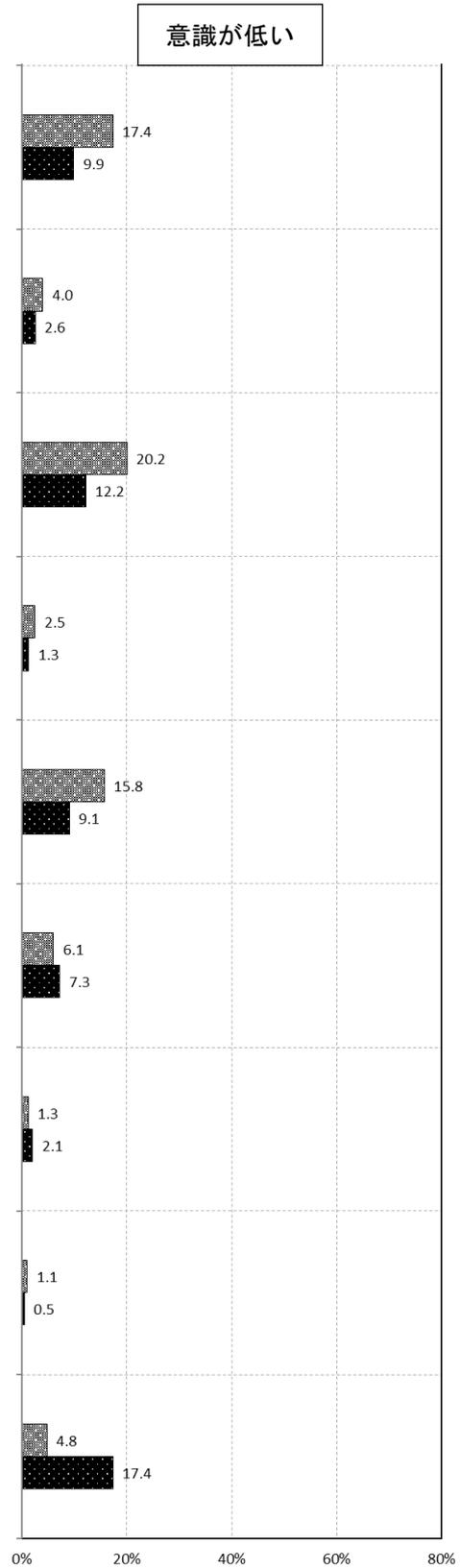


紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している (n=233)

紀伊半島大水害当時持った防災意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった) (n=256)

紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった (n=687)

紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった (n=700)



紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある (n=476)

紀伊半島大水害当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった (n=384)

- 地域別に見ると、東紀州地域において、「懐中電灯や携帯ラジオ等の電池交換等をこまめに点検している」、「自然災害に対応した保険に加入している」、「災害が起きた時に避難する場所を決めている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高く、「携帯トイレを準備している」、「寝室にスリッパを置いている」と答えた方の割合が低くなっています。
- また、伊賀地域において「携帯トイレを準備している」「家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて低くなっています。
- 地震や風水害に対する防災意識との関係を見ると、「高い防災意識を持ち続けている」、「近年頻発する地震や風水害により再び高まった」と答えた方は、家庭での防災対策をよく行っている傾向にあり、「時間の経過とともに防災意識が薄れつつある」「特に防災意識は持たなかった」と答えた方は、家庭での防災対策をあまり行っていない傾向にあります。

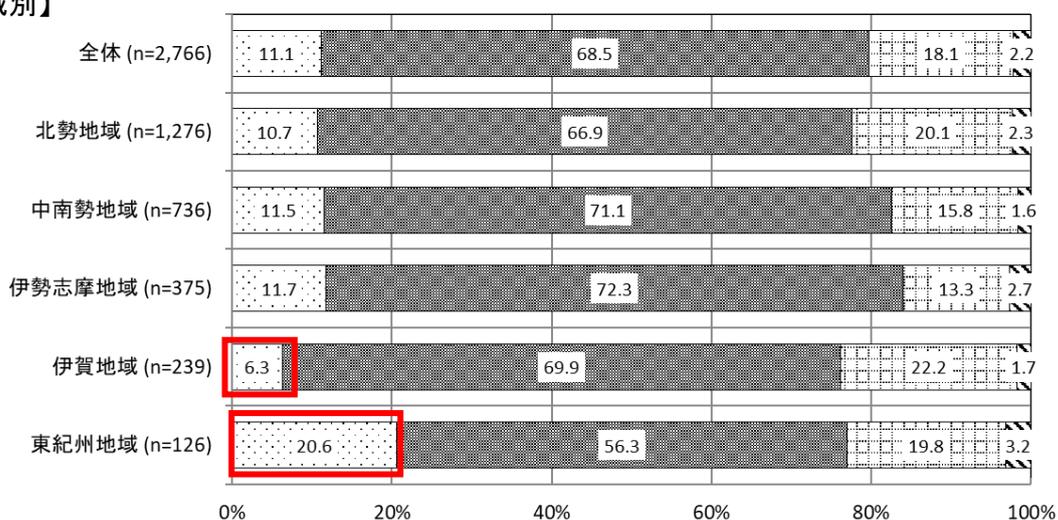
問 23 日頃の防災対策についての身近な人との話し合いの状況

あなたは日ごろの防災対策について家族や親戚、知人などの身近な人と話し合っていますか。

	1	2	3
選択肢	日頃からよく話し合っている	日頃から話し合っていないが、話し合ったことがある	話し合ったことがない
R 6	11.1%	68.5%	18.1%
R 5	5.4%	62.9%	28.7%

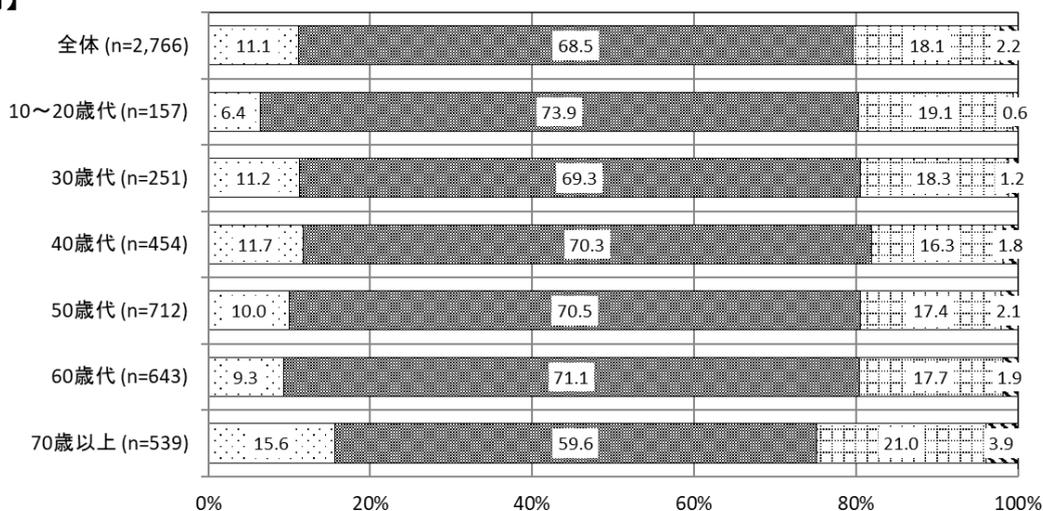
○ 日頃の防災対策について、79.6%の方が身近な人と話し合ったことがある(選択肢1, 2)と答えており、昨年度と比べて11.3ポイント増加しています。

【地域別】



□ 日頃からよく話し合っている ■ 日頃から話し合っていないが、話し合ったことがある ▨ 話し合ったことがない ▩ 無回答

【年齢別】



□ 日頃からよく話し合っている ■ 日頃から話し合っていないが、話し合ったことがある ▨ 話し合ったことがない ▩ 無回答

○ 地域別に見ると、「日頃からよく話し合っている」と答えた方の割合が、東紀州地域において高く、伊賀地域において低くなっています。

(7) 地域・職場での防災活動について

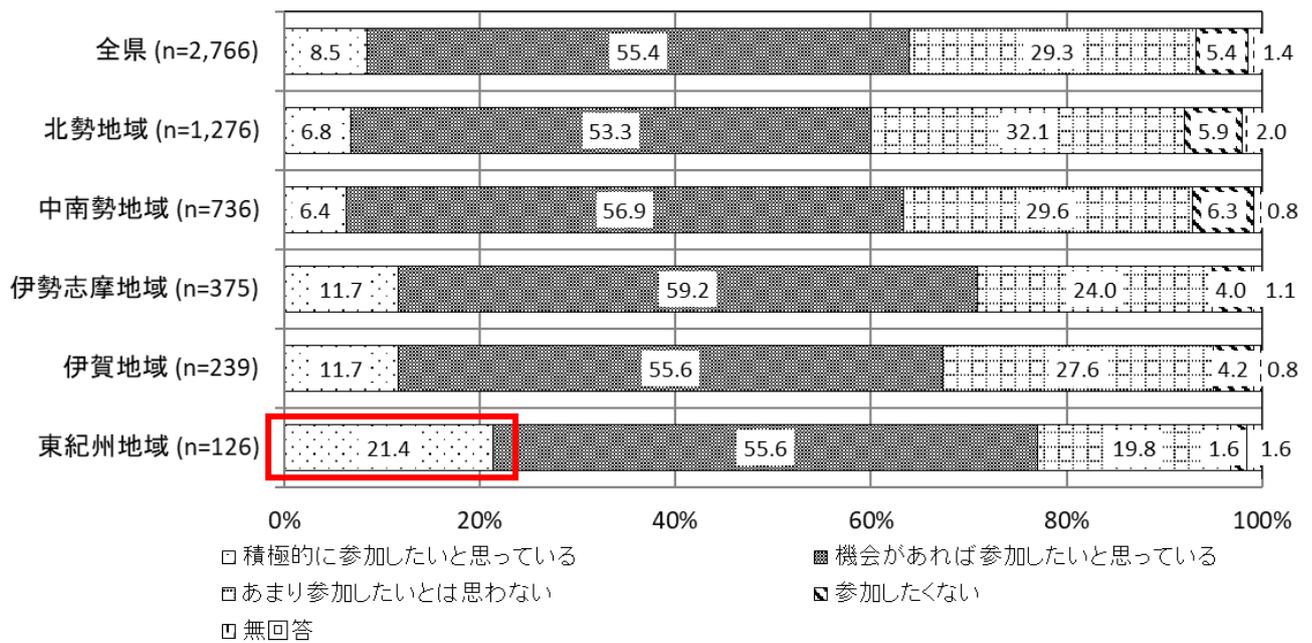
問 24 地域の防災活動への参加意識

地域で実施される防災活動に参加しようと思いますか。

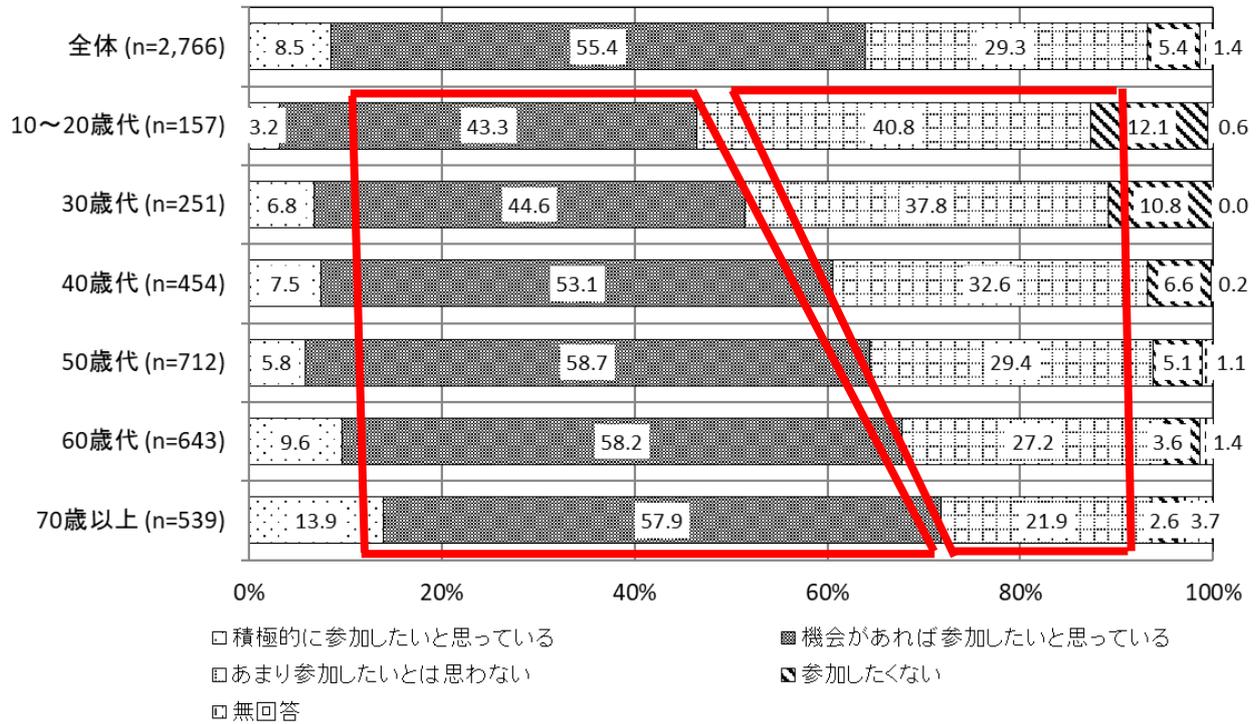
選択肢	1	2	3	4
		積極的に参加したいと思っている	機会があれば参加したいと思っている	あまり参加したいとは思わない
R 6	8.5%	55.4%	29.3%	5.4%
R 5	8.1%	53.0%	31.7%	6.1%
R 4	9.3%	62.7%	17.3%	7.7%

○ 地域の防災活動への参加意識について、「積極的に参加したいと思っている」、「機会があれば参加したいと思っている」と答えた方の割合が 63.9%となっている一方で、34.7%の方が「あまり参加したいとは思わない」、「参加したくない」と答えています。

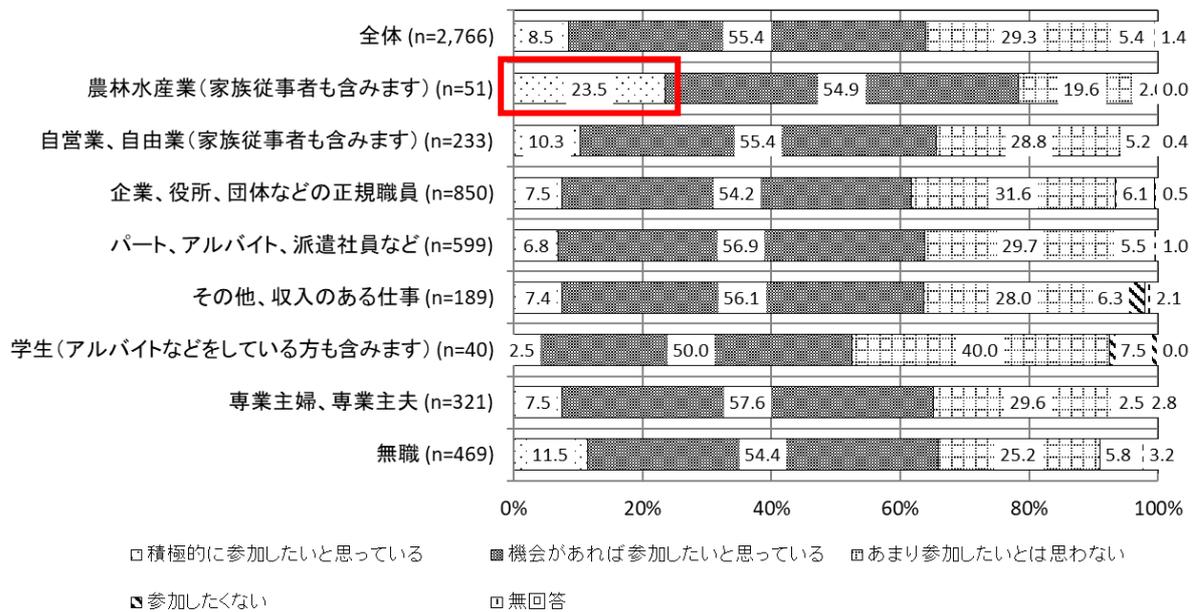
【地域別】



【年齢別】



【職業別】



○ 地域別に見ると、東紀州地域において「積極的に参加したいと思っている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。

○ 年齢別に見ると、年齢が高いほど「機会があれば参加したいと思っている」と答えた方の割合が高く、年齢が低いほど「あまり参加したいとは思わない」と答えた方の割合が低くなっています。

- 職業別に見ると、「積極的に参加したいと思っている」と答えた農林水産業（家族従事者も含まれます）に従事する方の割合が、他の職業に比べて高くなっています。

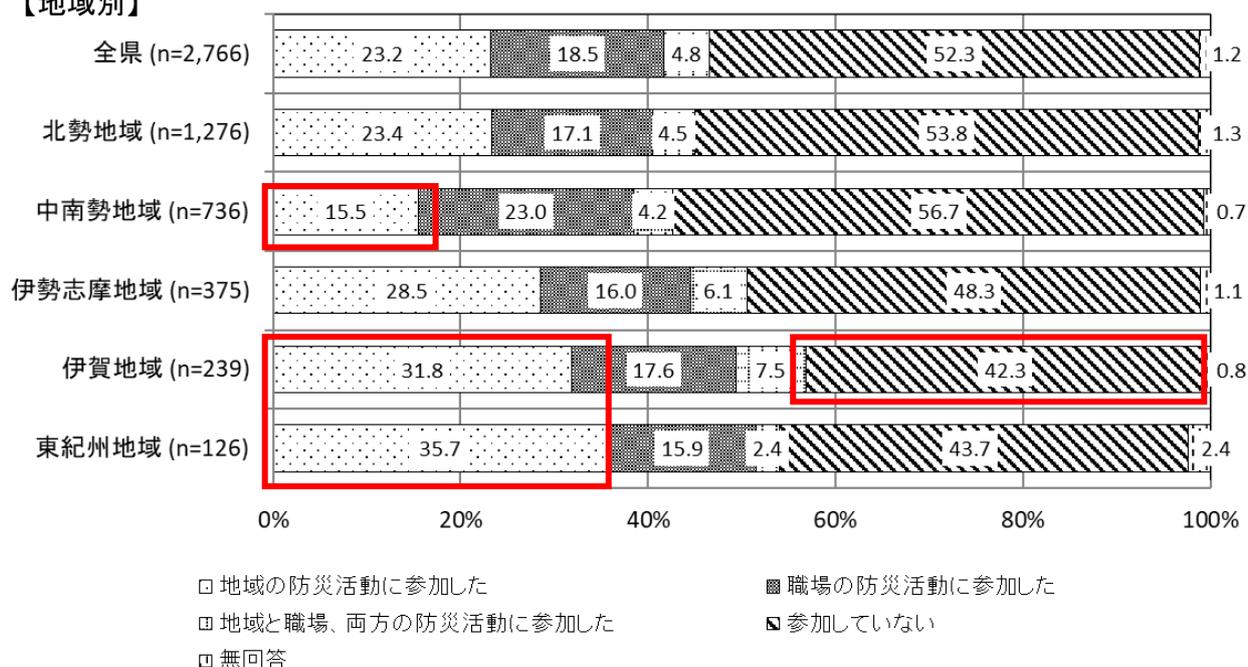
問 25 地域や職場における防災活動への参加状況

過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動に参加したことがありますか。

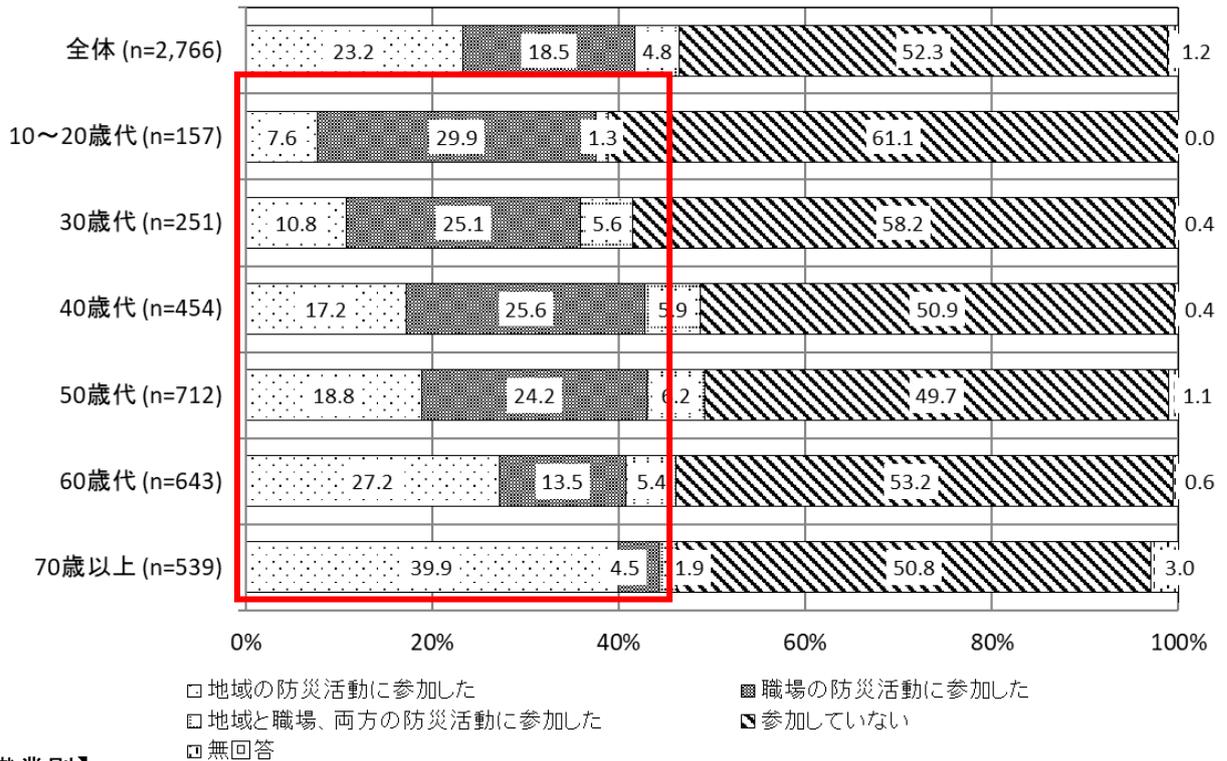
	1	2	3	4
選択肢	地域の防災活動に参加した	職場の防災活動に参加した	地域と職場、両方の防災活動に参加した	参加していない
R 6	23.2%	18.5%	4.8%	52.3%
R 5	23.0%	15.6%	4.2%	56.2%
R 4	19.3%	16.9%	3.2%	58.1%

- 地域や職場における防災活動について、「地域の防災活動に参加した」、「職場の防災活動に参加した」、「地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方の割合がそれぞれ 23.2%、18.5%、4.8%となっている一方で、「参加していない」と答えた方の割合が 52.3%と最も高くなっています。

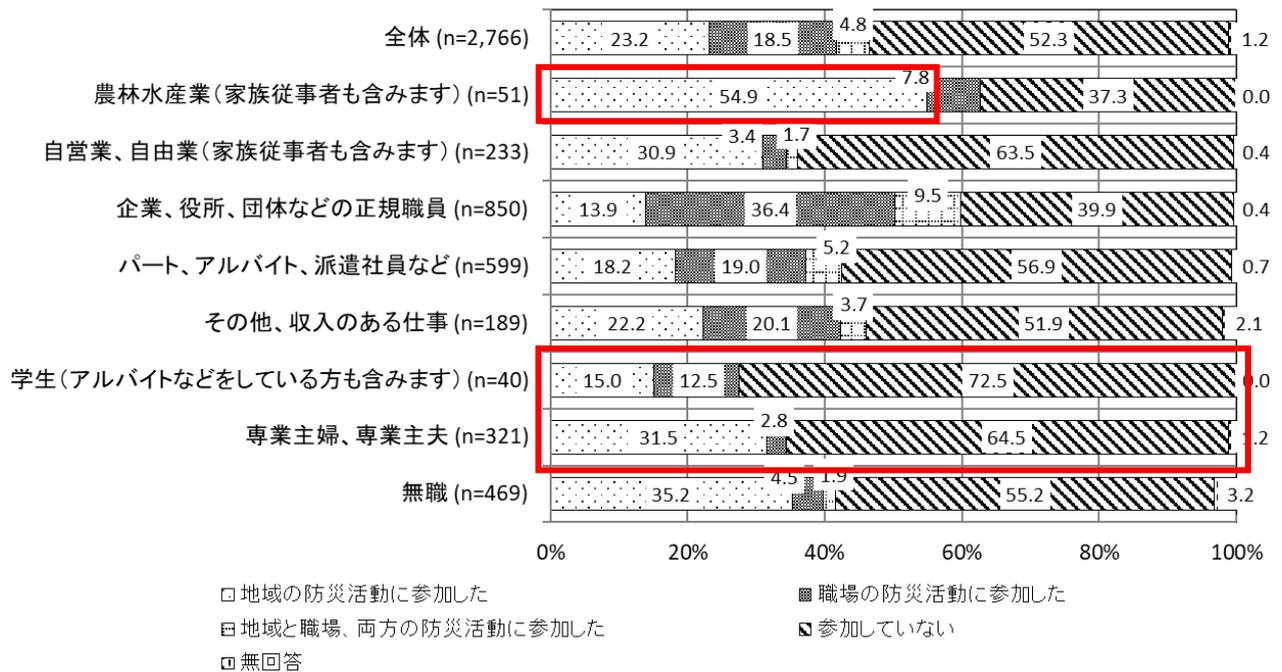
【地域別】



【年齢別】



【職業別】



- 地域別に見ると、「地域の防災活動に参加した」と答えた方の割合が、伊賀地域、東紀州地域において他の地域より高く、中南勢地域において低くなっています。
- また、伊賀地域において「参加していない」と答えた方の割合が他の地域に比べて低くなっています。
- 年齢別に見ると、年齢が高いほど「地域の防災活動に参加した」と答えた方の割合が高く、年齢が低いほど「職場の防災活動に参加した」と答えた方の割合が高くなっています。
- 職業別に見ると、「地域の防災活動に参加した」と答えた農林水産業（家族従事者も含まれます）に従事する方の割合が、他の職業に比べて高くなっています。その一方で、「参加していない」と答えた学生（アルバイトなどを行っている方も含まれます）や専業主婦、専業主夫の方の割合が、他の職業に比べて高くなっています。

問 26 地域の防災活動に参加したきっかけ

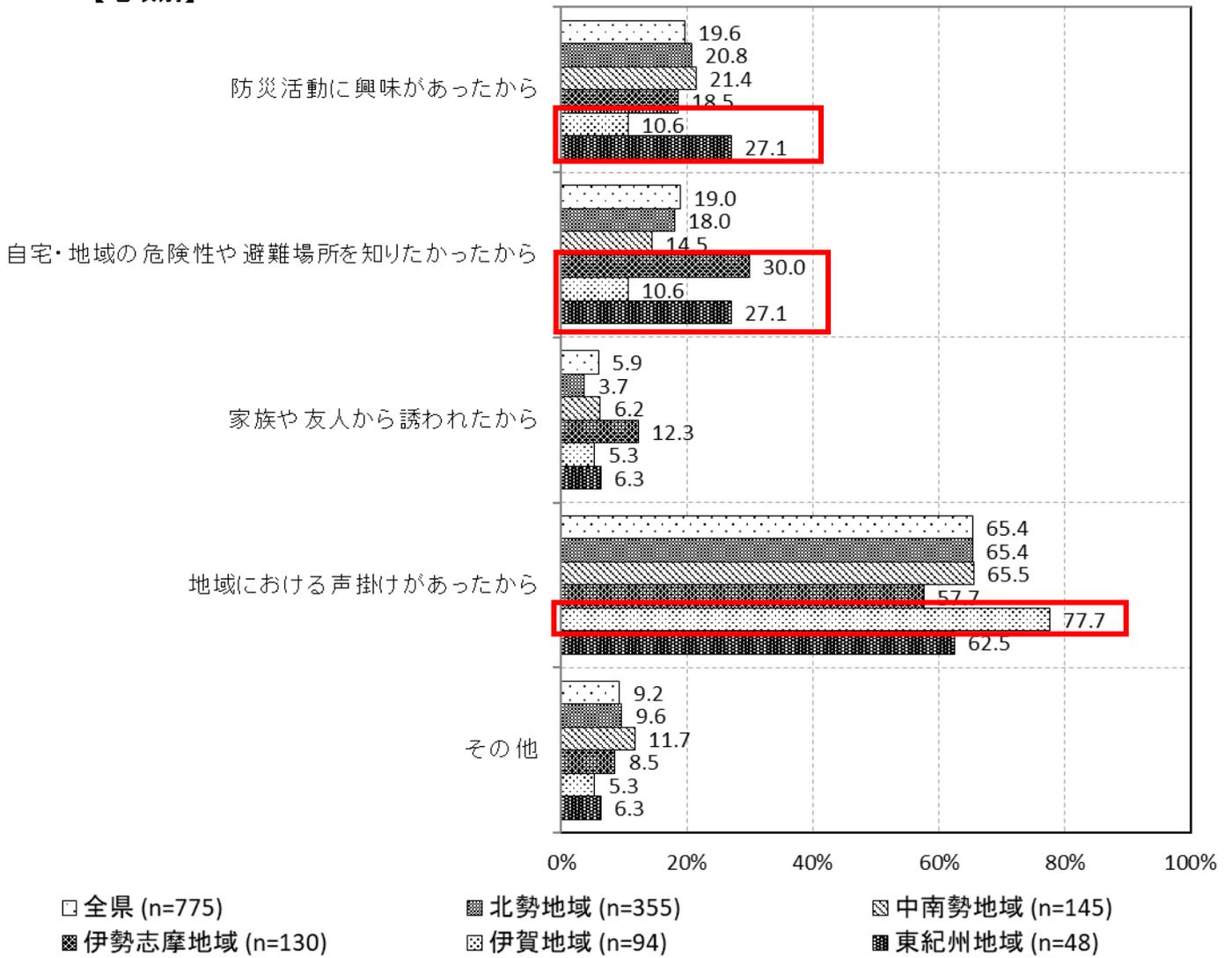
問 25 で選択肢1または3と回答された方にお尋ねします。

地域の防災活動に参加したきっかけはなんですか。（複数選択可）

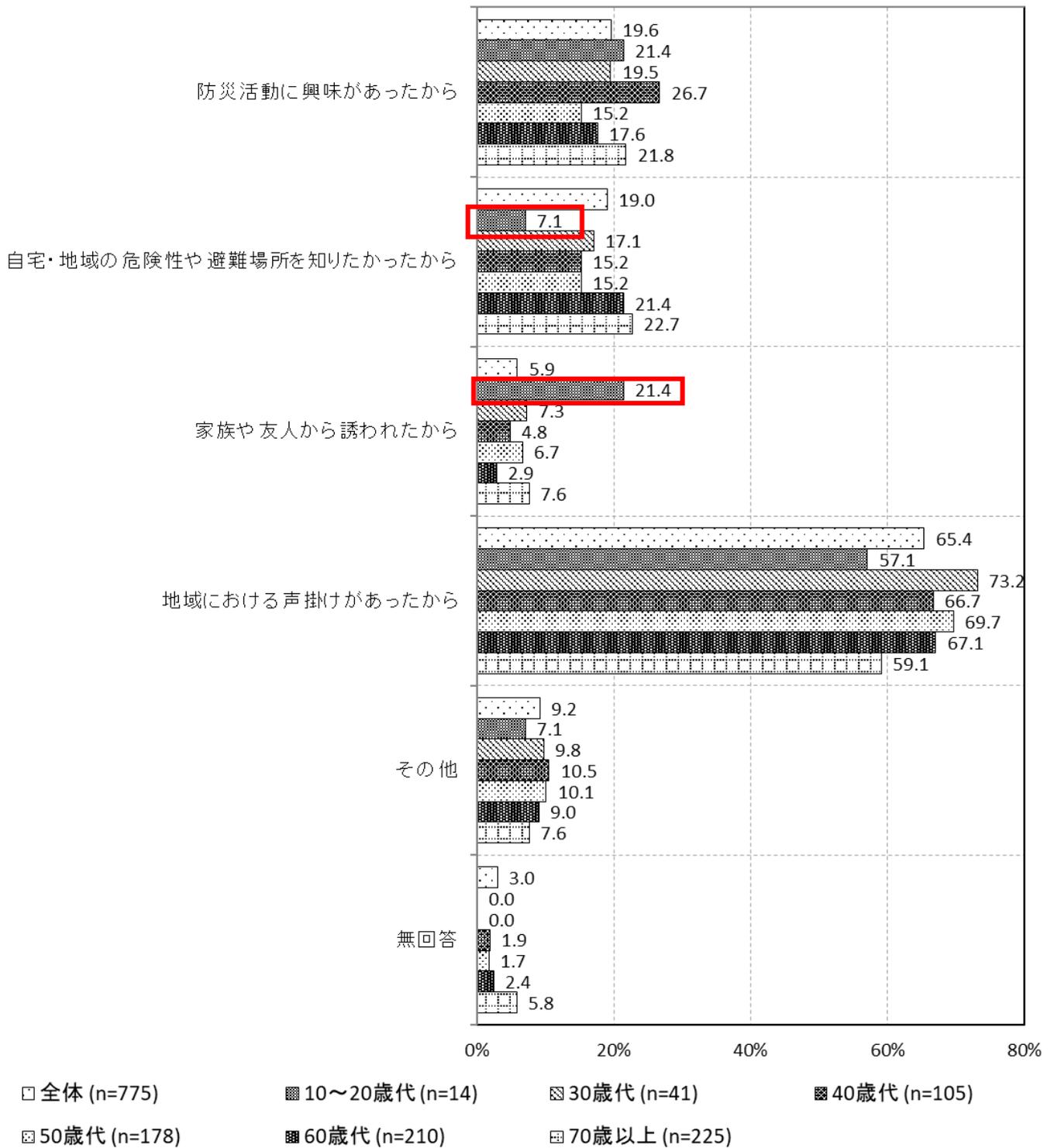
	1	2	3	4	5
選択肢	防災活動に興味があったから	自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから	家族や友人から誘われたから	地域における声掛けがあったから	その他
R 6	19.6%	19.0%	5.9%	65.4%	9.2%
R 5	21.5%	17.5%	5.8%	63.9%	11.1%
R 4	20.8%	19.8%	6.9%	64.7%	12.9%

- 地域の防災活動に参加したきっかけについて、「地域における声掛けがあったから」が65.4%と最も高く、「防災活動に興味があったから」が19.6%、「自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから」が19.0%となっています。

【地域別】



【年齢別】



- 地域別に見ると、「防災活動に興味があったから」と答えた方の割合が、東紀州地域において他の地域より高く、伊賀地域において低くなっています。
- 「自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから」と答えた方の割合が、伊勢志摩地域、東紀州地域において他の地域より高く、伊賀地域において低くなっています。

○ 伊賀地域において「地域における声掛けがあったから」と答えた方の割合が他の地域に比べて高くなっています。

○ 年齢別に見ると、10～20歳代において「家族や友人から誘われたから」と答えた方の割合が他の年齢に比べて高く、「自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから」と答えた方の割合が低くなっています。

問 27 参加した防災活動の内容

問 25 で選択肢1～3と回答された方にお尋ねします。

参加した防災活動は、どのようなものでしたか。(複数選択可)

	1	2	3	4	5	6
選択肢	避難訓練	図上訓練(災害状況を想定し、机上で対応する形式の訓練)	夜間訓練(夜間に行ったものに限らず、夜間の避難等を想定した訓練等を含む)	消火訓練	救出・救助訓練	応急手当訓練
R 6	74.3%	8.5%	3.4%	44.9%	10.3%	16.7%
R 5	75.4%	8.4%	3.7%	47.0%	13.7%	19.0%
R 4	80.3%	6.6%	3.6%	47.5%	15.3%	19.3%
	7	8	9	10	11	12
選択肢	炊き出し訓練	連絡網を使用した情報伝達訓練	介護を必要とする人の介助訓練	研修会や講習会	地域での話し合い	消防団の活動
R 6	9.9%	11.2%	2.8%	13.3%	9.0%	7.6%
R 5	10.5%	9.6%	2.4%	12.6%	7.3%	6.1%
R 4	11.5%	14.6%	3.7%	13.4%	11.6%	8.7%
	13	14	15	16		
選択肢	避難所体験訓練または避難所運営訓練	企業や事業所も一緒になった防災活動	災害ボランティアの受入訓練	その他		
R 6	4.9%	2.4%	0.9%	1.5%		
R 5	5.0%	1.9%	0.4%	1.6%		
R 4	6.1%	3.4%	0.4%	1.4%		

○ 参加した防災活動の内容について、「避難訓練」と答えた方の割合が74.3%と最も高く、次いで「消火訓練」が44.9%となっています。

【地域別】



【年齢別】



○ 地域別に見ると、東紀州地域において「炊き出し訓練」と答えた方の割合が他の地域に比べて高く、「消火活動」と答えた方の割合が低くなっています。

○ 年齢が高いほど「地域での話し合い」と答えた方の割合が高くなっています。

問 28 参加したい防災活動

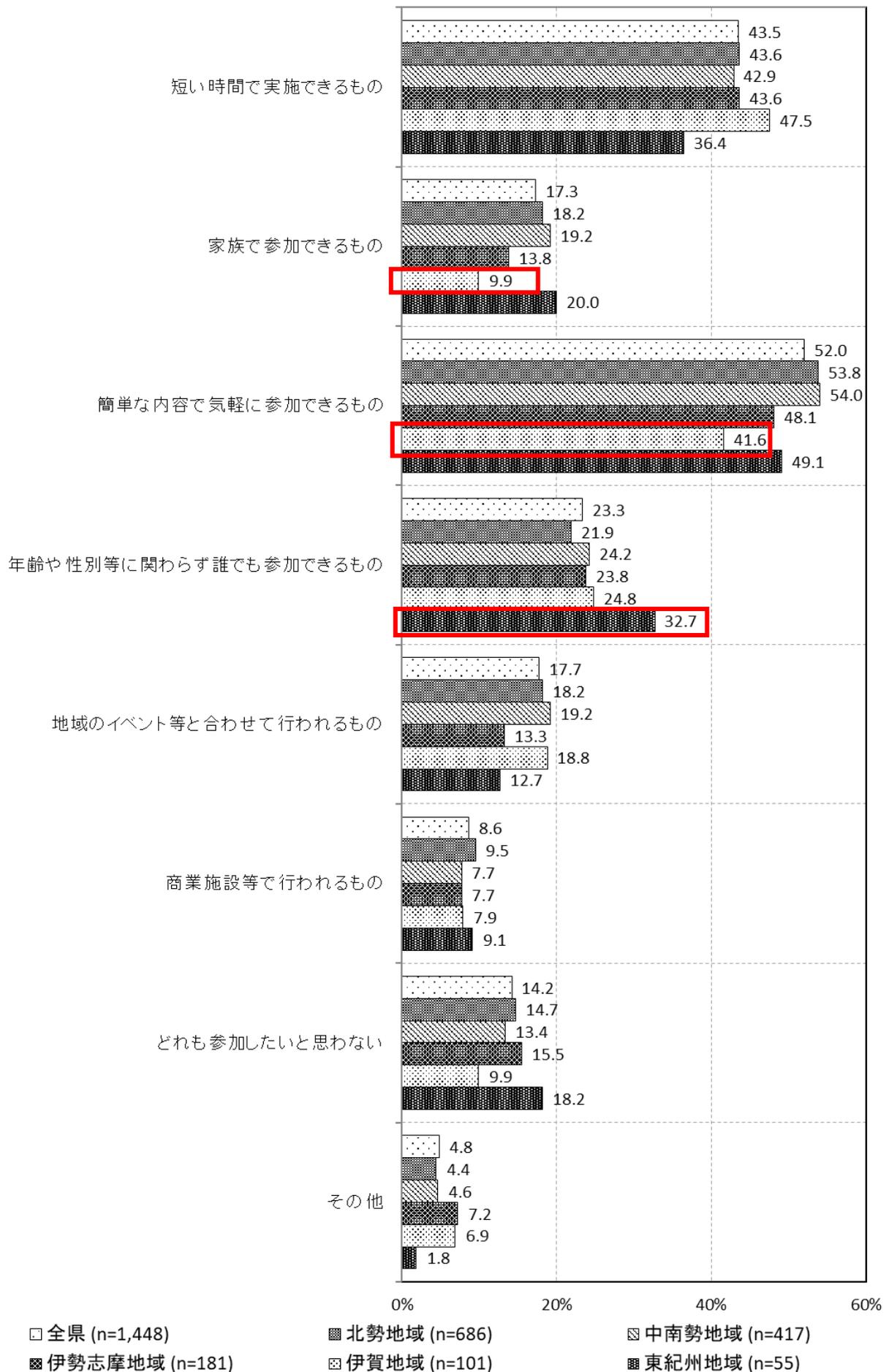
問 25 で選択肢4と回答された方にお尋ねします。

どのような防災活動であれば参加したいと思いますか。(複数選択可)

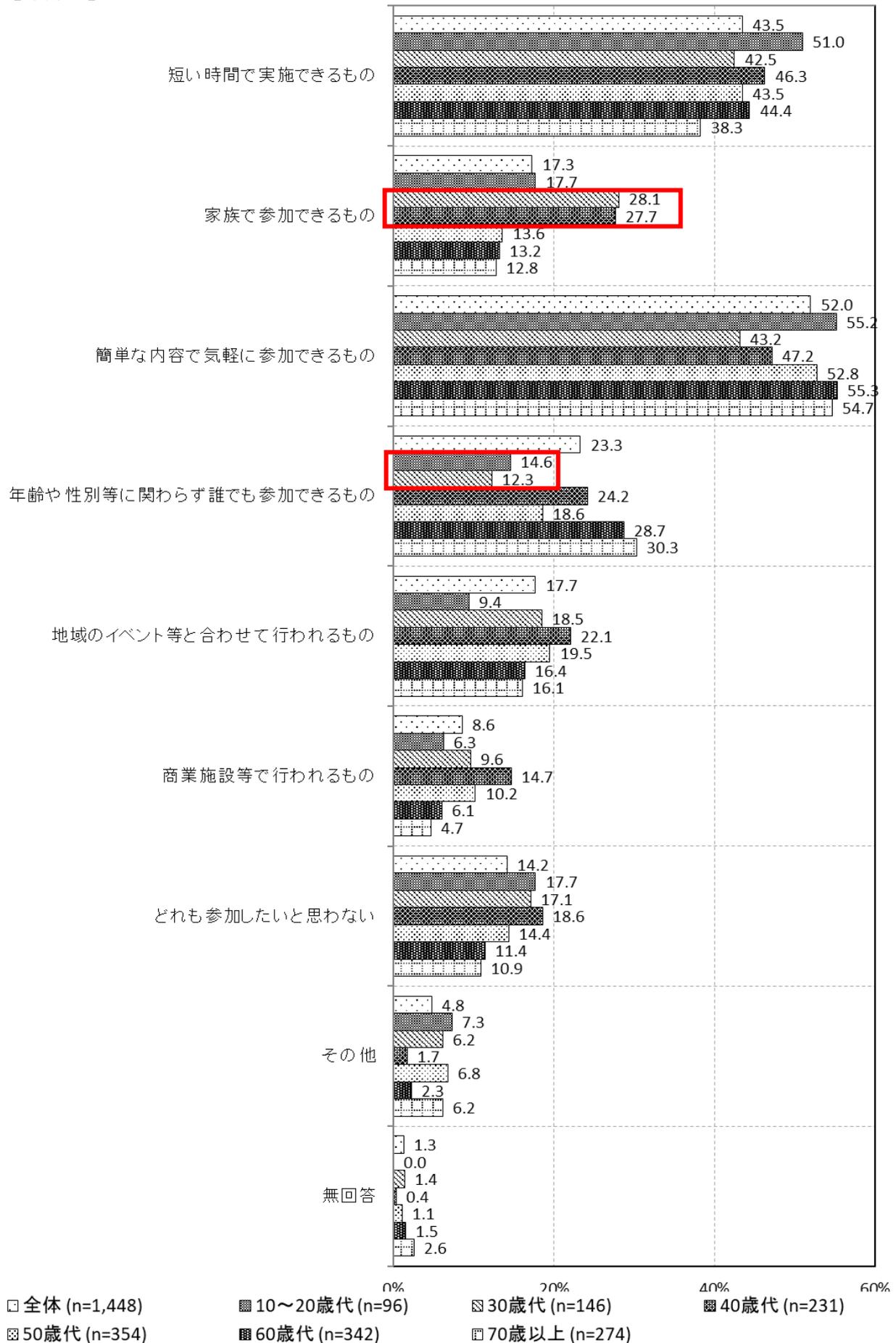
選択肢	1	2	3	4	5	6
	短い時間で実施できるもの	家族で参加できるもの	簡単な内容で気軽に参加できるもの	年齢や性別等に関わらず誰でも参加できるもの	地域のイベント等と合わせて行われるもの	商業施設等で行われるもの
R 6	43.5%	17.3%	52.0%	23.3%	17.7%	8.6%
R 5	41.4%	19.1%	47.0%	22.2%	17.9%	7.8%
選択肢	7	8				
	どれも参加したいと思わない	その他				
R 6	14.2%	4.8%				
R 5	16.3%	5.4%				

○ 地域や職場の防災活動に「参加していない」と答えた方が、参加したいと思う 防災活動について、「簡単な内容で気軽に参加できるもの」の割合が 52.0%と最も高く、次いで「短い時間で実施できるもの」が 43.5%となっています。

【地域別】



【年齢別】



- 地域別に見ると、伊賀地域において「家族で参加できるもの」、「簡単な内容で気軽に参加できるもの」と答えた方の割合が他の地域に比べて低くなっています。
- また、東紀州地域において「年齢や性別等に関わらず誰でも参加できるもの」と答えた方の割合が他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、30歳代、40歳代において「家族で参加できるもの」と答えた方の割合が他の年齢に比べて高くなっています。
- また、10～20歳代、30歳代において「年齢や性別等に関わらず誰でも参加できるもの」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低くなっています。

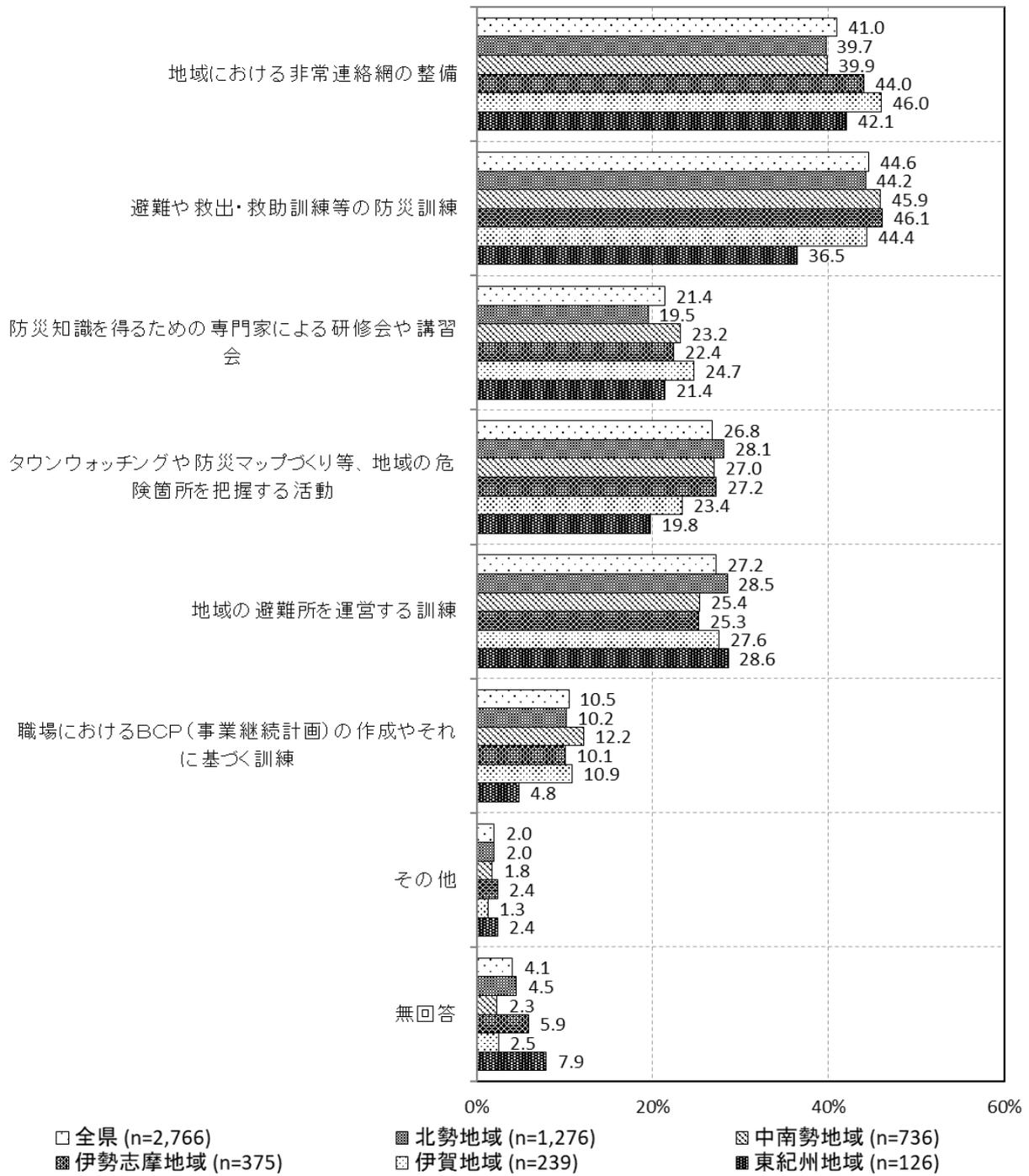
問 29 地域や職場で必要だと思う防災活動

どういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(複数選択可)

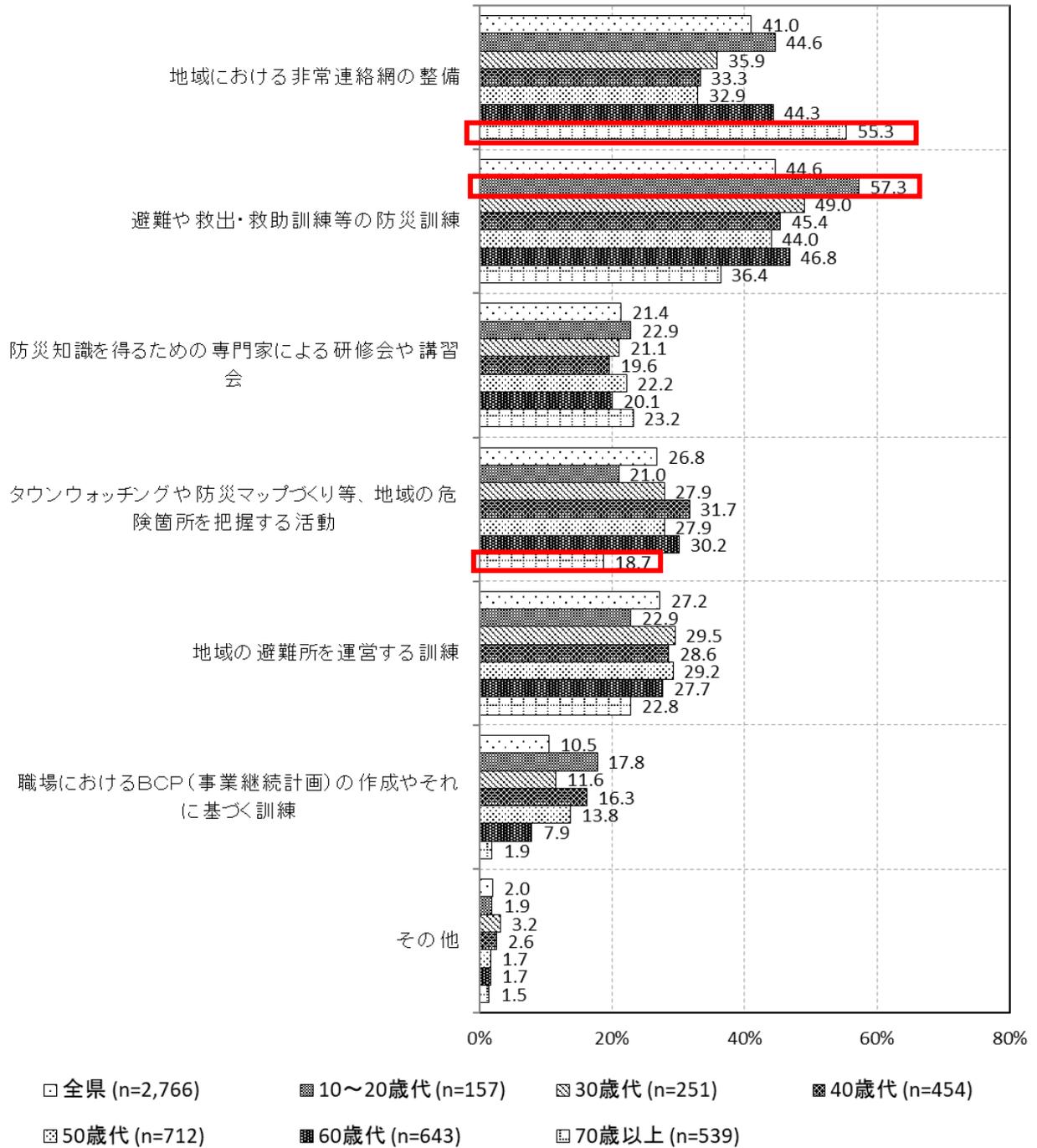
	1	2	3	4	5	6
選択肢	地域における非常連絡網の整備	避難や救出・救助訓練等の防災訓練	防災知識を得るための専門家による研修会や講習会	タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動	地域の避難所を運営する訓練	職場におけるBCP(事業継続計画)の作成やそれに基づく訓練
R 6	41.0%	44.6%	21.4%	26.8%	27.2%	10.5%
R 5	42.5%	45.7%	20.5%	26.9%	27.3%	8.0%
R 4	43.4%	45.0%	21.8%	31.4%	25.0%	8.4%
	7					
選択肢	その他					
R 6	2.0%					
R 5	2.8%					
R 4	2.2%					

- 地域や職場で必要だと思う防災活動について、「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」と答えた方の割合が44.6%と最も高く、次いで「地域における非常連絡網の整備」が41.0%、「地域の避難所を運営する訓練」が27.2%となっています。

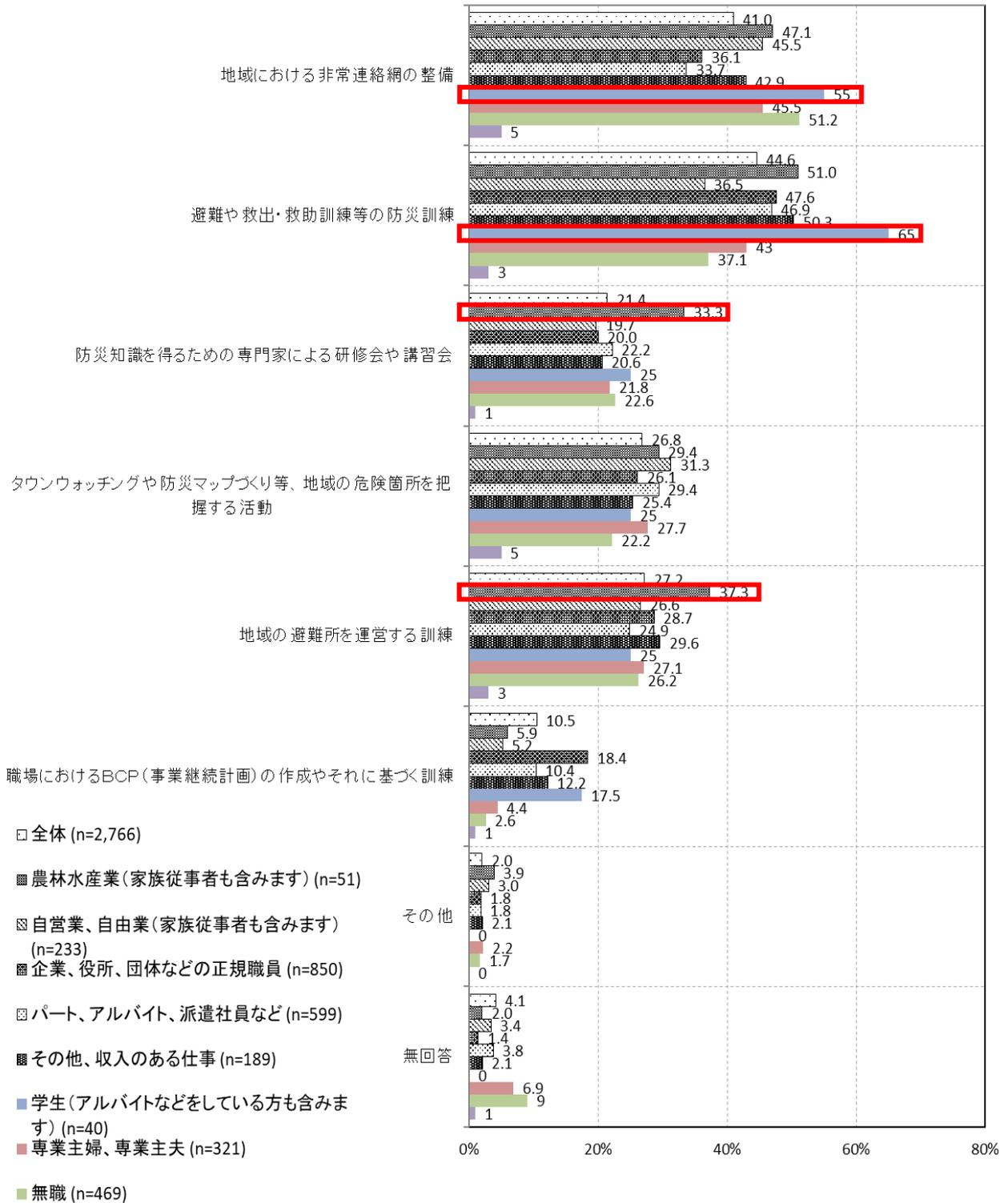
【地域別】



【年齢別】



【職業別】



- 年齢別に見ると、70歳以上において「地域における非常連絡網の整備」と答えた方の割合が他の年齢に比べて高く、「タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険個所を把握する活動」と答えた方の割合が低くなっています。
- また、10～20歳代において「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」と答えた方の割合が他の年齢に比べて高くなっています。
- 職業別に見ると、「地域における非常連絡網の整備」や「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」と答えた学生（アルバイトなどを行っている方も含みます）の方の割合が、他の職業に比べて高くなっています。
- また、「防災知識を得るための専門家による研修会や講習会」や「地域の避難所を運営する訓練」と答えた農林水産業（家族従事者も含みます）に従事する方の割合が、他の職業に比べて高くなっています。

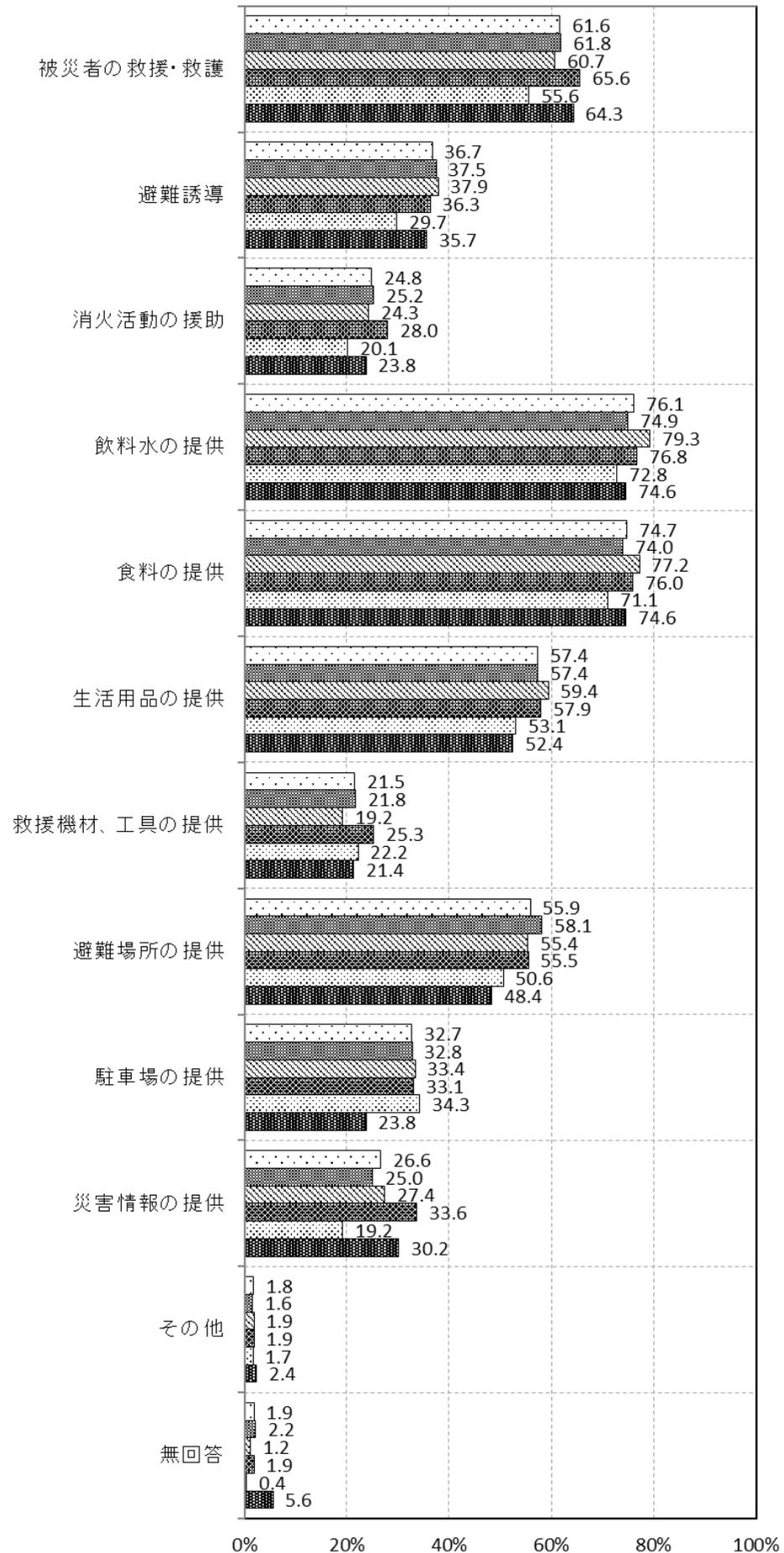
問30 企業・事業所に期待すること

地域の防災活動や防災対策について、あなたが地域の企業・事業所に期待することは何ですか。（複数選択可）

	1	2	3	4	5	6
選択肢	被災者の救援・救護	避難誘導	消火活動の援助	飲料水の提供	食料の提供	生活用品の提供
R 6	61.6%	36.7%	24.8%	76.1%	74.7%	57.4%
R 5	63.0%	39.4%	31.6%	75.2%	73.6%	62.3%
R 4	65.3%	43.1%	32.1%	74.8%	73.3%	60.7%
	7	8	9	10	11	
選択肢	救援機材、工具の提供	避難場所の提供	駐車場の提供	災害情報の提供	その他	
R 6	21.5%	55.9%	32.7%	26.6%	1.8%	
R 5	25.1%	58.3%	33.5%	30.6%	1.8%	
R 4	24.9%	55.8%	30.7%	32.5%	1.6%	

- 企業・事業所に期待することについて、「飲料水の提供」と答えた方の割合が76.1%と最も高く、次いで「食料の提供」が74.7%、「被災者の救援・救護」が61.6%、「生活用品の提供」が57.4%、「避難場所の提供」が55.9%となっています。

【地域別】



□ 全県 (n=2,766)

▨ 北勢地域 (n=1,276)

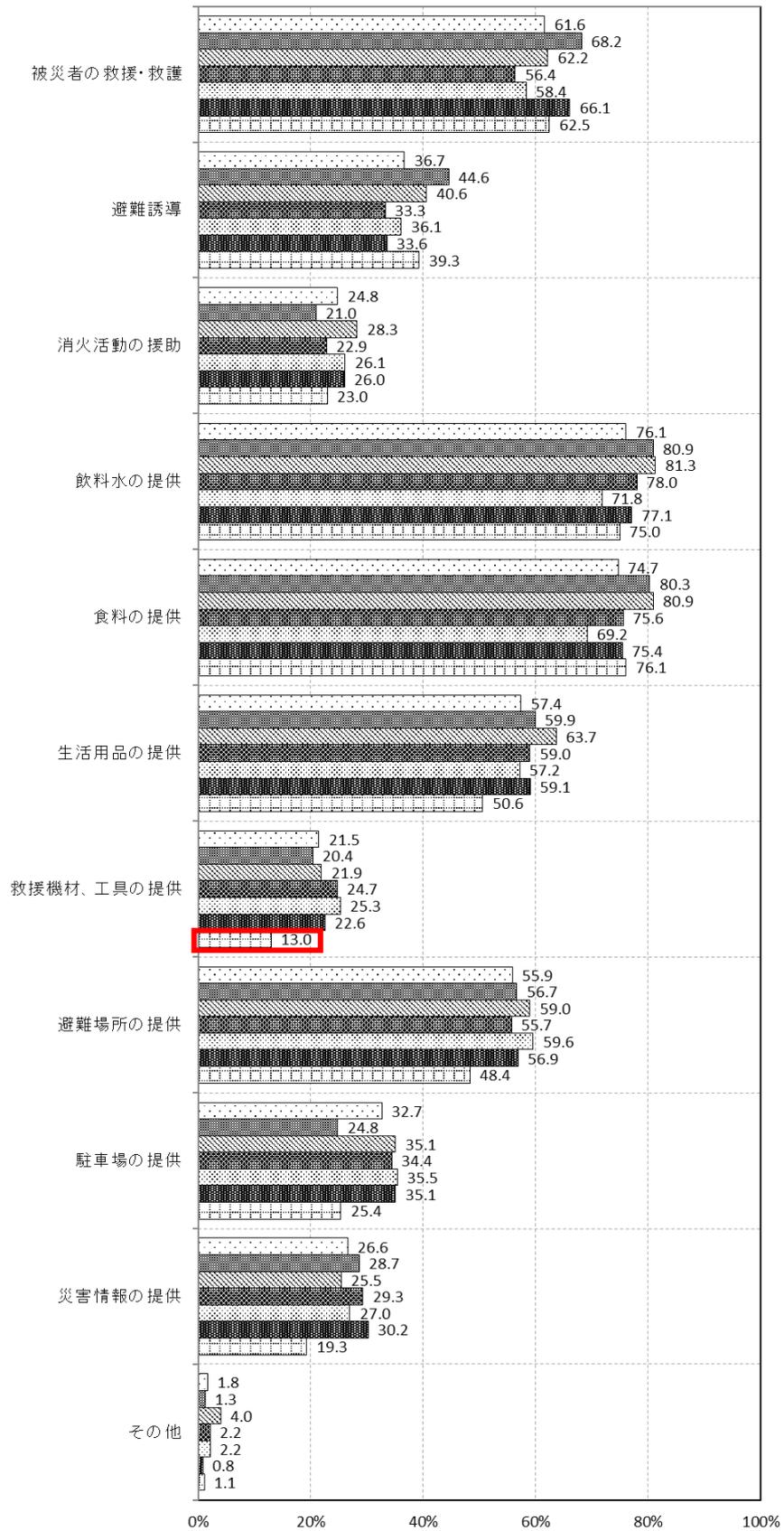
▩ 中南勢地域 (n=736)

▤ 伊勢志摩地域 (n=375)

▧ 伊賀地域 (n=239)

■ 東紀州地域 (n=126)

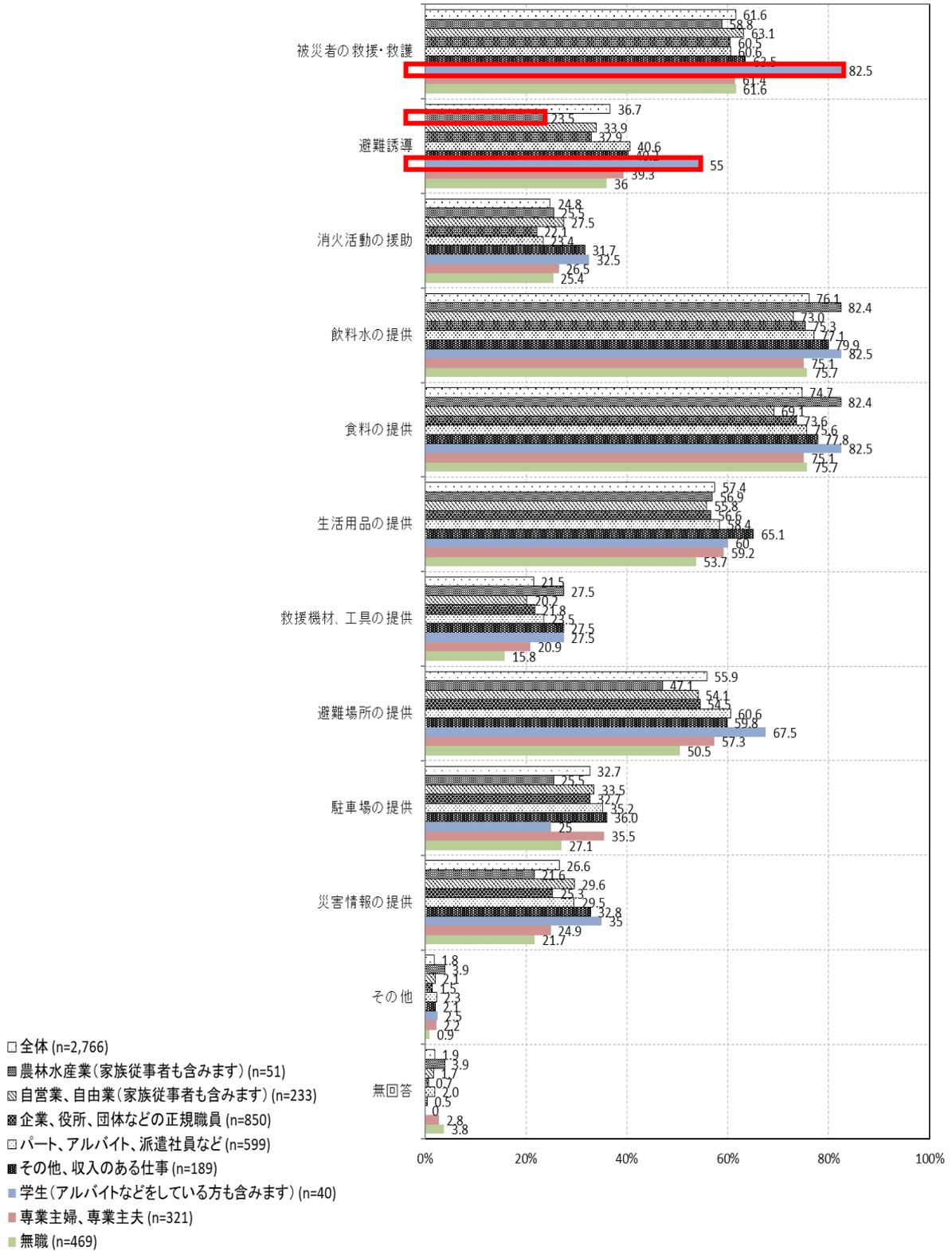
【年齢別】



□全県 (n=2,766) ■10~20歳代 (n=157) ▨30歳代 (n=251) ▩40歳代 (n=454) □50歳代 (n=712) ■60歳代 (n=643) ▨70歳以上 (n=539)



【職業別】



- 年齢別に見ると、70 歳以上において「救援機材、工具の提供」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低くなっています。
- 職業別に見ると、「被災者の救援・救護」や「避難誘導」と答えた学生（アルバイトなどを行っている方も含みます）の方の割合が、他の職業に比べて高くなっています。
- その一方で、「避難誘導」と答えた農林水産業（家族従事車も含みます）の方の割合が、他の職業に比べて低くなっています。

(8) 消防団について

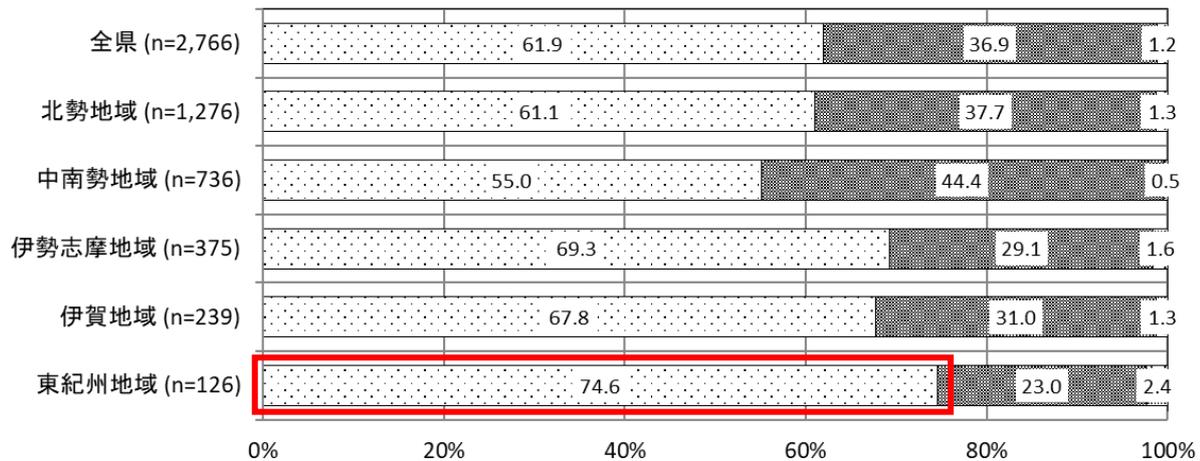
問 31 消防団活動の認知度

お住まいの地域で消防団が活動していることを知っていますか。

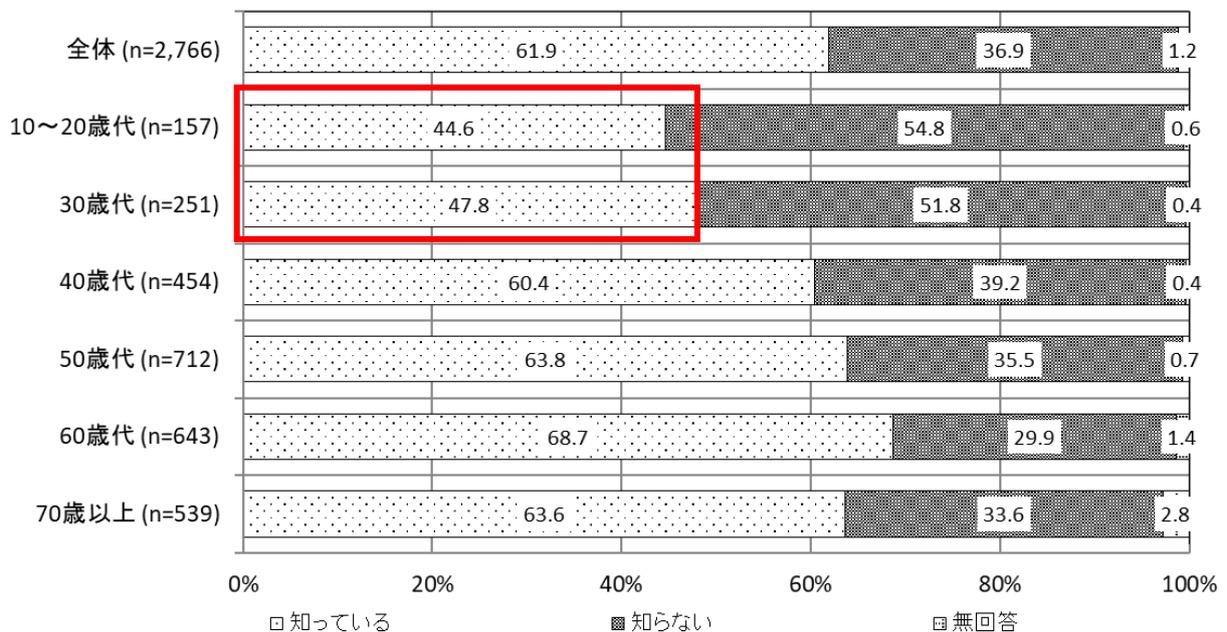
選択肢	1	2
	知っている	
R 6	61.9%	36.9%

○ お住まいの地域の消防団活動について 61.9%の方が「知っている」と回答しています。

【地域別】



【年齢別】



○ 地域別に見ると、東紀州地域において「知っている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。

○ 年齢別に見ると、10～20歳代、30歳代において、「知っている」と答えた方の割合が他の年齢に比べて低くなっています。

問 32 消防団活動を知ったきっかけ

問 31 で選択肢1と回答された方にお尋ねします。

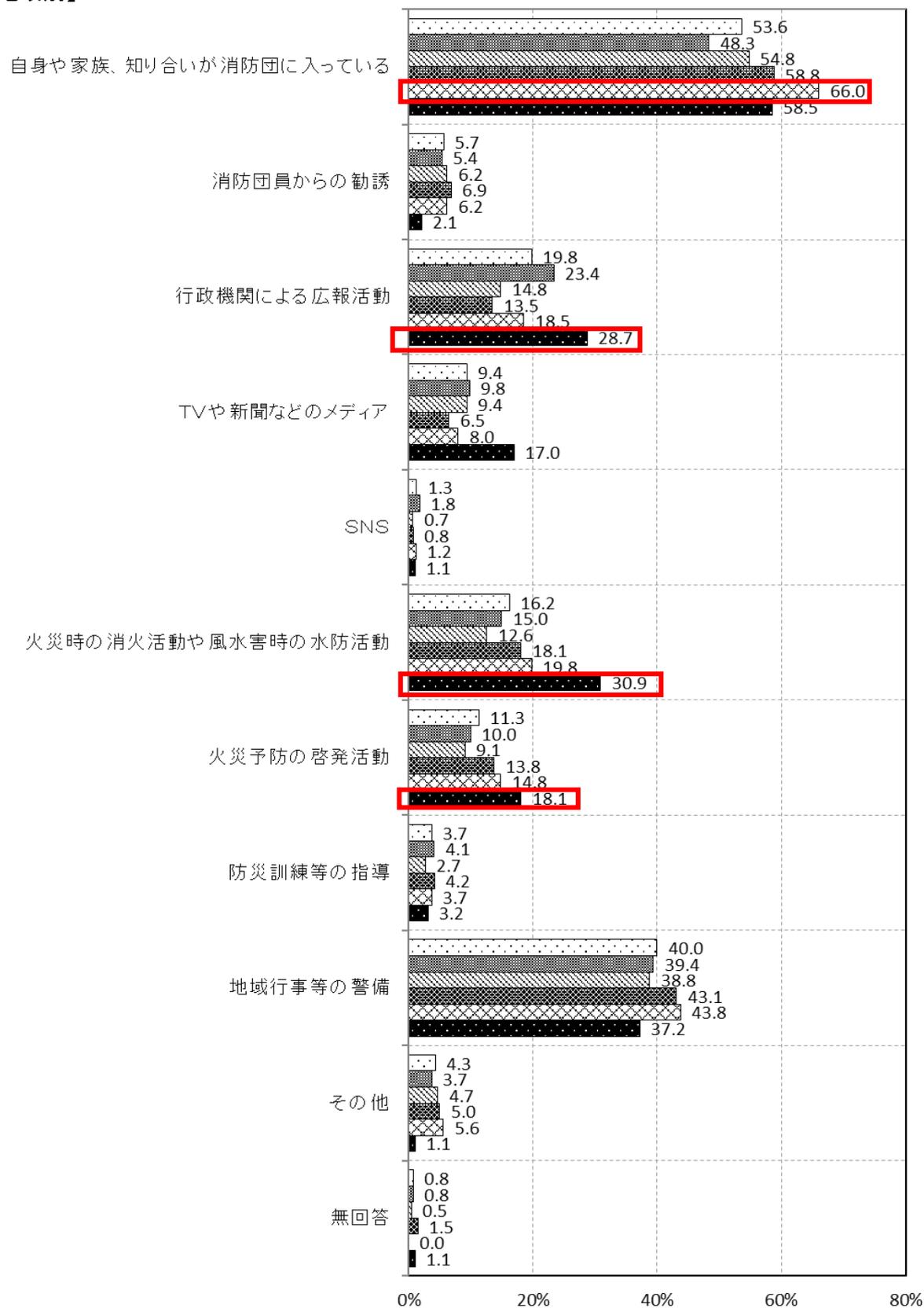
消防団の活動をどのような場面で知りましたか。(複数選択可)

	1	2	3	4	5	6
選択肢	自身や家族、知り合いが消防団に入っている	消防団員からの勧誘	行政機関による広報活動	TVや新聞などのメディア	SNS	火災時の消火活動や風水害時の水防活動
R 6	53.6%	5.7%	19.8%	9.4%	1.3%	16.2%

	7	8	9	10
選択肢	火災予防の啓発活動	防災訓練等の指導	地域行事等の警備	その他
R 6	11.3%	3.7%	40.0%	4.3%

- 消防団活動を知ったきっかけについて「自身や家族、知り合いが消防団に入っている」と答えた方の割合が 53.6%と最も高く、次いで「地域行事等の警備」(40.0%)、「行政機関による広報活動」(19.8%)の割合が高くなっています。

【地域別】



□ 全県 (n=1,711)

■ 北勢地域 (n=779)

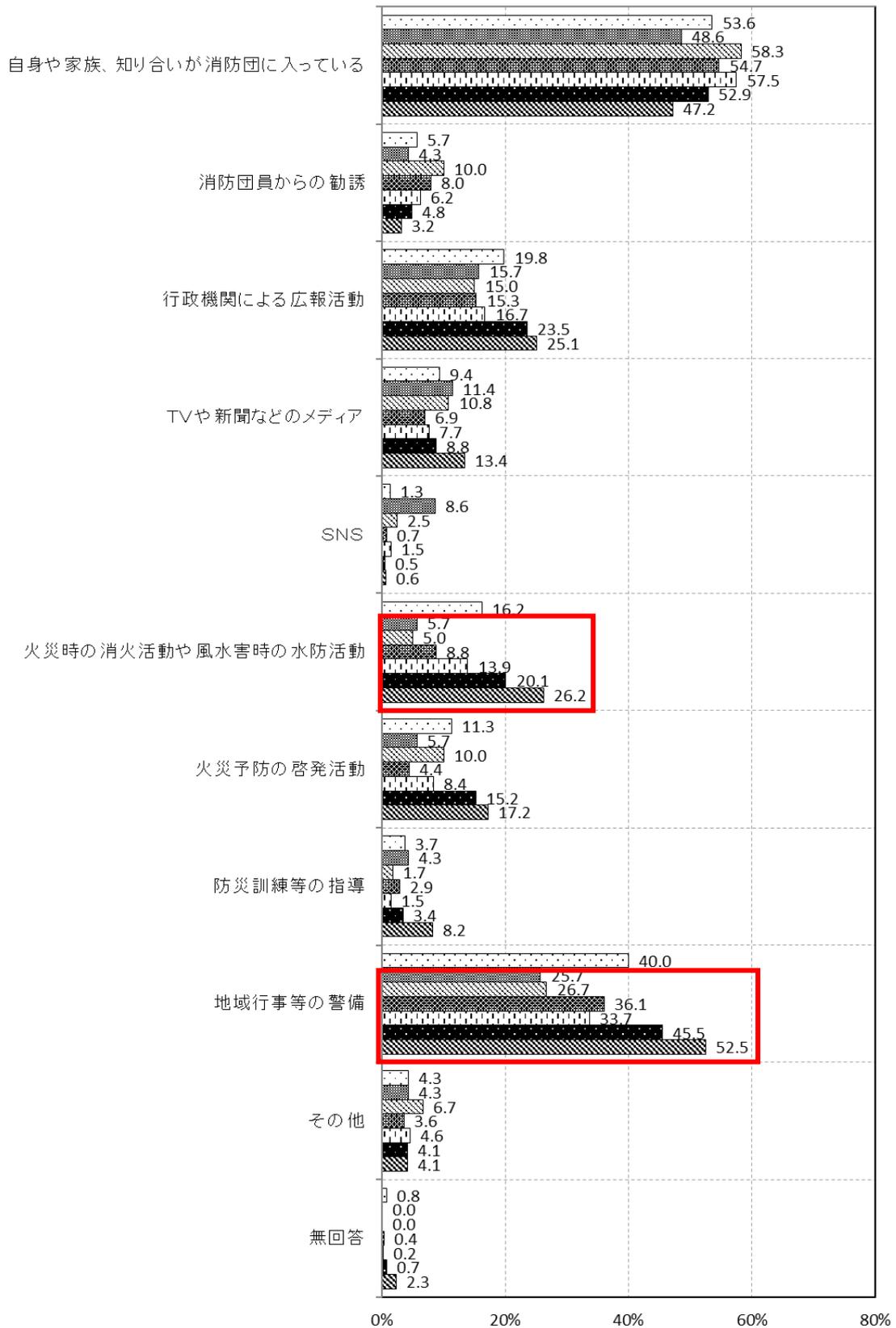
▨ 中南勢地域 (n=405)

▩ 伊勢志摩地域 (n=260)

▧ 伊賀地域 (n=162)

■ 東紀州地域 (n=94)

【年齢別】



□ 全体 (n=1,711)

■ 10~20歳代 (n=70)

■ 30歳代 (n=120)

■ 40歳代 (n=274)

□ 50歳代 (n=454)

■ 60歳代 (n=442)

■ 70歳以上 (n=343)

- 地域別に見ると、伊賀地域において「自身や家族、知り合いが消防団に入っている」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高く、東紀州地域において、「行政機関による広報活動」「火災時の消火活動や風水害時の水防活動」「火災予防の啓発活動」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。
- 年齢別に見ると、年齢が低いほど「火災時の消火活動や風水害時の水防活動」、「地域行事等の警備」と答えた方の割合が低い傾向にあります。
- 各選択肢の10～20歳代、30歳代の割合が全般的に低い中、「地域行事等の警備」で消防団活動を知った方の割合は比較的高くなっています。

(9) 学校の防災教育について

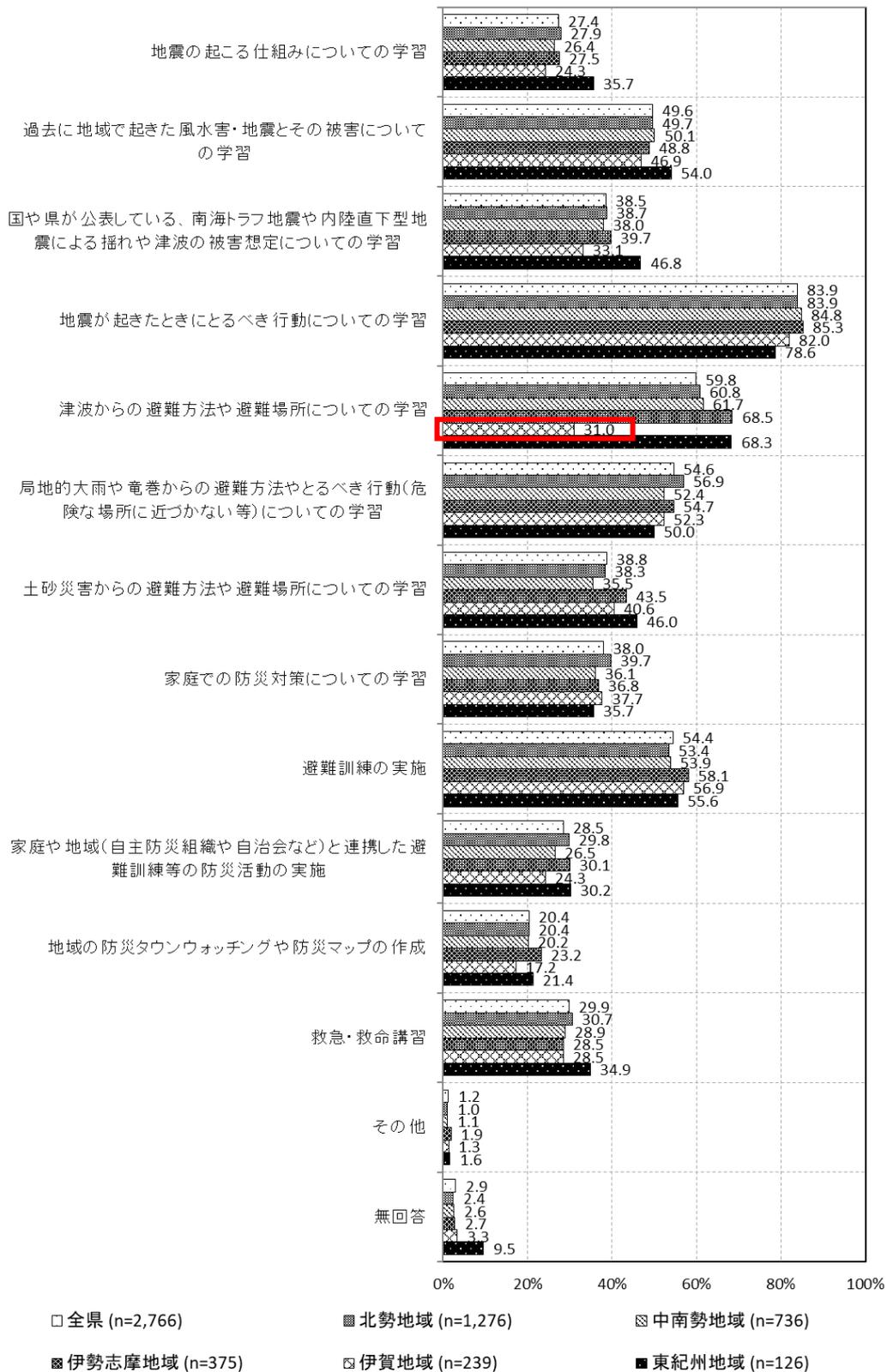
問 33 学校で特に力を入れて取り組むべき防災教育

子どもたちが災害から自分の命を守る力を身につけるとともに、災害時に地域の一員として行動できる力を身につけていくために、学校においてどのようなことに特に力を入れて取り組むことが必要だと思いますか。(複数選択可)

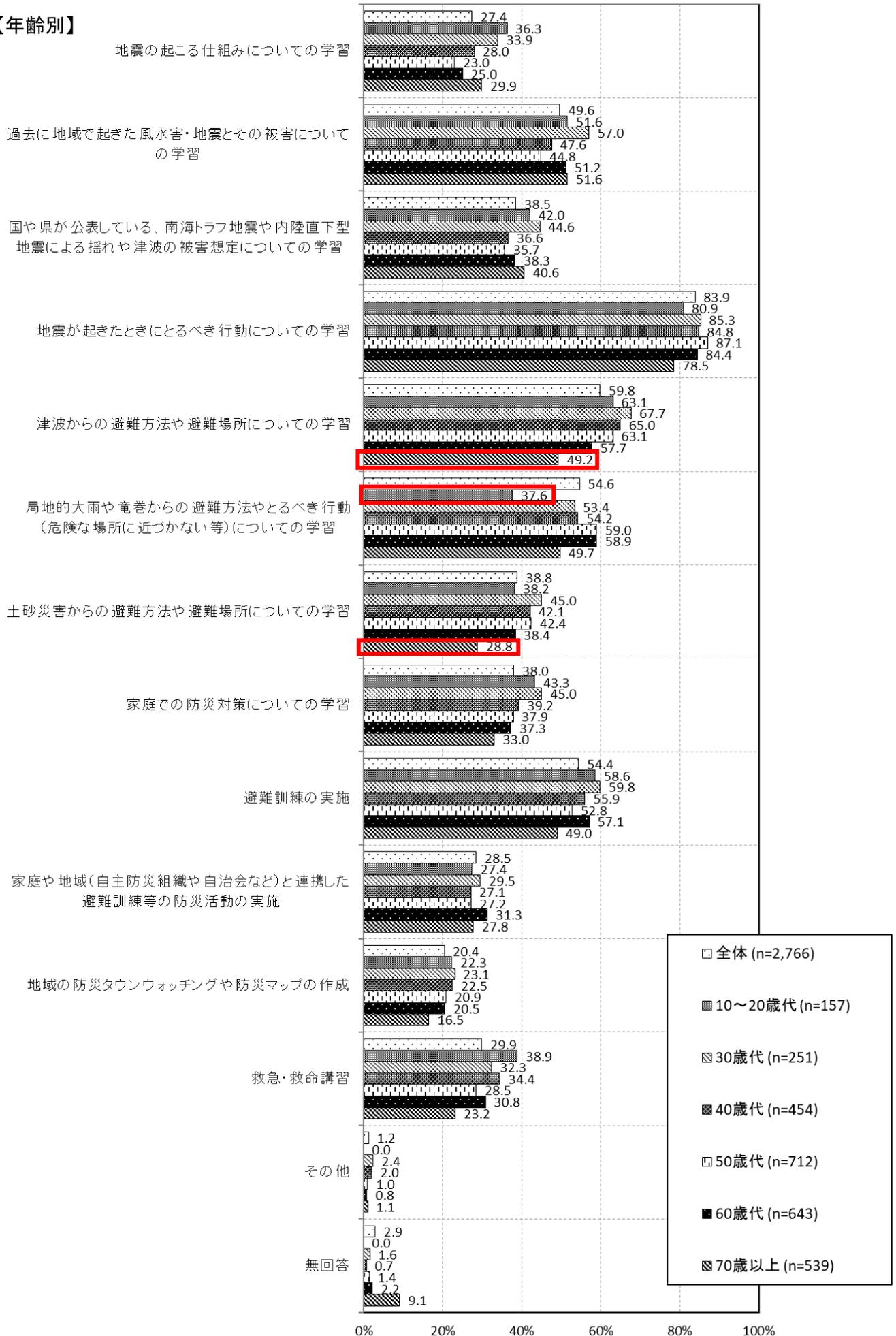
選択肢	1	2	3	4	5
	地震の起こる仕組みについての学習		過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習	国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による揺れや津波の被害想定についての学習	地震が起きたときのとるべき行動についての学習
R 6	27.4%	49.6%	38.5%	83.9%	59.8%
R 5	33.5%	53.1%	41.1%	84.5%	62.1%
R 4	28.9%	52.8%	41.3%	76.5%	59.2%
選択肢	6	7	8	9	10
	局地的大雨や竜巻からの避難方法やとるべき行動(危険な場所に近づかない等)についての学習	土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習	家庭での防災対策についての学習	避難訓練の実施	家庭や地域(自主防災組織や自治会など)と連携した避難訓練等の防災活動の実施
R 6	54.6%	38.8%	38.0%	54.4%	32.1%
R 5	58.2%	42.8%	40.7%	56.4%	30.8%
R 4	48.2%	39.1%	40.9%	57.2%	38.3%
選択肢	11	12	13		
	地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成	救急・救命講習	その他		
R 6	20.4%	29.9%	1.2%		
R 5	24.4%	32.1%	1.2%		
R 4	24.9%	33.3%	2.0%		

○ 学校において特に力を入れて取り組むことが必要だと思う防災教育について、「地震が起きたときの取るべき行動についての学習」と答えた方の割合が 83.9%と最も高く、次いで「津波からの避難方法や避難場所についての学習」が 59.8%、「局地的大雨や竜巻からの避難方法やとるべき行動についての学習」が 54.6%、「避難訓練の実施」が 54.4%、「過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習」が 49.6%となっています。

【地域別】



【年齢別】



- 地域別に見ると、伊賀地域において「津波からの避難方法や避難場所についての学習」と答えた方の割合が、他の地域に比べて低くなっています。
- 年齢別に見ると、70歳以上において「津波からの避難方法や避難場所についての学習」、「土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習」と答えた方の割合が、他の年齢に比べて低くなっています。
- また、10～20歳代において、「局地的大雨や竜巻からの避難方法やとるべき行動についての学習」と答えた方の割合が、他の年齢に比べて低くなっています。

問 34 防災ノート等を活用した家庭での話し合いの状況

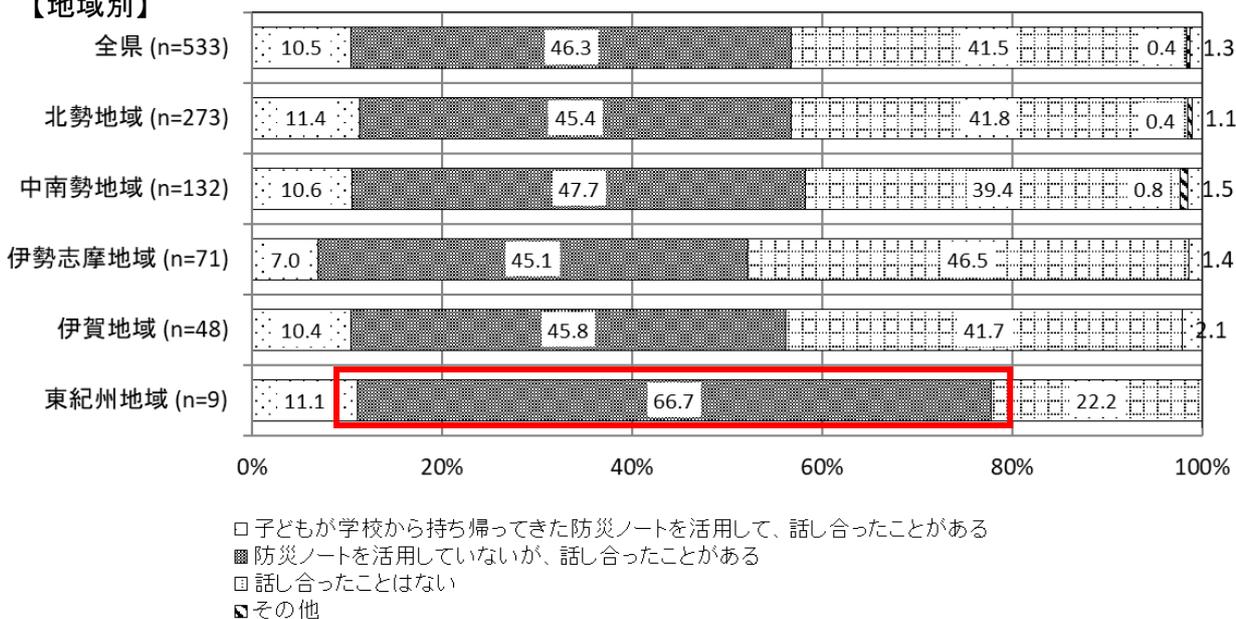
同居家族に小学生、中学生、高校生がいる方にお尋ねします。

防災ノート等を活用しながら家庭の防災対策について話し合ったことはありますか。

	1	2	3	4
選択肢	子どもが学校から持ち帰ってきた防災ノートを活用して、話し合ったことがある	防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある	話し合ったことはない	その他
R 6	10.5%	46.3%	41.5%	0.4%
R 5	10.1%	37.9%	49.5%	1.0%
R 4	14.6%	33.6%	47.6%	1.0%

- 同居家族に小学生、中学生、高校生がいる方における防災ノート等を活用した家庭での話し合いの状況について、「防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある」が46.3%と最も高くなっており、前回から8.4ポイント増加しています。

【地域別】



- 地域別に見ると、東紀州地域において「防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある」と答えた方の割合が、他の地域に比べて高くなっています。

(10) あなたのお住まいの耐震化について

問 35 お住まいの状況

あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。

	1	2	3	4	5	6
選択肢	一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家)	一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家)	一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降、平成 12 年 5 月までに着工・建築された木造の家)	一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降、平成 12 年 5 月までに着工・建築された木造以外の家)	一戸建ての持ち家・借家 (平成 12 年 6 月以降に着工・建築された家)	アパート・マンション等の集合住宅
R 6	25.5%	4.0%	23.8%	8.4%	30.7%	5.5%
R 5	28.5%	4.9%	-	-	-	6.1%
R 4	29.8%	3.9%	-	-	-	6.9%

- 住まいの状況について、「一戸建ての持ち家・借家(平成12年6月以降に着工・建築された家)」が 30.7%、「一戸建ての持ち家・借家(昭和 56 年 6 月以前に着工・建築された木造の家)」が 25.5%、「一戸建ての持ち家・借家(昭和 56 年 6 月以降、平成 12 年 5 月までに着工・建築された木造の家)」が 23.8%となっています。

問 36 木造住宅の耐震化に向けた補助制度の認知度

問 35 で選択肢1と回答された方にお尋ねします。

県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された(着工を含む)木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。(複数回答可)

	1	2	3	4	5
選択肢	耐震診断費用への補助 (無料耐震診断)	耐震補強設計費用への補助	耐震補強工事費用への補助(リフォーム工事補助を含む)	耐震性のない木造住宅の除却費用への補助	どれも知らない
R 6	41.9%	18.1%	22.4%	7.6%	48.2%
R 5	40.1%	16.1%	22.3%	5.6%	51.1%
R 4	41.7%	19.7%	19.3%	-	49.4%

- 昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の一戸建てに住んでいる方における木造住宅の耐震化に向けた補助制度の認知度について、「どれも知らない」と答えた方の割合が 48.2%と最も高く、「耐震診断費用への補助(無料耐震診断)」が 41.9%、「耐震補強工事費用への補助(リフォーム工事補助を含む)」が 22.4%となっています。

問 37 ご自宅の耐震診断

問 35 で選択肢1～4と回答された方にお尋ねします。

あなたのご自宅(借家を含む)は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。

	1	2	3
選択肢	受けたことがない	受けたことがあり、補強工事が必要と診断された	受けたことがあり、補強工事は必要なかった
R 6	78.9%	6.7%	5.2%
R 5	77.1%	11.2%	7.6%
R 4	78.4%	10.7%	7.4%

- 平成 12 年5月以前に着工・建築された一戸建てに住んでいる方において、自宅の耐震診断を「受けたことがない」と答えた方の割合が 78.9%と最も高くなっています。

問 38 耐震補強工事

問 37 で選択肢2と回答された方にお尋ねします。

耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。

	1	2	3	4	5
選択肢	補強工事を行った	建て替えた	除却(解体)した	現在検討中(補強設計のみ行った方を含む)	工事を行うつもりはない
R 6	44.7%	1.8%	0.0%	17.5%	35.1%
R 5	39.5%	5.4%	-	16.3%	38.0%
R 4	29.5%	12.9%	-	8.3%	46.2%

- 自宅の耐震診断を受けたことがあり、補強工事が必要と診断された方において、「補強工事を行った」と答えた方の割合は 44.7%と最も高くなっており、増加傾向にあります。
- 一方で「工事を行うつもりはない」と答えた方の割合も 35.1%と高くなっています。

問 39 耐震補強工事の内容

問 38 で選択肢1と回答された方にお尋ねします。

どのような耐震補強工事を行いましたか。

	1	2	3
選択肢	現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した	建物の一部のみを補強した	分からない
R 6	41.2%	49.0%	9.8%
R 5	6.5%	71.0%	19.4%
R 4	22.7%	45.5%	13.6%

- 住宅の補強工事を行った方において、「建物の一部のみを補強した」と答えた方の割合が 49.0%と最も高くなっています。

問 40 耐震補強工事の費用

問 39 で選択肢1または2と回答された方にお尋ねします。

耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。

	1	2	3	4	5	6
選択肢	50 万円まで	100 万円まで	150 万円まで	200 万円まで	300 万円まで	それ以上
R 6	13.0%	15.2%	15.2%	6.5%	13.0%	23.9%
R 5	12.5%	8.3%	8.3%	25.0%	25.0%	16.7%
R 4	6.7%	13.3%	26.7%	6.7%	13.3%	20.0%

- 建物の耐震歩行工事費について、「300 万円以上」が 23.9%と最も高くなっています。

問 41 耐震補強工事をしない理由

問 38 で選択肢4または5と回答された方にお尋ねします。

耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。(複数選択可)

	1	2	3	4	5	6
選択肢	補強設計に多額な費用がかかるから	補強工事に多額な費用がかかるから	耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから	当分のあいだ大地震は起きないと思うから	手間がかかるから	その他
R 6	35.0%	85.0%	31.7%	0.0%	5.0%	5.0%
R 5	27.1%	65.7%	28.6%	4.3%	7.1%	10.0%
R 4	33.3%	70.8%	18.1%	1.4%	2.8%	15.3%

- 耐震補強工事をしない理由について、「補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方の割合が85.0%と最も高く、次いで「補強設計に多額な費用がかかるから」が35.0%、「耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから」が31.7%となっています。

問 42 耐震補強工事が可能な自己負担額

問 37 で選択肢1と回答された方、問 41 で選択肢1または2と回答された方にお尋ねします。

ご自宅の補強工事が必要とされた場合、自己負担がいくら位までなら耐震補強を行いますか。

	1	2	3	4	5	6
選択肢	50万円まで	100万円まで	150万円まで	200万円まで	300万円まで	それ以上
R 6	49.6%	27.1%	2.2%	4.9%	2.4%	0.9%
R 5	49.4%	25.3%	2.9%	5.5%	3.3%	0.2%
R 4	45.0%	26.3%	3.2%	8.4%	3.4%	1.8%

- 耐震補強工事が可能な自己負担額について、「50万円まで」と答えた方の割合が49.6%と最も高く、次いで「100万円まで」と答えた方の割合が27.1%となっています。

問 43 一部のみの耐震補強や耐震シェルターによる補強の意思

建物の一部のみを耐震補強する、又は耐震シェルター※を設置することで少しでも 安全性が向上するのであれば、実施したいと思いますか。

	1	2	3
選択肢	費用が安価であれば、建物の一部だけでも補強工事を実施したい	安全性が確保でき、設置にかかる費用が安価であれば、耐震シェルターの設置を実施したい	費用がかかるのであれば、建物の一部の補強工事や耐震シェルター設置は実施しない
R 6	43.4%	22.2%	24.9%
R 5	37.0%	27.3%	28.3%
R 4	37.4%	28.2%	28.7%

- 耐震補強工事を実施していない方における、建物の一部のみの補強工事や耐震シェルターによる補強の意思について、「費用が安価であれば、建物の一部だけでも補強工事を実施したい」と答えた方の割合が43.4%と最も高くなっており、前回から6.4ポイント増加しています。

資料

○津波危険地域一覧

以下の「対象町名」は、三重県が平成24年3月に公表した予測において浸水が想定される町名（部分的な浸水を含む）で、平成24年度の調査の際に各市町確認の上で分類し、「津波危険地域」として統計しました。

市町名	対象町名
津市	白塚町、栗真小川町、栗真中山町、栗真町屋町、一身田中野、一身田豊野、一身田平野、栄町、桜橋、上浜町、江戸橋、島崎町、港町、海岸町、末広町、高洲町、住吉町、藤枝町、津興、藤方、高茶屋小森町、高茶屋小森上野町、雲出本郷町、雲出長常町、雲出伊倉津町、雲出鋼管町、河芸町中別保、河芸町一色、河芸町影重、河芸町上野、河芸町東千里、河芸町中瀬、香良洲町
四日市市	稲葉町、大協町1丁目、大協町2丁目、高砂町、尾上町、千歳町、末広町、東邦町、塩浜町、大字塩浜、石原町、三田町、川合町、天力須賀1丁目、天力須賀2丁目、天力須賀3丁目、天力須賀4丁目、天力須賀5丁目、住吉町、平町、松原町、富洲原町、富田一色町、天力須賀新町、富双1丁目、富双2丁目、東富田町、富田1丁目、富田2丁目、富田3丁目、富田4丁目、南富田町、茂福町、東茂福町、富田浜元町、富田浜町、浜園町、霞1丁目、霞2丁目、大字茂福、羽津町、午起3丁目、三郎町、楠町南五味塚、楠町北五味塚、楠町吉崎、楠町小倉
伊勢市	楠部町、下野町、竹ヶ鼻町、神社港、馬瀬町、大湊町、朝熊町、東豊浜町、檜原町、西豊浜町、磯町、有滝町、村松町、東大淀町、二見町松下、二見町江、二見町茶屋、二見町三津、二見町山田原、二見町溝口、二見町荘、二見町西、二見町今一色、二見町光の街、御園町上條、御園町小林、御園町新開
松阪市	大口町、東久保町、新松ヶ島町、町平尾町、獺師町、松崎浦町、松ヶ島町、六軒町、西黒部町、松名瀬町、高須町、東黒部町、柿木原町、土古路町、出間町、大垣内町、蓮花寺町、神守町、牛草町、垣内田町、乙部町、市場庄町、曾原町、中道町、小津町、喜多村新田町、笠松町、星合町、五主町
桑名市	吉之丸、三之丸、片町、江戸町、川口町、船馬町、清水町、宝殿町、春日町、風呂町、本町、北魚町、三崎通、相生町、殿町、田町、南魚町、油町、職人町、宮通、京町、吉津屋町、鍛冶町、入江葎町、紺屋町、内堀、伊賀町、柳原、新屋敷、八幡町、外堀、萱町、伝馬町、新町、一色町、矢田碓、西鍋屋町、北鍋屋町、東鍋屋町、南寺町、北寺町、今片町、堤原、今中町、今北町、太一丸、住吉町、大字赤須賀、大字江場、掛樋、大字大福、大字桑名、大央町、中央町一丁目、中央町三丁目、中央町四丁目、中央町五丁目、新築町、常盤町、京橋町、三栄町、八間通、寿町一丁目、寿町二丁目、寿町三丁目、末広町、桑栄町、有楽町、駅元町、参宮通、蓮見町、福島新町、大字東方、大字播磨、大字東汰上、大字蠣塚新田、大字福島、大字上之輪、大字上深谷部、大字今島、大字安永、大字和泉、大字小泉、大字大貝須、大字小貝須、大字福地、大字福江、大字地藏、大字東野、大字萱町、大字立田町、大字太平町、大字福岡町、長島町長島萱町、長島町長島中町、長島町長島下町、長島町又木、長島町源部外面、長島町殿名、長島町東殿名、長島町押付、長島町小島、長島町大倉、長島町出口、長島町間々、長島町高座、長島町中川、長島町平方、長島町西外面、長島町十日外面、長島町大島、長島町駒江、長島町松ヶ島、長島町千倉、長島町下坂手、長島町上坂手、長島町杉江、長島町松之木、長島町新所、長島町西川、長島町鎌ヶ地、長島町葎ヶ須、長島町赤地、長島町福豊、長島町福吉、長島町白鷄、長島町横満蔵、長島町松蔭、長島町浦安、長島町老松
鈴鹿市	寺家町、寺家1丁目、寺家2丁目、寺家3丁目、寺家4丁目、白子1丁目、白子本町、江島本町、東江島町、南長太町、長太新町3丁目、長太新町4丁目、長太旭町6丁目、長太栄町4丁目、長太栄町5丁目、中箕田町、北堀江町、下箕田町、下箕田1丁目、下箕田2丁目、下箕田3丁目、南若松町、北若松町、若松中1丁目、若松東1丁目、若松東2丁目、若松東3丁目、若松北3丁目、磯山町、東磯山1丁目、東磯山2丁目、東磯山3丁目、東磯山4丁目、磯山1丁目、磯山2丁目、磯山3丁目

市町名	対象町名
尾鷲市	林町、中央町、朝日町、港町、中井町、栄町、中村町、野地町、坂場町、宮ノ上町、北浦町、大字天満浦、大字向井、大字大曾根浦、大字行野浦、須賀利町、九鬼町、早田町、三木里町、名柄町、小脇町、三木浦町、古江町、賀田町、曾根町、梶賀町、小川東町、瀬木山町、中川、矢浜1丁目、矢浜3丁目、矢浜4丁目、北浦西町、北浦東町、矢浜大道、国市松泉町
鳥羽市	鳥羽1丁目、鳥羽2丁目、鳥羽3丁目、鳥羽4丁目、鳥羽5丁目、小浜町、堅神町、池上町、安楽島町、大明東町、大明西町、船津町、相差町、国崎町、畔蛸町、千賀町、堅子町、石鏡町、浦村町、桃取町、答志町、菅島町、神島町、坂手町
熊野市	須野町、甫母町、二木島里町、二木島町、遊木町、新鹿町、波田須町、磯崎町、大泊町、木本町、井戸町、有馬町、久生屋町
志摩市	阿児町鶴方、阿児町神明、阿児町立神、阿児町志島、阿児町甲賀、阿児町国府、阿児町安乗、浜島町浜島、浜島町南張、浜島町檜山路、浜島町塩屋、浜島町迫子、大王町波切、大王町船越、大王町畔名、大王町名田、志摩町片田、志摩町布施田、志摩町和具、志摩町越賀、志摩町御座、磯部町下之郷、磯部町飯浜、磯部町穴川、磯部町坂崎、磯部町の矢、磯部町三ヶ所、磯部町渡鹿野
桑名郡木曾岬町	全域
三重郡朝日町	大字縄生、大字小向、大字柿
三重郡川越町	全域
多気郡明和町	大字川尻、大字北藤原、大字浜田、大字八木戸、大字根倉、大字養川、大字中村、大字南藤原、大字内座、大字大堀川新田、大字大淀甲、大字大淀乙、大字山大淀、大字大淀
度会郡大紀町	錦
度会郡南伊勢町	五ヶ所浦、船越、中津浜浦、飯満、内瀬、伊勢路、迫間浦、磯浦、相賀浦、田曾浦、宿浦、泉、神津佐、下津浦、木谷、棚橋竈、新桑竈、古和浦、栃木竈、小方竈、方座浦、神前浦、村山、河内、東宮、奈屋浦、贄浦、慥柄浦、道方、大江、道行竈、阿曾浦、大方竈
北牟婁郡紀北町	三浦、道瀬、海野、長島、東長島、相賀、引本浦、矢口浦、白浦、島勝浦、古里
南牟婁郡御浜町	大字阿田和、大字下市木、大字志原
南牟婁郡紀宝町	井田、鶴殿、北檜杖、成川、鮎田

【調査票】防災に関する県民意識調査

★あなた自身とご家族について

最初に、あなたご自身とご家族等についてお尋ねします。それぞれにあてはまる番号に○を付けてください。

これらは、回答を統計的に分析するために必要な情報です。無記名式であり、集計した結果のみを使用しますので、個人の情報が特定されることは一切ありません。ご協力をお願いします。

F 1 ご自宅のある市町をお答えください。(一つだけ○)

【北勢地域】

- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| 1. 桑名市 | 2. いなべ市 | 3. 四日市市 | 4. 鈴鹿市 |
| 5. 亀山市 | 6. 木曾岬町 | 7. 東員町 | 8. 菰野町 |
| 9. 朝日町 | 10. 川越町 | | |

【中南勢地域】

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 11. 津市 | 12. 松阪市 | 13. 多気町 | 14. 明和町 |
| 15. 大台町 | | | |

【伊勢志摩地域】

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 16. 伊勢市 | 17. 鳥羽市 | 18. 志摩市 | 19. 玉城町 |
| 20. 度会町 | 21. 大紀町 | 22. 南伊勢町 | |

【伊賀地域】

- | | | | |
|---------|---------|--|--|
| 23. 伊賀市 | 24. 名張市 | | |
|---------|---------|--|--|

【東紀州地域】

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 25. 尾鷲市 | 26. 熊野市 | 27. 紀北町 | 28. 御浜町 |
| 29. 紀宝町 | | | |

F 2 あなたの性別をお答えください。(一つだけ○)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. () |
|-------|-------|--------|

F 3 あなたの現在の年齢をお答えください。(一つだけ○)

- | | | |
|-------------|----------|-----------|
| 1. 10～20 歳代 | 2. 30 歳代 | 3. 40 歳代 |
| 4. 50 歳代 | 5. 60 歳代 | 6. 70 歳以上 |

F 4 あなたの主な職業は何ですか。(一つだけ○)

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1. 農林水産業(家族従事者も含みます) | 2. 自営業、自由業(家族従事者も含みます) |
| 3. 企業、役所、団体などの正規職員 | 4. パート、アルバイト、派遣社員など |
| 5. その他、収入のある仕事 | 6. 学生(アルバイトなどを行っている方も含みます) |
| 7. 専業主婦、専業主夫 | 8. 無職 |

F 5 あなたを含めた同居家族の中に、以下のような方はいらっしゃいますか。
(○はいくつでも)

- | | | |
|--------|---------------|---------------|
| 1. 乳幼児 | 2. 小学生 | 3. 中学生 |
| 4. 高校生 | 5. 75歳以上の方 | 6. 介護・介助が必要な方 |
| 7. 妊産婦 | 8. 当てはまる人はいない | |

★地震・津波対策について

【問1】平成23年の東日本大震災の発生から13年が経過しましたが、あなたの地震に対する防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらずもち続けている
(またはさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
5. 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった

→問2へ

【問2】近い将来発生が危惧されている南海トラフ地震では、県内で最大震度7の揺れが想定されており、沿岸地域では津波による被害も想定されています。お住まいの地域で巨大地震が発生した場合、どこに避難することを考えていますか。
(一つだけ○)

1. 緊急避難場所、避難所
2. 自宅(在宅避難)
3. 親戚・知人宅
4. ホテル・旅館
5. 車中泊避難
6. 特に考えていない
7. その他 具体的に：()

→問3へ

【問3】三重県では南海トラフ地震や内陸直下型地震が発生した際の地震被害想定調査の結果を公表していますが、お住まいの地域における震度予測や津波浸水予測など被害想定を知っていますか。(一つだけ○)

1. 具体的に知っている
2. ある程度は知っている
3. 知らない

→問4へ

※「三重県地震被害想定調査結果」では、津波浸水予測図のほか、津波からの避難行動がとれなくなる“津波により浸水深30cmに到達するまでの到達予測時間分布図”を公表しています。

▶三重県地震被害想定調査結果(県HP)：<https://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/84544007861.htm>



【問4】今年8月8日に「南海トラフ地震臨時情報※」が発表されましたが、この情報が発表された際に、どのような行動をとるべきかなど具体的な内容を知っていましたか。
(一つだけ○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 知っていた |
| 2. 名称は知っていたが、具体的な内容は知らなかった |
| 3. 知らなかった |

→問6へ

→問5へ

※南海トラフ地震臨時情報：

南海トラフ沿いで異常な現象が観測された場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に、気象庁から発表される情報

▶南海トラフ地震臨時情報が発表されたら！

4. 南海トラフ地震臨時情報が発表されたら何をすればいいの？（内閣府HP）：

<https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/rinji/index4.html>



【問5】問4で選択肢2または3と回答された方にお尋ねします。

今回の南海トラフ地震臨時情報の発表以降、情報に対する認知度はどのように変わりましたか。(一つだけ○)

- | |
|---|
| 1. テレビや新聞、インターネットなどで得られた情報により、具体的な内容がわかった |
| 2. テレビや新聞、インターネットなどで情報を見たが、具体的な内容はよくわからなかった |
| 3. 臨時情報が発表されていたことを知らなかった |

→問6へ

【問6】8月8日の「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の発表を受けて、どのような行動をとりましたか。(いくつでも○)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 避難先や避難経路の確認を行った |
| 2. 自宅や職場等のハザードマップを確認した |
| 3. 食料や飲料の備蓄を進めた（すでに備蓄しているものの確認を行った） |
| 4. 予定していた帰省や旅行等を取りやめた |
| 5. 必要な備えを行ったうえで、予定どおり帰省や旅行等を行った |
| 6. 何もしなかった |
| 7. その他（具体的に： _____） |

→問7へ

★風水害対策について

【問7】平成23年の紀伊半島大水害の発生から13年が経過しましたが、あなたの風水害（台風や大雨などによる高潮や川のはん濫、土砂災害等）に対する防災意識に変化はありますか。（一つだけ○）

1. 紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）
3. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ったが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある
4. 紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった
6. 紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった

→問8へ

【問8】今年8月22日に発生した台風第10号の影響で、全国各地で大雨や暴風による被害が発生し、県内においても、特に中勢地域を中心に、記録的な大雨により浸水や河川の護岸損傷などの被害が発生しました。台風や大雨などによる風水害がお住まいの地域で発生、または発生が予想される場合、どのようなタイミングで避難しますか。（一つだけ○）

1. 大雨や暴風が見込まれる段階で事前に避難しておく
2. 警報や注意報などが発令されていなくても、大雨が降ったり暴風が吹いたりしたとき
3. 台風情報や気象警報・注意報、土砂災害警戒情報などの気象情報が発表されたとき
4. 避難指示や高齢者等避難などの避難情報が発令されたとき
5. 浸水や土砂崩れなどが発生したとき
6. その他 具体的に：（ ）

→問9へ

【問9】風水害が発生し、避難指示が発令されるなど自宅周辺が危険な状況にある場合、どこに避難することを考えていますか。（一つだけ○）

1. 緊急避難場所、避難所
2. 自宅の上階や崖から離れた部屋等（屋内安全確保）
3. 親戚・知人宅
4. ホテル・旅館
5. 車中泊避難
6. 特に考えていない
7. その他 具体的に：（ ）

→問10へ

【問 10】 お住まいの地域における風水害の危険性について、どの程度把握されていますか。
(いくつでも○)

1. 高潮による浸水の危険性があること
2. 川のはん濫による浸水の危険性があること
3. 内水はん濫*による浸水の危険性があること
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあること
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けない、安全な場所にあること
6. 地域の風水害の危険性についてあまり知らない、またはあまり考えたことがない

→問 11 へ

※内水はん濫：

局地的大雨等で下水道施設や小河川の水位が増加し、堤防から水が溢れなくても河川へ排水する川や下水道の排水能力の不足などが原因で、降った雨を処理できずに建物や土地、道路等が浸水する風水害

【問 11】 市町が発令する避難情報について、5段階の警戒レベル*を用いて伝達することとなっていますが、この警戒レベルを知っていますか。(一つだけ○)

1. 具体的な内容を知っている
2. 名称は知っているが、具体的な内容は知らない
3. 知らない

→問 12 へ

※警戒レベル：

災害発生のおそれの高まりに応じて、住民がとるべき行動を5段階に分けたもので、高齢者等避難は「警戒レベル3」、避難指示は「警戒レベル4」となります。「自らの命は自らが守る」という意識で、警戒レベル4までに避難することが必要です。

▶警戒レベルについて (県HP) : <https://www.pref.mie.lg.jp/STAISAKU/HP/000249704.htm>



【問 12】 近年各地で発生し、被害をもたらしている「線状降水帯*」について、その特徴や危険性、必要な対応について知っていますか。(一つだけ○)

1. 特徴や危険性、必要な対応を知っている
2. 名称は知っているが、特徴や危険性、必要な対応は知らない
3. 知らない

→問 13 へ

※線状降水帯：

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる強い降水をともなう雨域

線状降水帯が発生すると、数時間にわたってほぼ同じ場所で非常に激しい雨が降り続くため、大雨災害発生の危険性が急激に高まるおそれがあります。

▶線状降水帯に関する各種情報 (気象庁HP)：

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html



【問 15】 災害発生時やそのおそれがあるときにどのような情報を知りたいですか。
(いくつでも○)

1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・線状降水帯に関する情報等)
2. 河川情報(水位等)
3. 土砂災害に関する情報(土砂災害警戒区域、土砂災害警戒情報等)
4. 地震に関する情報(緊急地震速報、南海トラフ地震臨時情報等)
5. 避難情報(警戒レベル)
6. 避難所情報
7. 医療・救援情報
8. 交通・道路情報
9. ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信)情報
10. 県、市町からのお知らせ
11. 被害情報(詳細):文字による被害詳細情報
12. 被害情報(概要):地図情報
13. ライブカメラ等の映像情報
14. 災害、天気に関するニュース
15. その他 ((知りたい情報)具体的に:)
16. 特に知りたい情報はない

問 16 へ

【問 16】 県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」を知っていますか。
(一つだけ○)

1. 知っており、災害発生時やそのおそれがある時に見たことがある
2. 知っているが、災害時に見たことがない
3. 知らない
4. インターネット等の環境がない(スマートフォン等を持っていない)

→問 18 へ

→問 17 へ

→問 18 へ

【問 17】 問 16 で選択肢 2 と回答された方にお尋ねします。
災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。
(いくつでも○)

1. 他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから
2. 災害時に知りたい情報が掲載されていないから
3. 必要な情報が探しにくいから
4. 普段から災害情報を意識していないから
5. その他 (具体的に:)

→問 18 へ

★避難場所・避難所について

【問 18】 自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるか知っていますか。(一つだけ○)

1. 避難場所も避難所も知っている
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない

→問 19 へ

→問 21 へ

【問 19】 問 18 で選択肢 1～4 と回答された方にお尋ねします。

自宅付近の避難場所や避難所について、何によって知りましたか。(いくつでも○)

1. 市町窓口や市町から配布された避難所マップ等
2. 地域の活動や自治会の方から教えてもらった
3. 自治体のホームページ等
4. 防災アプリ
5. 街中の避難所の看板
6. その他 { 具体的に :

→問 20 へ

【問 20】 自宅付近の避難場所や避難所までの避難経路について、どのくらい知っていますか。
(一つだけ○)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

→問 21 へ

【問 21】 避難所で生活することが必要となった場合、特にどのようなことを重視しますか。
(3つまで○)

1. 食料や飲料水の確保
2. トイレの確保
3. 寝具の確保
4. 入浴環境の確保
5. 洗濯設備の確保
6. 冷暖房の整備
7. 電源の確保
8. 通信環境の確保
9. プライバシーの確保
10. 防犯・警備
11. ペットの同伴避難
12. その他 具体的に :

→問 22 へ

★日頃の防災対策について

【問 22】あなたの家では災害に備えて、どのような防災対策を行っていますか。

(いくつでも○)

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している（ひとり一日あたり3Lを目安としてください。）
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等について、電池交換等、こまめに点検している
5. 携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の予備電源（モバイルバッテリー）を確保している
6. 自家用車の燃料が半分程度になった時点で、給油をしている
7. 携帯トイレを準備している
8. マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している
9. 寝室にスリッパを置いている
10. いつも笛を身につけている
11. 消火器を用意している
12. 断水に備えてお風呂にいつも水を入れている
13. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
14. 転倒の危険性のある家具等を固定している
15. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
16. 寝室に転倒の危険性のある家具等を置かないようにしている
17. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
18. 感震ブレーカー※を設置している
19. 災害が起きたときに避難する場所を決めている
20. 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
21. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
22. ペットの防災用品（餌や水、ケージ等）を準備している
23. ペットの避難先の検討を行っている
24. その他（具体的に：

）
25. 特に対策はとっていない

※感震ブレーカー：地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する器具

→ 問 23 へ

【問 23】あなたは日頃の防災対策について家族や親戚、知人などの身近な人と話し合っていますか。（一つだけ○）

1. 日頃からよく話し合っている
2. 日頃から話し合っていないが、話し合ったことがある
3. 話し合ったことがない

→ 問 24 へ

★地域・職場での防災活動について

【問 24】 地域で実施される防災活動※に参加しようと思いますか。(一つだけ○)

- | |
|----------------------|
| 1. 積極的に参加したいと思っている |
| 2. 機会があれば参加したいと思っている |
| 3. あまり参加したいとは思わない |
| 4. 参加したくない |

→問 25 へ

※防災活動の例：避難訓練、消火訓練、救出・救助訓練、情報伝達訓練などの防災訓練、研修会や講習会、地域での話し合い、消防団の活動、企業や事業所も一緒になった防災活動 など

【問 25】 過去 1 年間に、お住まいの地域や職場での防災活動に参加したことがありますか。(一つだけ○)

※ 直近で開催される防災活動へ参加する予定がある場合は 1～3 に○をつけてください。

- | |
|-----------------------|
| 1. 地域の防災活動に参加した |
| 2. 職場の防災活動に参加した |
| 3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した |
| 4. 参加していない |

→問 26 へ

→問 27 へ

→問 26 へ

→問 28 へ

【問 26】 問 25 で選択肢 1 または 3 と回答された方にお尋ねします。

地域の防災活動に参加したきっかけはなんですか。(いくつでも○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 防災活動に興味があったから |
| 2. 自宅・地域の危険性や避難場所を知りたかったから |
| 3. 家族や友人から誘われたから |
| 4. 地域における声掛けがあったから |
| 5. その他 (具体的に：) |

→問 27 へ

【問 27】 問 25 で選択肢 1～3 と回答された方にお尋ねします。

参加した防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
2. 図上訓練 (災害状況を想定し、机上で対応する形式の訓練)
3. 夜間訓練 (夜間に行ったものに限らず、夜間の避難等を想定した訓練等を含む)
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 消防団の活動
13. 避難所体験訓練または避難所運営訓練
14. 企業や事業所も一緒になった防災活動
15. 災害ボランティアの受入訓練
16. その他 (具体的に：)

→問 29 へ

【問 28】 問 25 で選択肢 4 と回答された方にお尋ねします。

どのような防災活動であれば参加したいと思いますか。(いくつでも○)

1. 短い時間で実施できるもの
2. 家族で参加できるもの
3. 簡単な内容で気軽に参加できるもの
4. 年齢や性別等に関わらず誰でも参加できるもの
5. 地域のイベント等と合わせて行われるもの
6. 商業施設等で行われるもの
7. どれも参加したいと思わない
8. その他 (具体的に：)

→問 29 へ

【問 29】 地域や職場でこういった防災活動が実施されることが必要だと思いませんか。
(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
5. 地域の避難所を運営する訓練
6. 職場におけるBCP（事業継続計画）の作成やそれに基づく訓練
7. その他（具体的に：

→問 30 へ

※BCP（事業継続計画）：

自然災害などの緊急事態が発生した場合において、企業等が事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時や緊急時に事業を継続のための方法、手段などを取り決めておく計画

【問 30】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所にどのようなことを期待しますか。(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他（具体的に：

→問 31 へ

★学校の防災教育について

【問 33】子どもたちが災害から自分の命を守る力を身につけるとともに、災害時に地域の一人として行動できる力を身につけていくために、学校においてどのようなことに特に力を入れて取り組むことが必要だと思いますか。（いくつでも○）

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときにとるべき行動についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法やとるべき行動（危険な場所に近づかない等）についての学習
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 家庭や地域（自主防災組織や自治会など）と連携した避難訓練等の防災活動の実施
11. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
12. 救急・救命講習
13. その他（具体的に： _____）

→問 34 へ

【問 34】同居家族に小学生、中学生、高校生がいる方にお尋ねします。

防災ノート※等を活用しながら家庭の防災対策について話し合ったことはありますか。（一つだけ○）

1. 子どもが学校から持ち帰ってきた防災ノートを活用して、話し合ったことがある
2. 防災ノートを活用していないが、話し合ったことがある
3. 話し合ったことはない
4. その他（具体的に： _____）

→問 35 へ

※防災ノート：三重県教育委員会が県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の児童生徒に配布する防災教育用教材

同居家族に小学生、中学生、高校生がいない方は問 35 へお進みください。

★あなたのお住まいの耐震化について

【問 35】あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)

※ 増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

1. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）	→問 36 へ
2. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家）	
3. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 6 月以降、平成 12 年 5 月までに着工・建築された木造の家）	→問 37 へ
4. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 6 月以降、平成 12 年 5 月までに着工・建築された木造以外の家）	
5. 一戸建ての持ち家・借家（平成 12 年 6 月以降に着工・建築された家）	→質問終了です
6. アパート・マンション等の集合住宅	

【問 36】問 35 で選択肢 1 と回答された方にお尋ねします。

県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。

（いくつでも○）

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）	
2. 耐震補強設計費用への補助	
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）	→問 37 へ
4. 耐震性のない木造住宅の除却費用への補助	
5. どれも知らない	

【問 37】問 35 で選択肢 1～4 と回答された方にお尋ねします。

あなたのご自宅（借家を含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

1. 受けたことがない	→問 42 へ
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された	→問 38 へ
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった	→質問終了です

【問 38】問 37 で選択肢 2 と回答された方にお尋ねします。

耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 補強工事を行った	→問 39 へ
2. 建て替えた	→質問終了です
3. 除却（解体）した	
4. 現在検討中（補強設計のみ行った方を含む）	→問 41 へ
5. 工事を行うつもりはない	

○以下の項目に関してご意見、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。
今後の参考にさせていただきます。

■地震・津波対策について

■風水害対策について

■避難について

■防災に関する啓発活動について

■その他

(例：消防団、地域や企業の防災活動、避難行動要支援者対策、災害時の廃棄物処理等)

報告書名 令和6年度 防災に関する県民意識調査報告書

発行年月 令和7年6月

発行者 三重県防災対策部 防災対策総務課
〒514-8570 津市広明町 13 番地
TEL 059-224-2181
FAX 059-224-2199
e-mail btsumu@pref.mie.lg.jp